YAMAHA

J

RX-V767

AV レシーバー

取扱説明書

この製品には本書のほかに
「簡易接続・操作ガイド」が付属しています。
はじめに「簡易接続・操作ガイド」をご覧ください。

本書の「簡易ガイド」表記は、
「簡易接続・操作ガイド」への参照を表します。

本書および「簡易接続・操作ガイド」は
下記の URL から PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 **警告** この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

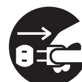
 **注意** この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

 警告

電源/電源コード



電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。
万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。



下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
- **異常なにおいや音がする。**
- **煙が出る。**
- **内部に水や異物が混入した。**

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



電源コードを傷つけない。
- **重いものを上に載せない。**
- **ステープルで止めない。**
- **加工をしない。**
- **熱器具には近づけない。**
- **無理な力を加えない。**

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。
それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池



電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。



電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止



分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

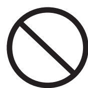
設置



本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。



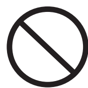
放熱のため本機を設置する際には:

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意



放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。



本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。



雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。



本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ

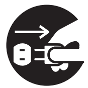


電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード



長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。



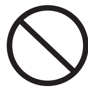
電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。



電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。



電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池


必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。


必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置


禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。


必ず実行

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。
重いので、けがの原因になります。


禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。


禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。


必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

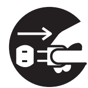

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。


必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動


プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意


必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。


禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。


禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。


注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。


禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ


必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。


禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。


注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

目次

簡易接続・操作ガイド（別紙）

はじめにご覧ください。
① スピーカー / サブウーファーを接続する
② テレビを接続する
③ BD/DVD レコーダーなどを接続する
④ FM/AM アンテナを接続する
⑤ 電源ケーブルをコンセントに接続する
⑥ テレビのリモコンで本機を操作する
⑦ スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）
基本操作

本機の特長

接続する

再生する

設定する

付録

本機の特長

本機の特長とできること

● 高音質ハイパワー 7 チャンネルアンプを内蔵

● 6 つの HDMI 入力端子を搭載し、オーディオリターンチャンネル機能と 3D 映像信号に対応

● 2 つの HDMI 出力端子を搭載

● ボタン 1 つで入力ソース / サウンドプログラムを切り替え可能（シーン機能）............................ 33

● 2 ～ 7.1 チャンネルのスピーカー構成に対応

● スピーカー出力の調整

● 外部機器の接続（最大 16 入力）と再生

● FM/AM チューナー

● マルチチャンネル / マルチフォーマット再生

● フロントパネルディスプレイおよびテレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）への情報表示

● 音量調節に関する機能

● リモコン

● オーディオを別の部屋で再生する（ゾーン機能）

● その他の機能

本機では多くの機能について、テレビ画面のメニューから操作が行えます。
テレビに表示される画面で行える操作について、詳しくは次ページの「テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）から操作する」をご覧ください。

本書について

- 本書は製品の生産に先がけて作成されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「4**HDMI1**」（例）などの表記は、リモコンキーの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、本書の **「リモコン」**（☞p.12）をご覧ください。
- 「**1**」などの表示は参考情報の参照を表します。対応する番号の説明をご覧ください。
- 「☞」は、関連情報が記載されているページを表します。
- 「簡易ガイド」は、簡易接続・操作ガイドへの参照を表します。

テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）から操作する

本機はオンスクリーンディスプレイをテレビ画面に表示します。オンスクリーンディスプレイを使うことでシンプルで直感的な操作が行えます。

オンスクリーンディスプレイは、そのとき選んでいる入力ソースについて表示するコンテンツ画面と、さまざまな設定などを行う ON SCREEN（オンスクリーン）、オプションという２つのメニューから構成されています。
ここではオンスクリーンディスプレイから行えるさまざまな操作について紹介します。

● 入力ソース、シーン、サウンドプログラムを選ぶ

選んでいる入力ソースを表示、変更する（コンテンツ画面）

● AM/FM チューナーを操作する

● iPodの曲/映像をオンスクリーンディスプレイに一覧表示する

本機のさまざまな設定を行う（ON SCREEN メニュー）

● 入力ソースを選ぶ、設定する

シーンを選ぶ、設定する

● 音場効果を選ぶ、調節する（サウンドプログラム）

● 本機の設定についての情報を表示する

● スピーカーと視聴環境に合わせて音響特性を調整する

● 本機から出力する音声信号を調節する

● 本機から出力する映像信号を調節する

● 複数の部屋で視聴する（マルチゾーン機能）

● その他の機能

● 言語を選ぶ

入力ソースごとに調節する（オプションメニュー）

各部の名称

フロントパネル

① MAIN ZONE ⏻（電源）キー
電源のオン / スタンバイを切り替えます。

② HDMI スルー /iPod チャージインジケーター
本機がスタンバイのとき、下記のいずれかの動作をすると点灯します。

- スタンバイスルー機能（☞p.67）をオンにしている場合。💡1
- iPod スタンバイチャージ機能 (☞p.54) をオンにして、ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックにセットした iPod/iPhone を充電している場合。
  ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステムが接続されている場合は常に点灯します（☞p.48）。

③ ZONE2（ゾーン 2）キー
ゾーン 2 への出力オン / オフを切り替えます（☞p.77）。

④ ZONE CONTROL（ゾーンコントロール）キー
ゾーン 2 への出力がオンのとき、本機をゾーン 2 が操作できる状態に切り替えます。本機またはリモコンで別の部屋の入力ソース選択や音量調整が行えます（☞p.77）。

⑤ INFO（インフォ）キー
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます (☞p.11)。

⑥ MEMORY（メモリー）キー
FM/AM放送局をプリセット局として登録します(☞p.43)。💡2

⑦ PRESET ‹ / ›（プリセット）キー
プリセットした FM/AM 放送局を選びます（☞p.44）。💡2

⑧ FM キー
FM/AM チューナーのバンドを FM に切り替えます（☞p.43）。💡2

⑨ AM キー
FM/AM チューナーのバンドを AM に切り替えます（☞p.43）。💡2

⑩ フロントパネルディスプレイ
本機の各種情報が表示されます（☞p.11）。

⑪ TUNING « / »（チューニング）キー
FM/AM チューナーの周波数を増減させます（☞p.43）。💡2

⑫ PURE DIRECT（ピュアダイレクト）キー
本機をピュアダイレクトモードに切り替えます（☞p.35）。

⑬ INPUT（インプット）セレクター
再生する入力ソースを選びます。セレクターを回すたびに入力ソースが順番に変わります。

⑭ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。音場効果をかけて再生しているときは、ヘッドホンの音声にも音場効果がかかります。

⑮ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO マイクを接続して、スピーカー設定を自動で最適化します（☞p.27、簡易ガイド）。

⑯ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー
スピーカー / ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します。
ヘッドホンを接続している場合はヘッドホンの高音 / 低音調節、ヘッドホンを接続していない場合はスピーカーの高音 / 低音を調節できます（☞p.32）。

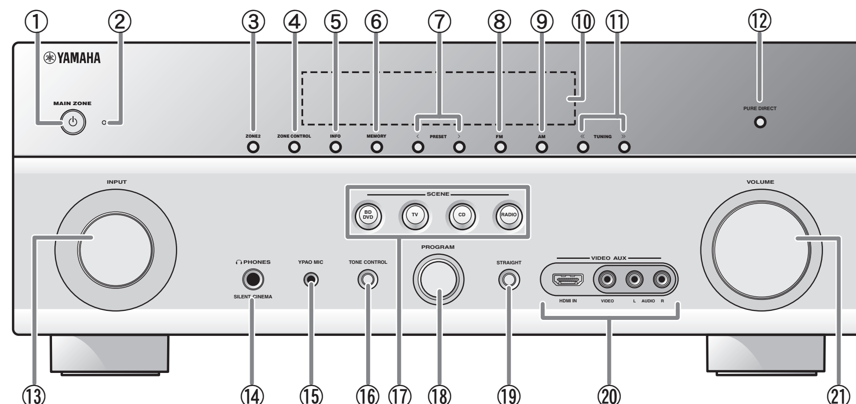
⑰ SCENE（シーン）キー
ボタン 1 つで登録した入力ソース、サウンドプログラム、HDMI 出力に切り替えます（☞p.37、p.55)。電源がスタンバイのときは、このキーを押して電源オン、入力ソース選択、サウンドプログラム切り替えまでを一括操作できます。

⑱ PROGRAM（プログラム）セレクター
使用する音場効果（サウンドプログラム）やサラウンドデコーダーを切り替えます (☞p.33)。セレクターを回すたびに、サウンドプログラムが順番に変わります。

⑲ STRAIGHT（ストレート）キー
サウンドプログラムをストレートデコードモードに切り替えます（☞p.34）。

⑳ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ゲーム機などを一時的に接続できます。
使用しない場合はホコリなどの汚れを防ぐために、付属の前面入力端子保護用キャップを取りつけてください(☞簡易ガイド)。

㉑ VOLUME（ボリューム）
音量を調節します。



💡 **1 :** スタンバイスルー機能がオンの場合、スタンバイ中にリモコンの 4 **HDMI1-5** を使って、テレビに出力する HDMI 入力を選択できます。
HDMI 入力が切り替わると、HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが 2 回点滅します。

💡 **2 :** チューナー入力を選んだときに使用できます。

リアパネル

① DOCK（ドック）端子
別売のヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（YDS-12 など）や iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）を接続します（☞p.46、p.50、p.54）。

② PHONO（フォノ）端子
レコードプレーヤーを接続します（☞p.22）。

③ HDMI OUT1-2（HDMI アウト 1-2）端子
HDMI 入力対応のテレビと接続し、映像 / 音声を出力します（☞p.17、簡易ガイド）。Audio Return Channel 機能（☞p.18）を使用したときは、この端子からテレビの音声が入力されます。

④ MONITOR OUT（モニターアウト）端子

D4 VIDEO 端子	：D 端子入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.21）。
COMPONENT VIDEO 端子（コンポーネントビデオ）	：コンポーネントビデオ入力対応のテレビと接続し、3 本のケーブルを使って映像を出力します（☞p.21）。
VIDEO 端子	：ビデオ入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.21）。

⑤ REMOTE IN/OUT（リモートイン / アウト）端子
リモート機能に対応する外部機器を接続します（☞p.25）。

⑥ HDMI1-5 端子
HDMI 出力対応の外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.21、簡易ガイド）。

⑦ ANTENNA（アンテナ）端子
FM アンテナと AM アンテナを接続します。

⑧ SPEAKERS（スピーカー）端子
フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを接続します（☞ 簡易ガイド）。
プレゼンススピーカー（☞p.14）やゾーン 2 に設置するスピーカー（☞p.15）は EXTRA SP 端子に接続します。

⑨ AC IN（AC イン）端子
電源コードを接続します（☞ 簡易ガイド）。

⑩ AV1-6 端子
映像 / 音声出力を持つ外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.21）。

⑪ AV OUT（AV アウト）端子
AV3-6やAUDIO1-2などのアナログ入力ソースを選んだ際、入力された映像 / 音声を外部へ出力します（☞p.26）。

⑫ AUDIO1-2（オーディオ 1-2）端子
アナログ音声出力を持つ外部機器と接続し、音声を入力します（☞p.21）。

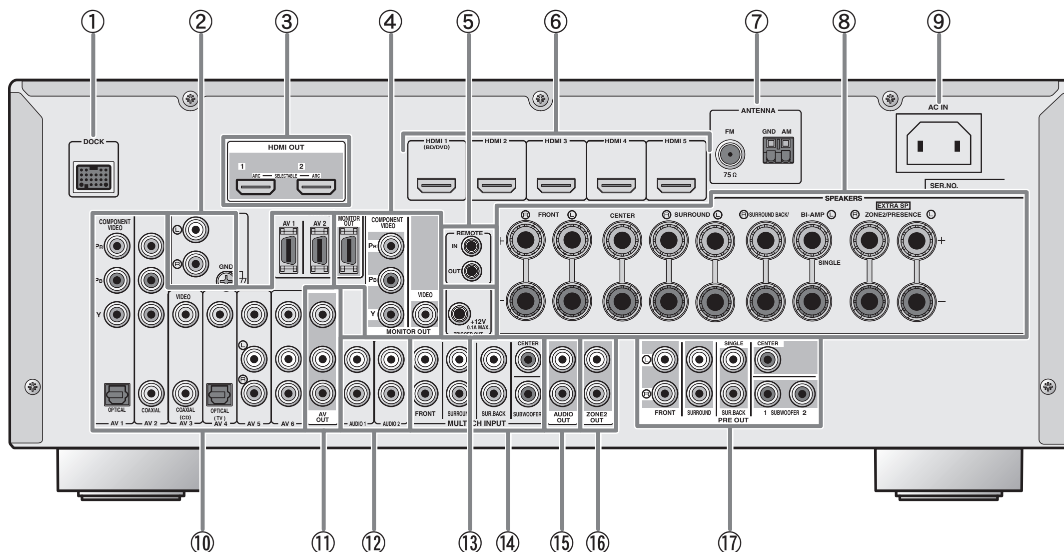
⑬ TRIGGER OUT（トリガーアウト）端子
本機と連動して動作するトリガー接続機能を搭載した外部機器を接続します（☞p.26）。

⑭ MULTI CH INPUT（マルチチャンネルインプット）端子
マルチチャンネル出力を持つ再生機器と接続します（☞p.24）。

⑮ AUDIO OUT（オーディオアウト）端子
AV5-6やAUDIO1-2などのアナログ入力ソースを選んだ際、入力された音声を外部へ出力します（☞p.26）。

⑯ ZONE2 OUT（ゾーン 2 アウト）端子
別の部屋に設置した外部アンプへ本機の音声信号を出力します（☞p.77）。

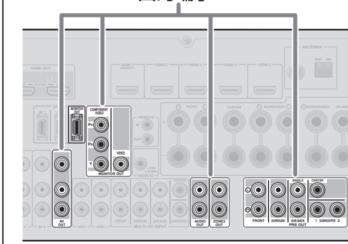
⑰ PRE OUT（プリアウト）端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続したり（☞ 簡易ガイド）外部パワーアンプなどを接続します（☞p.25）。



入出力端子の見分け方

映像/音声出力端子の周辺は、誤接続を防ぐために白くマークされています。テレビや外部機器への映像/音声出力はこれらの端子をご使用ください。

出力端子



フロントパネルディスプレイ

① HDMI インジケーター
HDMI 入力 1-5 のいずれかを選んだ際、正常に HDMI 信号が入力されると点灯します。

OUT 1/OUT 2 インジケーター
HDMI OUT 端子（☞ 簡易ガイド）から音声 / 映像信号が出力されると点灯します。

② CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター
シネマ DSP 技術を使った音場効果を選ぶと点灯します。

③ ENHANCER（エンハンサー）インジケーター
コンプレストミュージックエンハンサーがオンになっているときに点灯します（☞p.35）。

④ CINEMA DSP 3D(シネマ DSP 3D)インジケーター
シネマDSP 3Dモードがオンになっているときに点灯します（☞p.35）。

⑤ チューナーインジケーター
FM/AM 放送を受信すると「TUNED」が点灯します。ステレオで受信しているときは「STEREO」が点灯します。

⑥ SLEEP（スリープ）インジケーター
スリープタイマー（☞p.12）が動作すると点灯します。

⑦ ZONE2（ゾーン 2）インジケーター
本機からゾーン 2 への音声出力が有効となっているときに点灯します（☞p.77）。

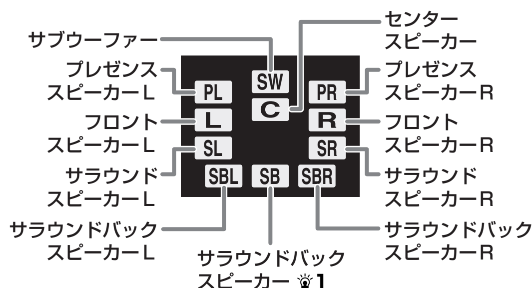
⑧ MUTE（ミュート）インジケーター
本機を消音すると点滅します。

⑨ VOLUME（ボリューム）インジケーター
現在の音量を表示します。

⑩ カーソルインジケーター
リモコンの 11 **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ を操作可能な場合に、キーに対応するインジケーターが点灯します。

⑪ マルチインフォメーションディスプレイ
設定値や設定メニューなど各種情報が表示されます。

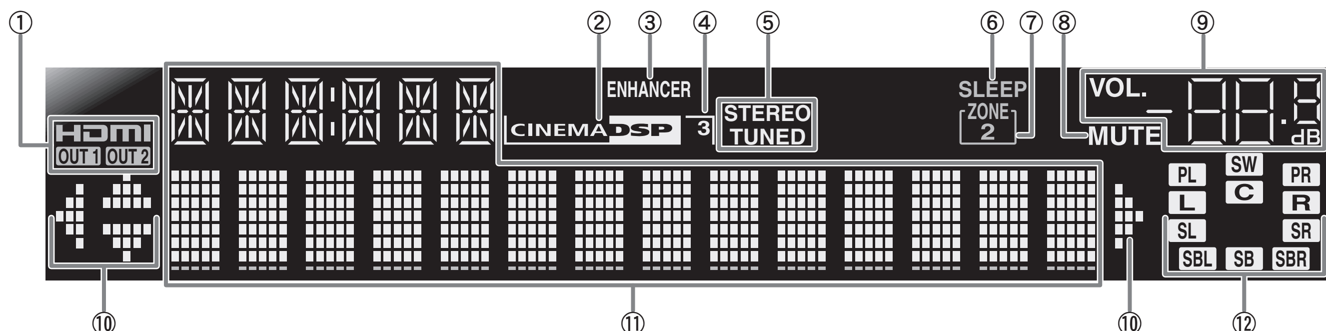
⑫ スピーカーインジケーター
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。



● フロントパネルディスプレイの表示を切り替えるには

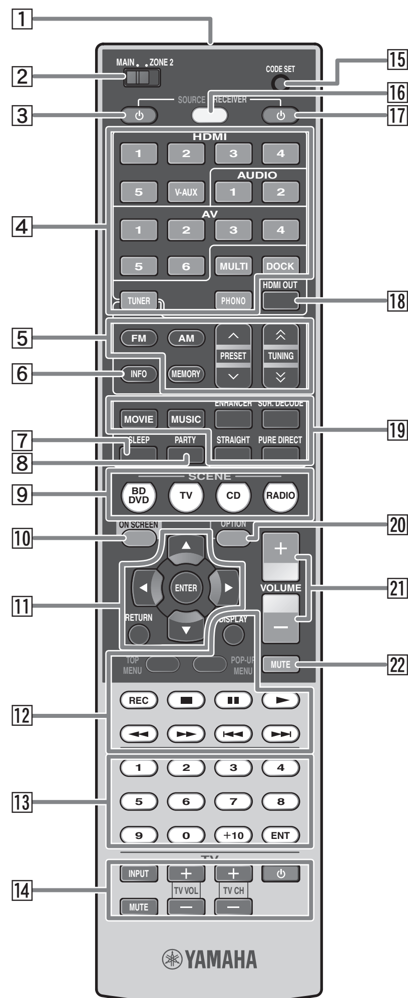
フロントパネルディスプレイには、選択中の入力ソース名以外に、サウンドプログラム名やサラウンドデコーダー名などを表示できます。表示を切り替えるには、リモコンの 6 **INFO**（またはフロントパネルの INFO）を繰り返し押します。キーを押すたびに入力ソース名 →サウンドプログラム（DSP プログラム）→サラウンドデコーダーの順に表示が切り替わります。☀2





☀ **1 :**「SB」は 6.1 チャンネル構成で使用しているときにのみ表示されます。
☀ **2 :** FM/AM チューナーの使用中は、入力ソース名の代わりに FM/AM 周波数が表示されます。

リモコン



① **リモコン信号送信部**
赤外線を送信します。

② **MAIN/ZONE2（メイン / ゾーン 2）スイッチ**
リモコンでメイン音場とゾーン 2（☞p.77）のどちらを操作するかを切り替えます。

③ **SOURCE ⏻（ソース電源）キー**
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

④ **入力ソース選択キー**
本機で再生する入力ソースを選びます。

HDMI1-5 キー	：HDMI1-5 端子
AV1-6 キー	：AV1-6 端子
AUDIO1-2 キー	：AUDIO1-2 端子
V-AUX キー	：フロントパネルの VIDEO AUX 端子
MULTI キー	：MULTI CH INPUT 端子
DOCK キー	：DOCK 端子に接続したヤマハ製の iPod 用ユニバーサルドック、iPod 用ワイヤレスシステム、または Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選択します。
TUNER キー	：FM/AM チューナーを選択します。
PHONO キー	：PHONO 端子

⑤ **チューナーキー**
FM/AM チューナーを操作します。これらのキーはチューナー入力のときに使用できます。

FM キー AM キー	：FM/AM チューナーのバンドを切り替えます。
MEMORY キー	：放送局をプリセット登録します。
PRESET ︿ / ﹀ キー	：登録されたプリセット局を呼び出します。
TUNING ︿︿ / ﹀﹀ キー	：FM/AM チューナーの周波数を増減させます。

⑥ **INFO（インフォ）キー**
フロントパネルディスプレイに表示する情報（選択中の入力ソース名、サウンドプログラム、サラウンドデコーダー、FM/AM チューナーの周波数など）を切り替えます。

⑦ **SLEEP（スリープ）キー**
指定した時間が経過すると自動でスタンバイになるよう設定します（スリープタイマー）。キーを繰り返し押すと、スタンバイまでの時間を設定できます。

Sleep 120min. → Sleep 90min. → Sleep 60min. → Sleep 30min. → Sleep Off

スリープタイマーの作動中は、フロントパネルディスプレイの SLEEP（スリープ）インジケーターが点灯します。

⑧ **PARTY（パーティー）キー**
パーティーモードのオン / オフを切り替えます（☞p.68）。

⑨ **SCENE（シーン）キー**
ボタン 1 つで入力ソースとサウンドプログラムを切り替えます（☞p.33）。本機の電源がスタンバイのときは、このキーを押して、電源オン、入力ソース選択、サウンドプログラム切り替えまでを一括操作できます。

⑩ **ON SCREEN（オンスクリーン）キー**
さまざまな設定が行えるON SCREENメニューを呼び出します（☞p.37）。

⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ キー、ENTER（エンター）キー、RETURN（リターン）キー**

カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ キー	：設定メニューなどを表示した際に、メニュー項目を選択したり、設定値を変更します。
ENTER キー	：選択された項目を決定します。
RETURN キー	：設定メニューを表示した際、1 つ手前の表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

⑫ **外部機器操作キー**
外部機器の録画/再生、メニュー表示などを操作します（☞p.71）。

⑬ **数字キー**
数値を入力します。

⑭ **TV 操作キー**
テレビなどの機器を操作します。

⑮ **CODE SET（コードセット）キー**
リモコンに外部機器操作用のコード（リモコンコード）を登録します（☞p.72）。

⑯ **SOURCE/RECEIVER（ソース / レシーバー）キー**
リモコンで本機か接続されている外部機器のどちらを操作するかを切り替えます。外部機器操作のときはキーが緑、本機を操作できるときはキーがオレンジ色に点灯します。

⑰ **RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー**
本機のオン / スタンバイを切り替えます。

⑱ **HDMI OUT（HDMI アウト）キー**
本機から音声/映像信号出力するHDMI OUT端子を切り替えます。

⑲ **音場選択キー**
使用する音場効果（サウンドプログラム）やサラウンドデコーダーなどを選択します（☞p.33）。

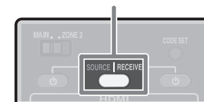
⑳ **OPTION（オプション）キー**
オプションメニュー（☞p.52）を表示します。

㉑ **VOLUME（ボリューム）+/– キー**
音量を調節します（☞p.32）。

㉒ **MUTE（ミュート）キー**
音声出力の消音 / 消音解除を切り替えます（☞p.32）。

次の症状が現れた場合は、新しい乾電池に交換してください。
- リモコンの操作範囲がせまくなった。
- ⑯**SOURCE/RECEIVER** が光らない、または光らなくなった。

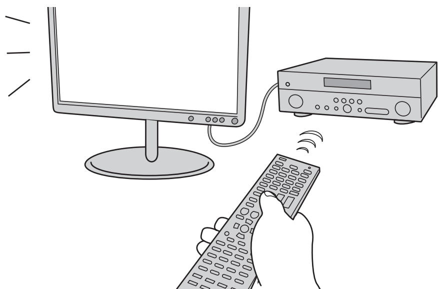
⑯**SOURCE/RECEIVER**



1：本機のリモコンは、入力ソースごとに ⑫**外部機器操作キー**などを使って登録した機器を操作できます。外部機器を操作するには、あらかじめ各入力ソースにリモコンコードを登録する必要があります（☞p.71）。

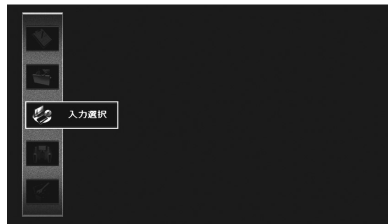
テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）について

本機にテレビを接続している場合は、付属のリモコンでテレビ画面に表示されるメニューを操作して本機の操作や設定が行えます。



オンスクリーンディスプレイには次のような画面が表示されます。

● オンスクリーン（ON SCREEN）メニュー



本機のさまざまな設定、操作を行えます。このメニューを使って入力ソースやサウンドプログラムなどの選択、さまざまな設定の変更、本機の状況表示などが行えます。
詳しくは**「設定する」**（☞p.52）をご覧ください。

表示するには
リモコンのON SCREEN キーを押す。

● オプションメニュー



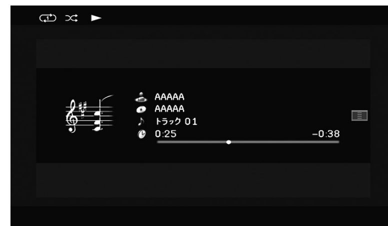
そのとき選んでいる入力ソースごとによく使う設定を個別で行えます。「トーンコントロール」や「再生レベル補正」などはすべての入力ソースに対して共通で設定されます。
詳しくは**「入力ソースごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.39）をご覧ください。

表示するには
リモコンの OPTION キーを押す。

● コンテンツ画面

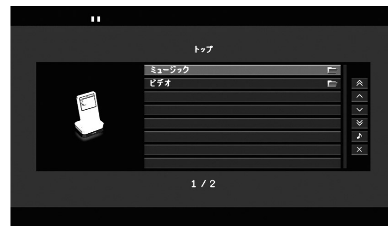
本機で DOCK（iPod）やチューナーなどの入力ソースを再生するときは、楽曲 / 放送局の情報表示や再生操作を行える画面をテレビに表示します。
この画面を**「コンテンツ画面」**と呼びます。
コンテンツ画面には**「再生画面」**と**「ブラウズ画面」**という 2 つの表示があり、表示を切り替えて楽曲などを選んだり、再生操作を行います。

再生画面



そのとき再生している楽曲などの情報を表示します。この画面からリモコンで再生操作ができます。

ブラウズ画面



入力ソースの楽曲や登録されている放送局などがリスト表示されます。リストから再生したい楽曲や放送局を選びます。

接続する

スピーカーの配置、スピーカーや外部機器との基本的な接続については**「簡易接続・操作ガイド」**をご覧ください。本書では応用接続 / 設定を説明します。

スピーカー / サブウーファーを接続する

本機は、さまざまな音場効果やサラウンドデコーダーを使って、著名なコンサートホールの包みこまれるような響きや映画館の迫力と臨場感を再現できます。これらの効果は、使用環境に合わせて適切にスピーカーを設置 / 接続することで実現されます。

チャンネルと機能

■ フロントスピーカー L/R

再生するソースのフロントチャンネル L/R の音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
フロントスピーカーは、リスニングルーム前方の左右へ、リスニングポジションから等距離に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適切です。

■ センタースピーカー

再生するソースのセンターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
センタースピーカーは、フロントスピーカー L/R の中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

■ サラウンドスピーカー L/R

再生するソースのサラウンドチャンネルの音声と効果音を出力します。5.1 チャンネルの場合は前方以外の周辺の音が出力されます。サラウンドバックチャンネルを含む 6.1/7.1 チャンネルシステムの場合は、左右から後方にかけての音が出力されます。

■ サラウンドバックスピーカー L/R

再生するソースの後方の効果音を出力します。6.1 チャンネルで使用する場合は、サラウンドバックの左右の音声がミックスされ 1 つのスピーカーから出力されます。5.1 チャンネルで使用する場合、サラウンドバックチャンネルの音声は、左右のサラウンドスピーカーに振り分けられます。

■ プレゼンススピーカー L/R

再生するソースの前方からの効果音を出力します。サウンドプログラム（☞p.33）と組み合わせることで、より豊かな音声と音場空間を再現できます。

■ サブウーファー

Dolby Digital、DTS、AAC などに含まれる LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドなどその他チャンネルの低音を出力します。サブウーファーはアンプ内蔵のものをご使用ください。💡**1**
サブウーファーは、リスニングルーム前方のフロントスピーカー L/R の外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

スピーカー / サブウーファーの接続

■ スピーカー

スピーカーの数に応じて**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」にある手順から以下の表を参照して接続してください。

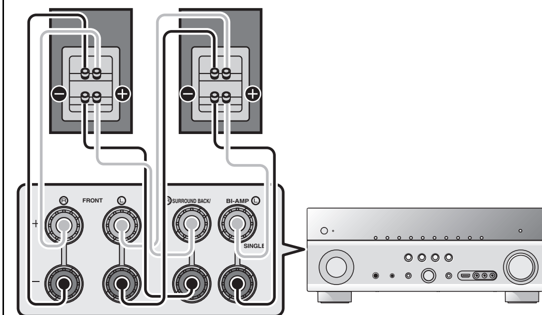
スピーカーの数	スピーカーの種類	接続手順
2	フロントスピーカー L/R	1
3	フロントスピーカー L/R、 センタースピーカー	1、2
4	フロントスピーカー L/R、 サラウンドスピーカー L/R	1、3
5	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 3
6 ～ 9	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 5

■ サブウーファー

サブウーファーを接続する場合は、**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」手順 6 を実施してください。

● スピーカーをバイアンプ接続する

本機は、バイアンプ接続対応のスピーカーを接続できます。スピーカーを接続する際は、FRONT 端子および SURROUND BACK/BI-AMP 端子を下図のように接続し、本機のバイアンプ機能をオンにします。



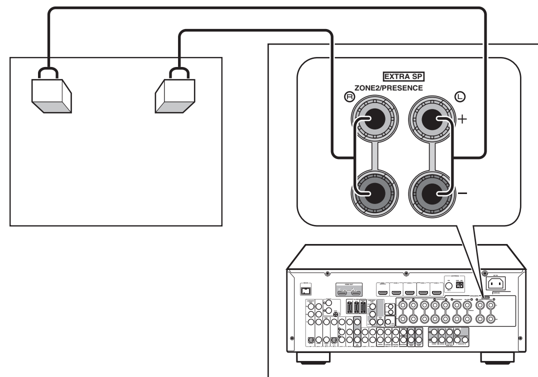
警告

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取りはずしてください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご確認ください。バイアンプ接続をしない場合は、上記の金具（またはケーブル）を必ず取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。
- バイアンプ接続する場合、サラウンドバックスピーカーは使用できません。

💡 **1：**サウンドプログラムやサラウンドデコーダー（☞p.33）を使用せずに CD などの 2 チャンネルの音声を再生した場合、サブウーファーからの音声が出力されないことがあります。この場合は、設定メニューの「エクストラベース」（☞p.63）を「オン」に設定してください。

● 本機の内蔵アンプを使って別の部屋のスピーカーを接続する（マルチゾーン接続）

別の部屋のスピーカーをEXTRA SP端子に繋いで下図のように接続します。



ご注意

本機の EXTRA SP 端子に、スピーカーセレクターを接続しないでください。また、同端子の各チャンネルに 2 本以上のスピーカーを接続しないでください。インピーダンスが低下して本機が故障する原因になります。

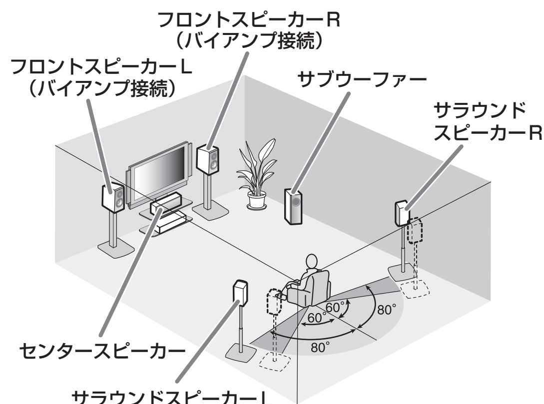
スピーカー構成を選ぶ

5.1 チャンネル、7.1 チャンネル、プレゼンススピーカーを使った構成については「簡易接続・操作ガイド」をご覧ください。

■ フロントスピーカーをバイアンプ接続して高音質を楽しむ

● 5.1 チャンネルのスピーカー構成（フロントスピーカー× 2（バイアンプ）＋スピーカー× 3）

バイアンプ接続に対応したスピーカーを使用することで、より高音質の再生を楽しめます。



● スピーカーの接続

スピーカー構成に合わせ、スピーカーを以下の端子へ接続します。接続の詳細については前ページをご覧ください。

スピーカー端子	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、SUBWOOFER
EXTRA SP 端子	使用しません

● スピーカー構成へのパワーアンプ割り当て

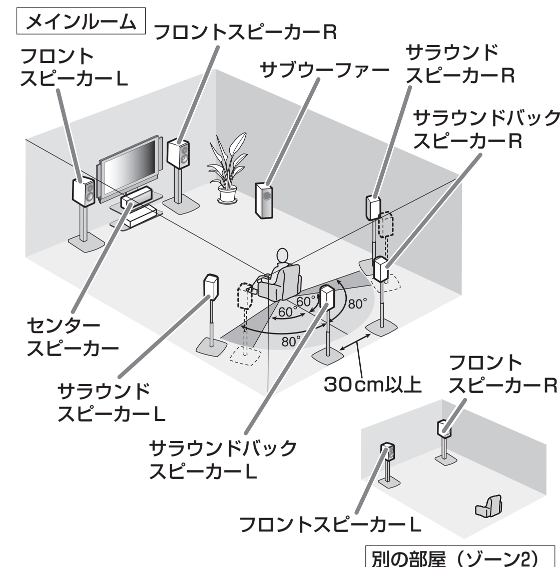
「パワーアンプ割り当て」で構成を本機へ反映します（☞p.61）。

パワーアンプ割り当て	5ch BI-AMP

■ 2 つの部屋でスピーカーを使う（ゾーン 2 機能）

● 7.1 チャンネルのスピーカー構成＋ゾーン 2
メインルーム：スピーカー× 7 ＋サブウーファー
別の部屋（ゾーン 2）：フロントスピーカー

本機を設置しているメインのリスニング環境に加えて、別の部屋のスピーカーも制御できます。💡1



● スピーカーの接続

スピーカー構成に合わせ、スピーカーを以下の端子へ接続します。接続の詳細については前ページをご覧ください。

スピーカー端子	FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、SUBWOOFER
EXTRA SP 端子	ゾーン 2 のスピーカーを接続

● スピーカー構成へのパワーアンプ割り当て

「パワーアンプ割り当て」で構成を本機へ反映します（☞p.61）。

パワーアンプ割り当て	7ch +1ZONE

💡 **1：** サラウンドバックスピーカーとゾーン 2 のスピーカーから同時には音声を出力できません。

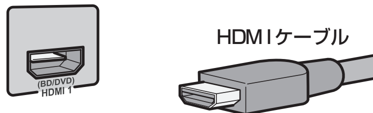
入出力端子とケーブル

本機は次のような入出力端子を装備しています。接続したい外部機器側の端子に合わせて適切なケーブルを使い、接続する必要があります。

映像および音声を入出力する端子

HDMI 端子

デジタル映像およびデジタル音声を 1 つの端子で伝送します。
接続には、HDMI ケーブルを使用します。

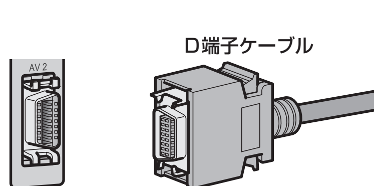


- 接続には HDMI ロゴのついた標準サイズの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の品質劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。
- 本機に 3D 映像形式対応のプレーヤーやテレビを接続している場合は、3D の映像ソフトを再生できます。
- HDMI　とオーディオリターンチャンネル機能を搭載したテレビを本機に接続する場合は、テレビから本機への音声 / 映像出力と本機からテレビへの音声出力を HDMI ケーブル一本で通信できます（☞p.18）。
- DVI 端子を搭載した機器と本機を接続する際は、HDMI—DVI-D ケーブルが必要です。

映像を入出力する端子

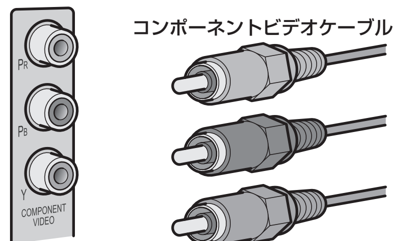
D 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離し、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を含めて伝送します。
接続には D 端子ケーブルを使用します。



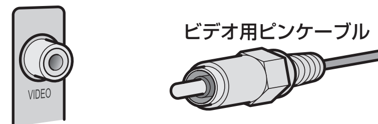
COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離して伝送します。
接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントビデオケーブルを使用します。



VIDEO 端子

標準的なアナログビデオ映像を伝送します。
接続には、ビデオ用ピンケーブルを使用します。



音声を入出力する端子

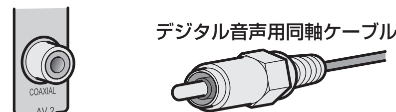
OPTICAL 端子

光デジタル音声を伝送します。
接続には、光デジタル音声用の光ファイバーケーブルを使用します。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、キャップを取り外してからご使用ください。



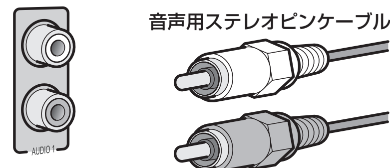
COAXIAL 端子

同軸デジタル音声を伝送します。
接続にはデジタル音声用の同軸ケーブルを使用します。



AUDIO 端子

標準的なアナログステレオ音声を伝送します。
接続にはステレオピンケーブルを使用し、赤いケーブルのプラグを R 端子（赤）、白いケーブルのプラグを L 端子（白）へ接続します。



テレビを接続する

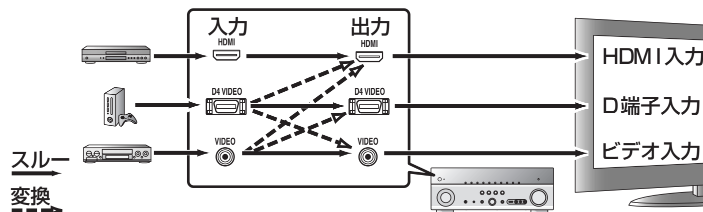
本機にはテレビ接続用として3系統の出力端子（HDMI OUT 1-2、D4 VIDEO/COMPONENT OUT、VIDEO）が用意されています。ご使用のテレビの入力端子に合わせて、適切に接続してください。

● HDMI を使って接続した場合

本機に入力された D 端子、コンポーネントビデオ、ビデオなどの映像は、HDMI に変換されてテレビへと出力されます。テレビ側で HDMI 入力を選ぶだけで、本機に接続されたすべての外部機器の映像を視聴できます。💡1

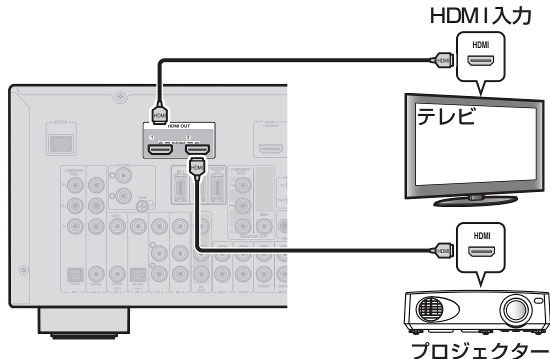
■ D 端子やビデオ端子などを使って接続した場合

同じ種類の出力端子をテレビと接続し、再生する外部機器に合わせてテレビの入力を切り替えて視聴します。外部機器からのアナログ映像出力端子とテレビの入力端子の種類が異なる際は、テレビの映像入力端子に合わせて映像信号を変換できます。💡2、💡3



■ HDMI 入力対応のテレビ

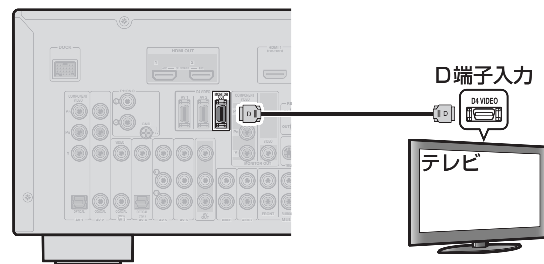
本機の HDMI OUT 1-2 端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブルで接続します。



- 接続には HDMI ロゴのついた 19 ピンの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の信号劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。
- 本機のHDMI OUT 1-2 端子は設定で選んでいる端子だけが有効となっています（☞p.32）。有効にする HDMI OUT 端子は本機の「シーン選択」機能に登録しておくことができます（☞p.33）。

■ D 端子（またはコンポーネントビデオ）入力対応のテレビ

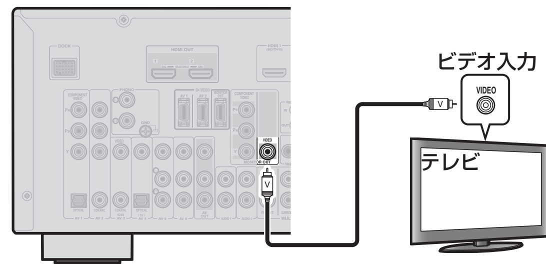
本機の D4 VIDEO 端子（MONITOR OUT）とテレビの D 端子入力を D 端子ケーブルで接続します。💡4



- コンポーネントビデオ入力対応のテレビと接続する場合は、COMPONENT VIDEO 端子（MONITOR OUT）とテレビのコンポーネントビデオ入力を接続します。
- MONITOR OUTのD4 VIDEO端子とコンポーネントビデオ端子からは同じ映像がテレビに出力されます。D4 VIDEO 端子でテレビと接続した場合、コンポーネントビデオ端子を接続する必要はありません。

■ ビデオ入力対応のテレビ

MONITOR OUT の VIDEO 端子とビデオ用ピンケーブルで接続します。💡4



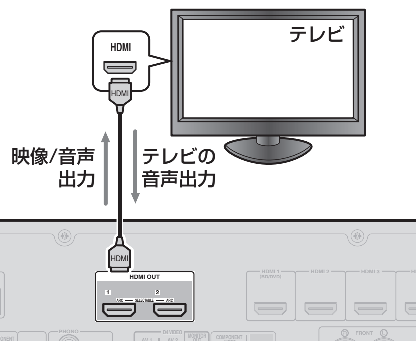
💡1：HDMI に変換される際の解像度やアスペクト比は、必要に応じて変更できます（☞p.66）。
💡2：「アナログ端子間変換」を「オン」にしてください（☞p.66）。
💡3：アナログ端子間変換は解像度 480i/576i の映像信号でのみ行われます。
💡4：テレビと HDMI 接続している場合、本機に入力された映像は HDMI 映像に変換されてテレビへと出力されます。D 端子 / コンポーネントビデオ端子、ビデオ端子をテレビに接続する必要はありません。

テレビの音声を本機で聴く

テレビの音声を本機で聴きたい場合は、本機と接続したテレビの機能に応じて次のいずれかの方法でテレビの音声を本機に入力してください。

■ HDMIコントロール機能およびオーディオリターンチャンネル機能に対応しているテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）と Audio Return Channel機能の両方に対応している場合は、本機とテレビを接続した HDMI ケーブル 1 本で、テレビへの映像 / 音声出力、本機への音声入力の両方が実現できます。
Audio Return Channel 機能は、テレビへ映像 / 音声出力をしている HDMI ケーブルを使って、ステレオ PCM や AAC など光 / 同軸デジタル相当の音声を AV アンプ / レシーバーに出力する機能です。テレビ側で音声出力を伴う操作をすると、HDMI コントロール機能により本機の入力ソースが自動で変わるため、本機側を操作せずにテレビの音声を視聴できます。



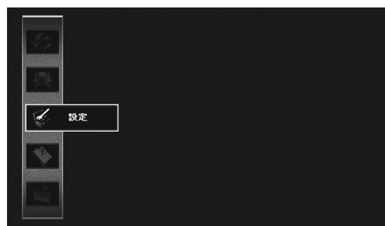
テレビから入力された音声は、AV1-6 などの入力ソースに割り当てられます。使用しない入力ソースにテレビの音声を割り当てれば、使用中の入力ソースの接続を変えることなくテレビの音声を視聴できます。

1 テレビと本機をHDMIケーブルで接続する。

2 テレビの電源をオンにして、本機を接続した映像入力に切り替える。

3 ⑩**ON SCREEN** を押す。💡**1**

4 ⑪**カーソル △ / ▽** を使って「設定」を選び、⑪**ENTER** を押す。



5 ⑪**カーソル ◁ / ▷** を使って「HDMI 設定」を選び、⑪**ENTER** を押す。



6 「HDMI コントロール」がオンに設定されていることを確認する。💡**2**
オフに設定されている場合は、⑪**カーソル △ / ▽** を使ってオンを選択してください。

7 ⑪**カーソル ▽** を押して「コントロール選択」を選び、⑪**ENTER** を押す。

8 ⑪**カーソル △ / ▽** を使ってテレビに接続している HDMI OUT 端子を選び、⑪**ENTER** を押す。

9 ⑪**カーソル ▽** を押して「TV 音声入力」を選び、⑪**ENTER** を押す。

10 ⑪**カーソル △ / ▽** を使ってテレビの音声を割り当てたい入力ソースを選び、⑪**RETURN** を押す。💡**1**

11 ⑪**カーソル △ / ▽** を押して「ARC（オーディオリターンチャンネル）」を選び、⑪**ENTER** を押す。

12 ⑪**カーソル ▽** を押してオンを選ぶ。

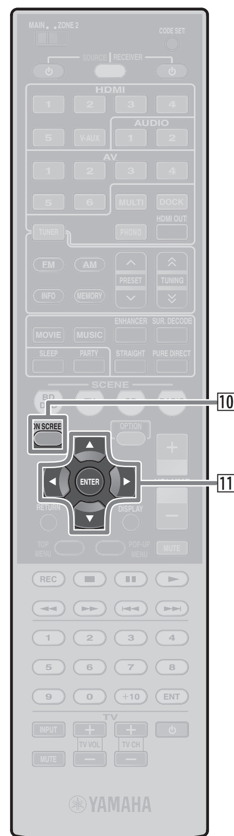
13 ⑩**ON SCREEN** を押して設定を終了する。

TV 番組が再生される操作をすると、本機の入力ソースが手順 10 で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

- シーン機能を使って入力ソースを選択している場合も、HDMI コントロール機能により「TV 音声入力」で設定した入力端子に自動的に切り替わります。
- シーン機能を使ってサウンドプログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーの入力ソースを手順 10 で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.33）をご覧ください。
- ④**入力ソース選択キー**を使って「TV 音声入力」で選択した入力ソースを手動で選択することもできます。

④ **入力ソース選択キー**
⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**

💡**1 :** ON SCREEN メニューについての詳しい説明は**「テレビ画面を使って本機を操作する」**（☞p.37）をご覧ください。
💡**2 :** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。

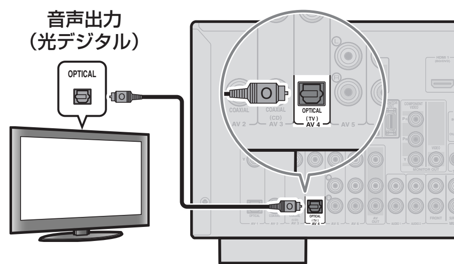


⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

■ HDMI コントロール機能に対応しており、Audio Return Channel に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）に対応している場合、本機の HDMI コントロール機能をオンにするとテレビ側の操作に連動して入力ソースを自動で切り替えできます。あらかじめテレビの音声出力を本機に接続しておけば、テレビ側の操作だけでテレビの音声が視聴可能になります。

テレビが本機の HDMI OUT 1 端子と接続されている場合、工場出荷時には、AV4 に切り替わるよう設定されており、テレビの光デジタル音声出力を AV4 端子に接続すれば、本機の設定を変更せずにテレビの音声を楽しむことができます。



テレビが本機の HDMI OUT 2 端子と接続されている場合、HDMI コントロール機能で連動する入力ソースが工場出荷時には AV1 に設定されています。この際はテレビの光デジタル音声出力をAV1 端子に接続することをおすすめします。

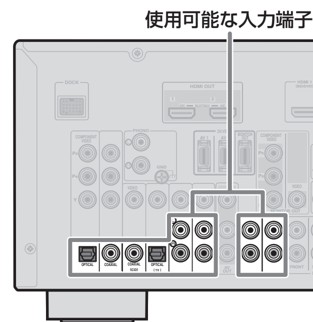
他の端子に接続したい場合は、次の手順で音声入力端子を変更できます。

1 **本機とテレビを HDMI ケーブルで接続する。**

2 **テレビの音声出力端子を本機の入力端子に接続する。**

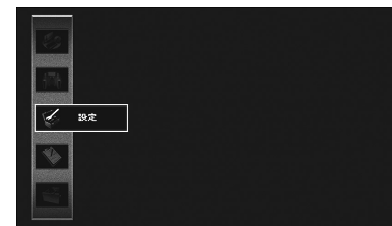
テレビの音声入力用として、次の入力端子が使用できます。テレビ側の音声出力端子と同じ端子にケーブルを接続してください。

テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AV1 または AV4（初期設定）	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AV2 または AV3	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つ	ステレオピンケーブル



3 **⑩ON SCREEN を押す。**💡**1**

4 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「設定」を選び、⑪ENTER を押す。**



5 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使って「HDMI 設定」を選び、⑪ENTER を押す。**



6 **「HDMI コントロール」がオンに設定されていることを確認する。**💡**2**

オフに設定されている場合は、⑪**カーソル △ / ▽** を使ってオンを選択してください。

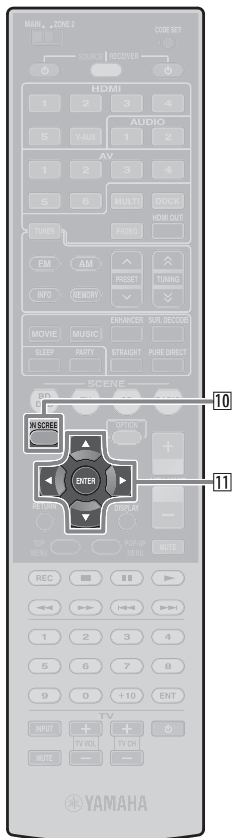
7 **⑪カーソル ▽ を押して「コントロール選択」を選び、⑪ENTER を押す。**

8 **⑪カーソル △ / ▽ を使ってテレビに接続している HDMI OUT 端子を選ぶ。**

次ページにつづく

💡**1：** ON SCREEN メニューについての詳しい説明は**「テレビ画面を使って本機を操作する」**（☞p.37）をご覧ください。

💡**2：** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。



⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷
⑪ **ENTER**

9 ⑪カーソル ▽ を押して「TV 音声入力」を選び、⑪ENTER を押す。

10 ⑪カーソル △ / ▽ を押して、手順 2 で選んだ本機の入力端子を選ぶ。

11 ⑩ON SCREEN を押して設定を終了する。

以降はテレビ側で音声出力されると、本機の入力ソースが手順 10 で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

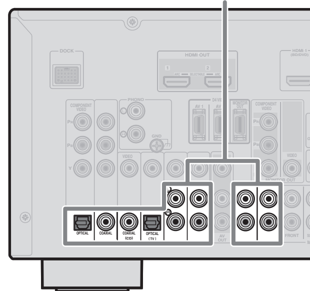
シーン機能を使ってサウンドプログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーの入力ソースを手順 10 で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.33）をご覧ください。

■ HDMIコントロール機能およびAudio Return Channel 機能に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック ビエラリンクなど）に対応していない場合は、AV1-6 や AUDIO1-2 とテレビの音声出力端子を接続し、本機側の操作で入力ソースを選択します。

テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AV1 または AV4 （初期設定：AV4）	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AV2 または AV3	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つ	ステレオピンケーブル

使用可能な入力端子



- テレビ側が光デジタル音声出力に対応している場合は、テレビのオーディオ出力を本機の AV4 に接続することをおすすめします。工場出荷時には「SCENE」キーの「TV」を押すと AV4 が選ばれるよう設定されており、キー操作 1 つでテレビの音声が再生できます。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.33）をご覧ください。
- 本機のリモコンを使ってテレビを操作することも可能です。テレビを操作するには、本機のリモコンにお使いのテレビのリモコンコードを登録します（☞p.71）。

BD（ブルーレイディスク）/DVD プレーヤー（レコーダー）などの再生機器を接続する

本機には、入力ソースごとに接続端子が用意されています。フロントパネルやリモコンで対応する入力ソースを選ぶと、該当する機器の映像や音声が再生できます。
使用するケーブルは**「入出力端子とケーブル」**（☞p.16）をご覧ください。

BD/DVD プレーヤーなどの再生機器を接続する

お手持ちの機器の出力端子をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	信号の種類	出力端子		
HDMI 出力を持つ外部機器	音声 / 映像	HDMI	Ⓐ HDMI1（BD/DVD）	HDMI1
			Ⓑ HDMI2	HDMI2
			Ⓒ HDMI3	HDMI3
			Ⓓ HDMI4	HDMI4
			Ⓔ HDMI5	HDMI5
			Ⓛ VIDEO AUX	HDMI IN
コンポーネントビデオ /D 端子出力を持つ外部機器	音声	光デジタル	Ⓕ AV1	OPTICAL
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
	音声	同軸デジタル	Ⓖ AV2	COAXIAL
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
ビデオ出力を持つ外部機器	音声	同軸デジタル	Ⓗ AV3（CD）	COAXIAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	光デジタル	Ⓘ AV4（TV）	OPTICAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ（ステレオ）	Ⓙ AV5	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ（ステレオ）	Ⓚ AV6	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ（ステレオ）	Ⓛ VIDEO AUX	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO

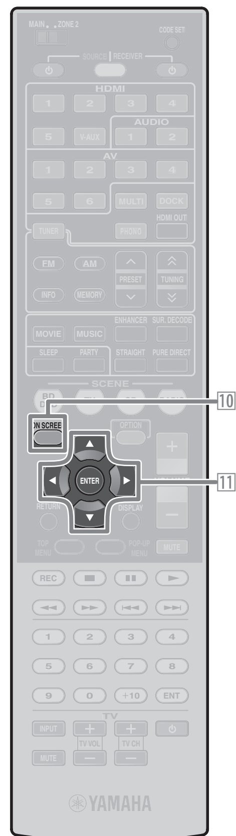
次ページにつづく

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続する

お手持ちの機器の出力端子をご確認のうえ、接続方法を選んでください。

接続する外部機器の出力端子		本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	出力端子		
光デジタル出力を持つ外部機器	光デジタル	Ⓐ AV1	OPTICAL
		Ⓓ AV4（TV）	OPTICAL
同軸デジタル出力を持つ外部機器	同軸デジタル	Ⓑ AV2	COAXIAL
		Ⓒ AV3（CD）	COAXIAL
アナログ音声（ステレオ）出力を持つ外部機器	アナログ（ステレオ）	Ⓔ AV5	AUDIO
		Ⓕ AV6	AUDIO
		Ⓖ AUDIO1	AUDIO
		Ⓗ AUDIO2	AUDIO
		Ⓙ VIDEO AUX	AUDIO
レコードプレーヤー	アナログ	Ⓘ PHONO	PHONO

- 光デジタルケーブルをご使用になる際、プラグの先端に保護キャップが付いている場合は取り外してください。
- 工場出荷時には「SCENE」キーの「BD/DVD」を押すと HDMI1 が選ばれるよう設定されています。
- 工場出荷時には「SCENE」キーの「CD」を押すと AV3 が選ばれるよう設定されています。
- 「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.33）をご覧ください。
- 本機の設定を変更して、別の入力ソースの音声入力端子を対応する入力ソースと組み合わせることができます。詳細は **「HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる」**（☞p.23）をご覧ください。



⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる

HDMI1-5/AV1-2 入力を使用する際は、音声のみを他の入力端子（AV1-6 や AUDIO1-2）からの入力に差し替えられます。たとえば外部機器が HDMI 端子から音声出力できない場合は、音声入力する端子を変更できます。次のような場合に使うと便利です。

- HDMI経由で音声出力できない外部機器をHDMI接続したいとき
- 映像出力がD端子、音声出力がアナログ音声の外部機器（一部ゲーム機など）を接続したいとき

設定方法は次の通りです。

1 **映像 / 音声ケーブルを接続する。**

外部機器の音声出力が光デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV1 または AV4 の音声入力端子と外部機器を光ファイバーケーブルで接続します。

外部機器の音声出力が同軸デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV2 または AV3 の音声入力端子と、外部機器をデジタル音声用同軸ケーブルで接続します。

外部機器の音声出力がアナログステレオ端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つの音声入力端子と、外部機器をステレオピンケーブルで接続します。

2 **⑩ON SCREEN を押して ON SCREEN メニューを表示させる。** ☝**1**

3 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「入力選択」を選び、⑪ENTER を押す。**

4 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使って外部機器の映像出力を接続した HDMI 入力を選び、⑪カーソル △ を押す。**

たとえば手順 3 で HDMI2 を選んだ場合、テレビに次の画面が表示されます。



5 **⑪カーソル ▽ を押して「音声入力端子割り当て」を選び、⑪ENTER を押す。**

6 **⑪カーソル △ / ▽ を押して、割り当てたい音声入力端子を選ぶ。**

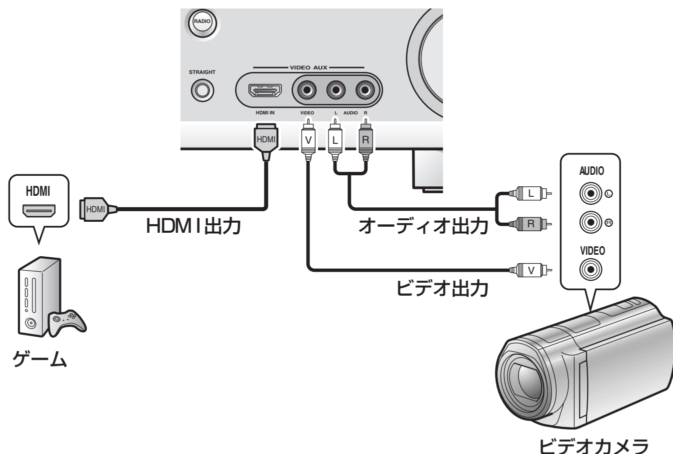
7 **設定が終わったら、⑩ON SCREEN を押して ON SCREEN メニューを終了する。**

> 設定を元に戻したいときは、もう一度メニューを表示して設定していた入力端子を変更してください。

☝**1 :** ON SCREEN メニューについての詳しい説明は**「テレビ画面を使って本機を操作する」**（☞p.37）をご覧ください。

外部機器をフロントパネルの端子に接続する

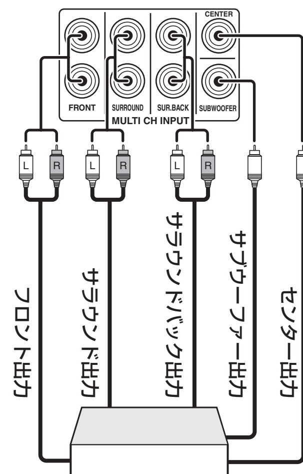
ビデオカメラやゲームなどの機器を一時的に接続したい場合は、フロントパネルのVIDEO AUX 端子を利用すると便利です。
接続した外部機器を再生するときは、入力ソースに「V-AUX」を選びます。



- 接続する際は、再生機器を停止させ、本機の音量を十分に下げてください。接続が終わったら、本機と再生機器の両方の音量を上げてください。
- VIDEO AUX の HDMI IN 端子と VIDEO/AUDIO 端子の両方に機器を接続した場合は、HDMI 側の入力のみが有効となります。

マルチチャンネル出力端子がある機器を接続する

本機にはマルチチャンネルアナログ音声信号を入力する MULTI CH INPUT 端子を搭載しています。DVD プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーなど、マルチチャンネルアナログ音声出力端子がある機器と本機を接続して、マルチチャンネル音声をお楽しみいただけます。
接続した機器の音声を再生するときは、入力ソースに「MULTI CH」を選びます。



DVDプレーヤー、スーパーオーディオCDプレーヤーなど
（7.1 チャンネル出力）

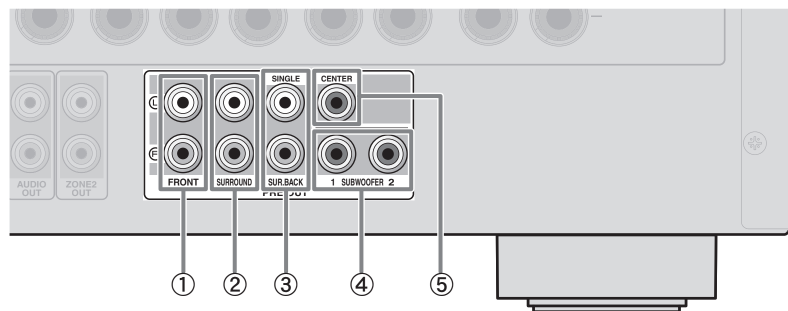
- 入力ソースで「MULTI CH」を選択すると、サウンドプログラムよる音場効果とトーンコントロールの設定は無効になります。
- スピーカーが接続されていないチャンネルの音声は出力されません。接続したスピーカーの構成にあわせて、マルチチャンネル機器を設定してお楽しみください。
- マルチチャンネルアナログ信号の音声と同時に楽しむ映像入力を選択できます（☞p.54）。DVD プレーヤーなどの機器がマルチチャンネルデジタル出力に対応していない場合は、マルチチャンネルアナログ音声出力を本機の MULTI CH INPUT 端子に、映像出力を本機の HDMI1-5 端子、または AV1-6 や VIDEO AUX の映像端子に接続してください。

外部パワーアンプを接続する

PRE OUT 端子からは、対応するスピーカーと同じチャンネルの音声が出力されます。スピーカー出力を高めるために外部パワーアンプ（プリメインアンプ）をお使いになる場合は、本機の PRE OUT 端子と外部パワーアンプの入力端子を接続します。

ご注意

PRE OUT 端子を使って接続する場合は、接続したチャンネルに対応する SPEAKERS 端子にスピーカーを接続しないでください。



① FRONT（PRE OUT）端子
フロント L/R チャンネルの音声を出力します。

② SURROUND（PRE OUT）端子
サラウンド L/R チャンネルの音声を出力します。

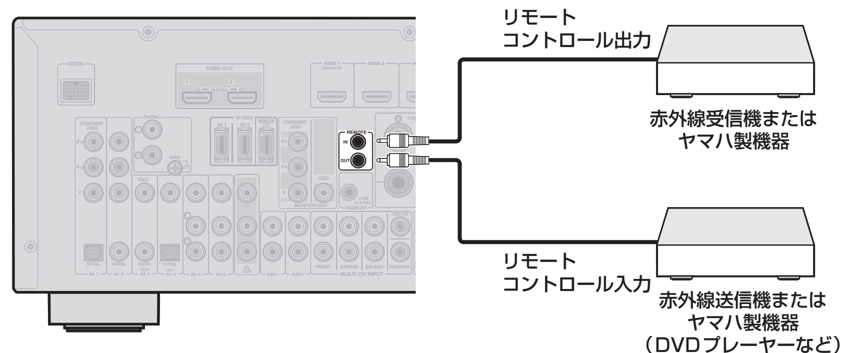
③ SUR. BACK（PRE OUT）端子
サラウンドバック L/R チャンネルの音声を出力します。
外部パワーアンプを 1 つだけ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。

④ SUBWOOFER（PRE OUT）1/2 端子
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。SUBWOOFER2 端子に接続したサブウーファーからは、SUBWOOFER1 端子と同じ音声が出力されます。

⑤ CENTER（PRE OUT）端子
センターチャンネルの音声を出力します。

シーン連動再生に対応する機器を接続する

シーンコントロール信号の送受信に対応するヤマハ製機器をお使いの場合は、下図のようにモノラルミニプラグケーブルで本機の REMOTE IN 端子および REMOTE OUT 端子と接続してください。

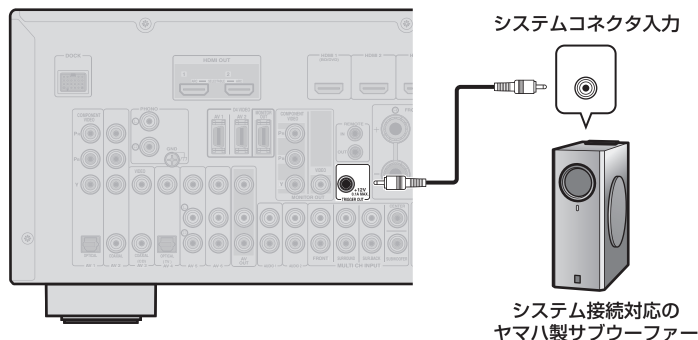


- REMOTE OUT 端子にヤマハ製のシーン連動に対応している機器を接続している場合は、本機のシーン機能を使うと連動して再生が始まります（シーン リモコン連動機能）（☞p.55）。
- REMOTE OUT 端子に接続している機器がヤマハ製でない場合は、シーンメニューの「シーンリモコン連動」を「オフ」に設定してください（☞p.55）。

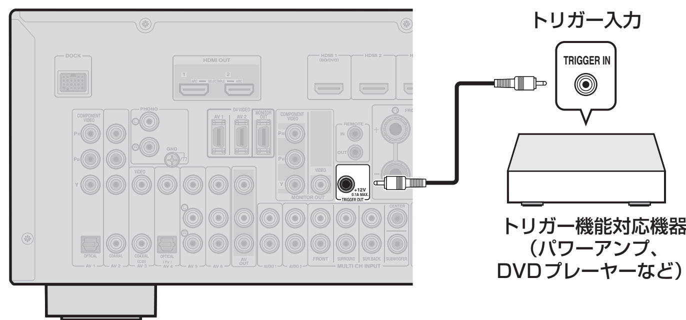
トリガー機能に対応する機器を接続する

システム接続に対応しているヤマハ製のサブウーファーや、トリガー入力端子がある機器と本機を接続すると、本機を操作して電源のオン / オフを切り替えられます。

ヤマハ製サブウーファーの場合

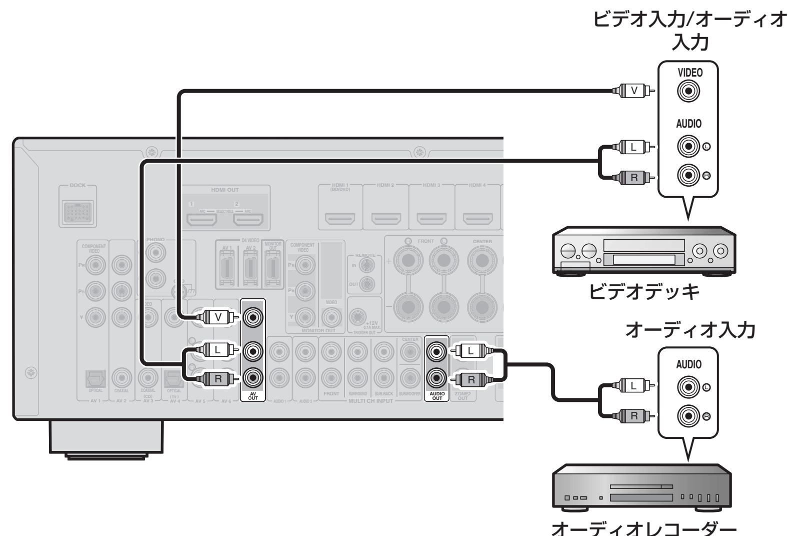


トリガー機能対応の外部機器の場合



入力された映像 / 音声を外部機器へ出力する

本機の AV OUT 端子や AUDIO OUT 端子からは、現在選ばれている入力ソースのアナログ映像やアナログ音声が出力されます。これらの端子にビデオデッキなどを接続すれば、入力された映像や音声を録画 / 録音したり、他のテレビや外部機器に出力できます。



AV OUT 端子を使用する場合

外部機器のビデオ入力端子、アナログオーディオ入力端子と接続してください。

AUDIO OUT 端子を使用する場合

外部機器のアナログオーディオ入力端子と接続してください。

これらの端子から、HDMI 映像 / 音声、D4 VIDEO 端子 / コンポーネントビデオの映像、デジタル音声は出力されません。

HDMI コントロール機能を使う

本機は、HDMI 経由で外部機器を操作する「HDMI コントロール機能」に対応しています。HDMI コントロール機能対応の機器と HDMI 接続すれば、テレビなどの外部機器のリモコンと連動して本機の機能の操作をすることが可能です。

設定方法は **「簡易接続・操作ガイド」** の **「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」** をご覧ください。

スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）

本機には、最適な音響で視聴できるよう、スピーカーの有無、音量バランス、音色などを自動調整する YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。YPAO を使えば、リスニングルームの音響測定やスピーカーの出力調整などの設定が自動でできます。

⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**

YPAO の実行

本書では複数の視聴位置で測定を行う「マルチ測定」について説明します。
マルチ測定を行わない際の YPAO の実行方法は**「簡易接続・操作ガイド」**の**「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」**をご覧ください。

1 YPAO 測定を行う前の準備をする。
「簡易接続・操作ガイド」の「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」の手順 1 ～ 6 をご覧のうえ、準備を行ってください。

2 ⑪カーソル △ / ▽ を使って「マルチ測定」を選び、⑪ENTER を押す。
マルチ測定（8 か所まで）を行うときは ⑪**カーソル △ / ▽** で「はい」を選び、⑪**ENTER** を押します。





これで準備は完了です。より正確な測定結果を得るために次のことにご注意ください。
- 測定は一か所につき数分かかります。測定中はリスニングルームをできるだけ静かに保ってください。
- 測定中はリスニングルームの隅で待機するか部屋から退出して、スピーカーと YPAO マイクの間を遮らないようにしてください。

3 ⑪カーソル △ / ▽ を使って「測定」を選び、⑪ENTER を押して測定を開始する。
10 秒ほどで自動測定が始まります。

- 測定をすぐに開始する場合はもう一度 ⑪**ENTER** を押します。
- 自動測定を中止して前の画面に戻る場合は ⑪**RETURN** を押してから ⑪**ENTER** を押します。

測定中の画面





最初の測定位置での測定が完了すると、次の画面が表示されます。





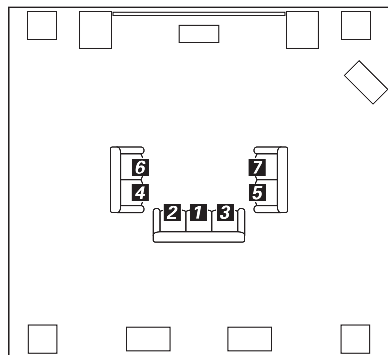
次ページにつづく

11 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
11 **ENTER**
11 **RETURN**

4 YPAOマイクを次に測定する場所へ移動させ、11 ENTER を押して測定を再開する。

10 秒ほどで自動測定が始まります。

以下のイラストは測定位置（視聴位置）を 7 つとした場合の測定位置例です。



すべての位置での測定が完了するまで測定を繰り返します。

すべての位置での測定が完了すると以下の画面が表示されます。





ご注意

問題が発生した場合は、測定中または測定後にエラーメッセージや警告メッセージが表示されます。**「測定中にエラーメッセージが表示された場合」**（☞p.30）、**「測定後に警告メッセージが表示された場合」**（☞p.30）を参考に問題を解消し、再度 YPAO を実行してください。

測定結果	自動測定の結果などを表示します。詳しくは取扱説明書の**「自動測定の設定値を確認する／以前の状態に戻す」**（☞p.29）をご覧ください。
保存／終了	測定結果がスピーカーの設定へ反映され、自動測定が終了します。

5 11 カーソル △ / ▽ を使って「保存／終了」を選び、11 ENTER を押す。





6 11 カーソル ◁ / ▷ を使って「保存」を選び、11 ENTER を押す。

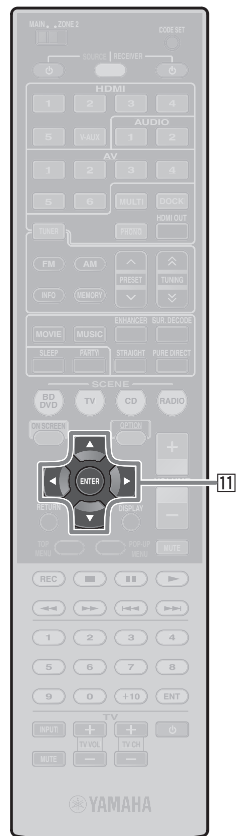




7 11 ENTER を押す。

YPAO 設定が完了しました。YPAO マイクを本機から外してください。

YPAO マイクは熱に弱いため、測定が終了したら高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。



⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

自動測定の設定値を確認する／以前の状態に戻す

自動測定の設定値を確認し、手動でのスピーカー設定や前回の自動測定の設定値に戻したりできます。

ご注意
自動測定の設定値に戻すと手動での設定値は破棄されます。手動の設定値を保存する際は**「設定保護」**（☞p.69）をご覧ください。

1 自動測定が終了したら、⑪カーソル △ / ▽ を押して「測定結果」を選び、⑪ENTER を押す。

YPAO マイクを接続したあとに表示される画面からも「測定結果」を表示できます。

以下の画面が表示されます。



① **測定結果メニュータイトル**
測定結果メニューのタイトルが表示されます。
② **マルチ測定番号**
マルチ測定を行った際の順番が番号で表示されます。
③ **グラフィック表示**
スピーカー設定とサウンド調整がグラフィックで表示されます。
④ **メッセージ**
エラーメッセージが表示されます。

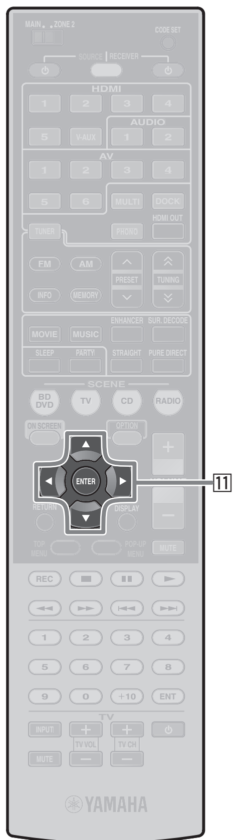
2 ⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ と ⑪ENTER を使って、メニュー項目を選ぶ。

3 ⑪ENTER を押して「測定結果」メニューを終了する。

結線確認	スピーカーの接続状態や極性を表示します。 – 正：極性が正しく接続されている。
大きさ判定	各スピーカーの大きさを表示します。 – 大：低域効果音を効果的に再生できる。 – 小：低域効果音を効果的に再生できない。
距離補正	視聴位置から各スピーカーまでの距離を表示します。
音量調整	各スピーカーの音量の補正結果を表示します。
設定の呼び出し	YPAO 測定前のスピーカー設定に戻します。

接続する

YPAO を実行した際、エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は、以下の説明を参考に問題を解決し、再度 YPAO を実行してください。



⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
⑪ENTER

測定中にエラーメッセージが表示された場合

メッセージの内容をメッセージ一覧（☞p.31）で確認してください。



エラー内容を確認したら、下記に沿って YPAO を再実行してください。

「E-1、E-2、E-3、E-4、E-6」が表示された場合

1 ⑪**ENTER を押す。**

2 ⑪**カーソル ▷ を押して「終了」を選ぶ。**

3 ⑪**ENTER を押して YPAO を終了させ、本機の電源を落としてスタンバイにする。**

4 **スピーカーの接続が正しくされているか確認する。**

5 **本機をオンにして YPAO を再実行する。**

「E-5、E-7、E-8、E-9」が表示された場合

1 ⑪**ENTER を押す。**

2 **周囲の騒音や YPAO マイクの状態など、測定した状況が適切か確認する。**

3 ⑪**カーソル ▷ を押して「再測定」を選ぶ。**

4 ⑪**ENTERを押してYPAOを再実行する。**

「E-10」が表示された場合

1 ⑪**ENTER を押す。**

2 ⑪**カーソル ▷ を押して「終了」を選ぶ。**

3 ⑪**ENTER を押して YPAO を終了する。**

4 **本機をスタンバイにする。**

5 **本機をオンにして YPAO を再実行する。**

測定後に警告メッセージが表示された場合

警告内容の詳細はテレビ画面で確認できます。メッセージ一覧（☞p.31）で確認してください。次の操作でメッセージの内容を確認できます。



警告メッセージが表示された場合、測定結果を反映できますが、最適な音響は得られません。問題を解決してから再度 YPAO を実行することをおすすめします。
お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合は測定結果を反映しても問題ありません。

YPAO を終了する場合

1 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って「保存／終了」を選び、**⑪**ENTER を押す。**

2 ⑪**カーソル ◁ / ▷ を使って以下の操作を選び、**⑪**ENTER を押す。**

保存：
測定結果をスピーカー設定に反映して、YPAO を終了します。
キャンセル
前の画面（警告表示画面）に戻ります。
終了：
測定結果をスピーカー設定に反映させないまま、YPAO を終了します。

メッセージ一覧

ご注意
次のメッセージが表示された場合は、発生している問題を解決してから測定をやり直してください。

● 測定前に表示されるメッセージ

マイク接続確認	YPAO マイクが接続されていません。	YPAO マイクをフロントパネルの YPAO MIC 端子に接続してください。
HP を抜いて下さい	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。
保護されています	本機の設定が保護されています。	設定メニューの「設定保護」を「しない」に設定してください（☞p.69）。

● エラーメッセージ

E-1: フロント SP	フロントチャンネルが検出されませんでした。	左右のフロントスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-2: サラウンド SP	サラウンドチャンネルの片側しか検出されませんでした。	左右のサラウンドスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-3: F プレゼンス SP	プレゼンススピーカーの片側しか検出されませんでした。	左右のプレゼンススピーカーが正しく接続されていることを確認してください。
E-4: SBR → SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネルのみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。
E-5: 雑音大	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな環境で測定をやり直してください。騒音を発生する機器が室内にある場合は電源を一時的に切るか、YPAO マイクから遠ざけてください。 このメッセージが表示された場合は「続行」を選択して測定を続行することも可能です。ただし最適な計測結果が得られるよう再計測することをおすすめします。
E-6: サラウンド確認	サラウンドスピーカー L/R が接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドスピーカー L/R を接続する必要があります。
E-7: マイク未接続	測定の途中で YPAO マイクが外れました。	測定中は YPAO マイクに触れないようご注意ください。
E-8: 信号入力無し	YPAO マイクがテストトーンを検知していません。	YPAO マイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。
		YPAO マイク、または YPAO MIC 端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9: 測定キャンセル	何らかの操作をしたため、測定を中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-10: 内部エラー	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

● 警告メッセージ

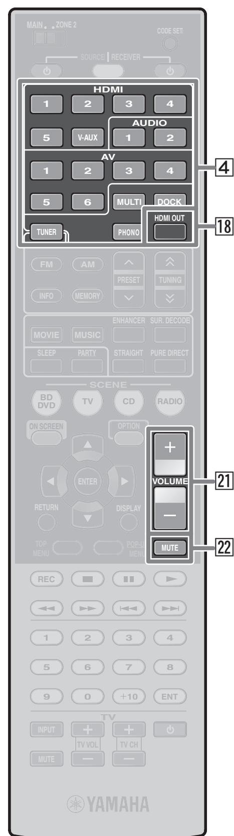
W-1: SP 接続逆相	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されている可能性があります。	お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合は測定結果を反映しても問題ありません。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2: 距離 24m 超	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が 24m 以上離れているため、正確に補正できません。	リスニングポジションの 24m 以内にスピーカーを設置してください。
W-3: 音量補正限界	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	すべてのスピーカーが同じ環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。

「W-2」または「W-3」が表示された場合、計測結果は適用できますが、最適な状態ではありません。問題を解決してから再度計測することをおすすめします。

接続する

再生する

再生の基本操作



④ **入力ソース選択キー**
⑱ **HDMI OUT**
㉑ **VOLUME +/–**
㉒ **MUTE**

1 **本機に接続した外部機器（テレビや BD/DVD プレーヤーなど）の電源をオンにする。**

2 **入力ソースを選ぶには ④入力ソース選択キーを押す。**

選択した入力ソース名が、フロントパネルディスプレイにしばらく表示されます。💡1

HDMI、AV、V-AUX 以外の入力ソースを選んだときは、選んだ入力ソースのコンテンツ画面がテレビに表示されます（☞p.42）。

3 **外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選ぶ。**

外部機器の再生方法については、外部機器に付属する取扱説明書をご覧ください。FM/AM チューナーの放送局の選び方や、本機を使って iPod や Bluetooth 機器を再生する方法は、下記ページをご覧ください。

- **「FM/AM 放送を聴く」**（☞p.43）
- **「iPod™/iPhone™ を再生する」**（☞p.46）
- **「Bluetooth® 機器を再生する」**（☞p.50）

4 **音量を調節するには、㉑VOLUME +/– を押す。**

音声を消音（ミュート）するには

㉒**MUTE** を押します。

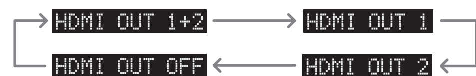
消音を解除するには、もう一度 ㉒**MUTE** を押すか、㉑**VOLUME +/–** を使って音量を変更します。

■ 出力する HDMI OUT 端子を選ぶ

信号を出力する HDMI OUT 端子を選びます。

⑱HDMI OUT を繰り返し押し、出力に使う HDMI OUT 端子を選ぶ。

以下のように HDMI OUT 出力の設定が切り替わります。



HDMI OUT 1+2	HDMI OUT 1-2 端子の両方から同時に信号を出力します。
HDMI OUT 1	HDMI OUT 1 端子からのみ信号を出力します。
HDMI OUT 2	HDMI OUT 2 端子からのみ信号を出力します。
HDMI OUT OFF	HDMI OUT 1-2 端子のどちらからも信号を出力しません。HDMI OUT 端子に接続したテレビを使わずに他の出力端子に接続した機器へ信号出力したい際に、この設定を選びます。

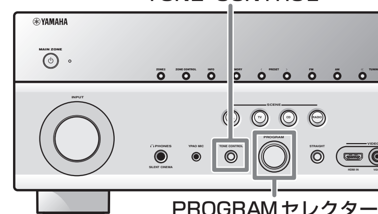
- HDMI コントロール機能を使ってテレビと接続しているときは、出力する HDMI OUT 端子を「コントロール選択」で設定します。
- 出力する HDMI OUT 端子はシーン機能（☞p.55）でも登録できます。

高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

フロントスピーカー L/R またはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作してください。

1 **フロントパネルのTONE CONTROLを押して「Treble」または「Bass」を選ぶ。**



フロントパネルディスプレイに、現在の設定値が表示されます。



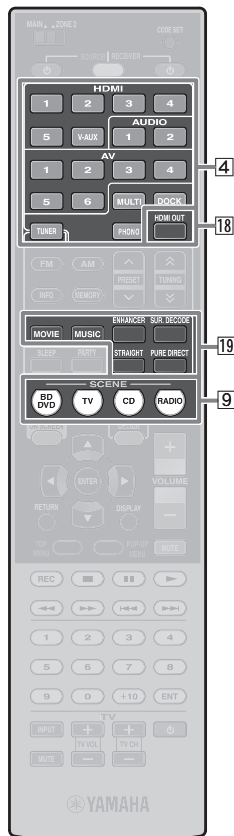
2 **PROGRAM セレクターを回して、増減量を調節する。**

設定範囲	–6.0dB ～ +6.0dB
設定単位	0.5dB

操作してからからしばらく待つと、元の表示に戻ります。

- 入力ソースが「MULTI CH」のときや本機を「ピュアダイレクトモード」にしているときは、トーンコントロールの設定が無効になります。
- 極端な設定にすると、再生する音声の音のつながりが悪くなることがあります。
- トーンコントロールはオプションメニューでも設定できます（☞p.39）。

💡 **1：**フロントパネルに表示される入力ソース名は必要に応じて変更できます（☞p.53）。



④ **入力ソース選択キー**
⑨ **SCENE**
⑱ **HDMI OUT**
⑲ **音場選択キー**
⑲ **MOVIE**
⑲ **MUSIC**
⑲ **ENHANCER**
⑲ **SUR. DECODE**
⑲ **STRAIGHT**
⑲ **PURE DIRECT**

ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）

本機には、キー操作 1 つで電源オンから入力ソースやサウンドプログラム、出力する HDMI OUT 端子の切り替えまでを一括操作できる「シーン機能」が搭載されています。

映画鑑賞や音楽鑑賞など、用途に合わせた 4 つのシーンが用意されており、次のような入力ソースとサウンドプログラムが初期設定されています。

シーン	入力ソース	サウンドプログラム	コンプレストミュージックエンハンサー	HDMI OUT
BD/DVD	HDMI1	Drama	オフ	HDMI OUT 1+2
TV	AV4	STRAIGHT	オン	HDMI OUT 1+2
CD	AV3	STRAIGHT	オフ	HDMI OUT 1+2
RADIO	TUNER	STRAIGHT	オン	HDMI OUT 1+2

好みの入力ソース / サウンドプログラムなどを登録する

1 ④**入力ソース選択キー**を使って、シーンに登録したい入力ソースを選ぶ。

2 ⑲**音場選択キー**を使って、シーンに登録したいサウンドプログラムやコンプレストミュージックエンハンサーモードを選ぶ。

3 ⑱**HDMI OUT** を繰り返し押して、登録したい HDMI OUT 端子を選ぶ。

4 フロントパネルディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録したい ⑨**SCENE** を押し続ける。



SET Complete と表示されたらキーから手を離す

- シーンに登録する入力ソースを変更したときは、リモコン操作する外部機器も合わせて変更してください（☞p.71）。
- 「シーン選択」メニューでもシーンの選択や登録内容変更ができます（☞p.55）。

シネマ DSP などの音場効果を楽しむ

記憶されたさまざまなサウンドプログラム（音場プログラム）や多彩なサラウンドデコーダーを使って、ほぼすべての音声をマルチチャンネル再生できます。

音場効果やサラウンドデコーダーなどを選ぶ

本機では、映画用、音楽用など用途に応じた複数のカテゴリーにそれぞれ音場設定（サウンドプログラム）が用意されています。サウンドプログラムの名前や説明にこだわらず、再生するソースが最も心地よく聴こえるプログラムをお選びください。

サウンドプログラムを選ぶ：
MOVIE カテゴリー（☞p.36）：⑲**MOVIE** を繰り返し押す。
MUSIC カテゴリー（☞p.36）：⑲**MUSIC** を繰り返し押す。

ステレオ再生を選ぶ：
⑲**MUSIC** を繰り返し押す。

サラウンドデコーダー（☞p.36）を選ぶ：
⑲**SUR. DECODE** を繰り返し押す。

ストレートデコードモード（☞p.34）に切り替える：
⑲**STRAIGHT** を押す。

ピュアダイレクトモード（☞p.35）に切り替える：
⑲**PURE DIRECT** を押す。

コンプレストミュージックエンハンサー（☞p.35）を選ぶ：
⑲**ENHANCER** を繰り返し押す。

サウンドプログラムのカテゴリー



サウンドプログラム

- 現在音声を出力しているスピーカーは、フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターで確認できます（☞p.11）。
- 各サウンドプログラムは、音場の要素を調節できます（☞p.57）。
- 選択されたサウンドプログラムは、入力ソースごとに記憶されます。入力ソースを切り替えた場合は、切り替え先の入力ソースで前回選ばれていたサウンドプログラムが呼び出されます。
- DTS Express または 96kHz を超えるサンプリング周波数の音声を再生した場合は、自動でストレートデコードモードに切り替わります。
- DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio の音声ソースを再生する際にシネマ DSP 系のサウンドプログラムを使用すると、通常の DTS フォーマットでデコードされます。

⑲音場選択キー
⑲MUSIC
⑲STRAIGHT

■ 音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

音場効果をかけずに再生したい場合は、ストレートデコードモードを使用します。ストレートデコードモードを有効にすると、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルのソースの場合

適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

⑲STRAIGHT を押す。

ストレートデコードモードが有効になります。



ストレートデコードモードを解除するには、もう一度 **⑲STRAIGHT** を押してください。



以前に選ばれていたプログラム

■ ステレオ再生するときは

再生するソースにかかわらず、2 チャンネルステレオ（フロントスピーカーのみ）で再生したい場合は、サウンドプログラムの「2ch Stereo」を選びます。2ch Stereo を選ぶと、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

BD/DVD などのマルチチャンネルソースの場合

再生ソースに含まれるフロント以外のチャンネルを、フロントチャンネルにミックスして、フロントスピーカーから再生します。

⑲MUSIC を繰り返し押して、「2ch Stereo」を選択する。



ステレオ再生を解除するには、**⑲音場選択キー**を使って「2ch Stereo」以外のサウンドプログラムを選んでください。

■ サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ

サラウンドスピーカーがない場合でも、仮想スピーカーを創り出すことで自然な音場効果を再現できます（バーチャルシネマ DSP モード）。たとえばフロントスピーカーのみの構成でも、サウンドプログラムの臨場感が楽しめます。
サラウンドスピーカーが無効なときは、自動でバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。💡**1**

■ ヘッドホンで音場効果を楽しむ

本機にヘッドホンを接続した場合でも、音場効果の臨場感が手軽に再現できます（サイレントシネマモード）。💡**2**

💡**1：**次の場合バーチャルシネマ DSP モードは動作しません。
- ヘッドホンを本機に接続している場合
- サウンドプログラムの 7ch Stereo か 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

💡**2：**次の場合サイレントシネマモードは動作しません。
- サウンドプログラムの 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

⑲ 音場選択キー
⑲ PURE DIRECT
⑲ ENHANCER

■ より空間的な音場効果で楽しむ（シネマ DSP 3D モード）

シネマ DSP 3D モードは視聴環境により立体的な音場を構築します。シネマ DSP 3D モードの音場効果を充分に再現するには、プレゼンススピーカーをスピーカー構成に加えて頂くことをおすすめします。
プレゼンススピーカーは以下の手順で接続します。💡1

- プレゼンススピーカーを本機の EXTRA SP 端子に接続し、スピーカーが使えるように設定を行う。（☞ 簡易ガイド）
- オプションメニューでシネマDSP 3Dモードを有効にする（☞p.40）。

シネマ DSP 3D モードが有効になっているときはフロントパネルディスプレイのシネマ DSP 3D インジケーターが点灯します。

点灯



■ プレゼンススピーカーなしで音場効果を楽しむ

本機ではプレゼンススピーカーを接続していない場合でも、内部で仮想のプレゼンススピーカーを構築して立体感のある音場を再現できます（バーチャルシネマ DSP 3D モード）。フロント、センター、サラウンドスピーカーがあれば、立体的な音場感を楽しめます。
プレゼンススピーカーが有効でない場合は、本機は自動でバーチャルシネマ DSP 3D モードに切り替わって音場を再現します。
以下の手順でバーチャルシネマ DSP 3D モードを設定します。

- フロント、センターサラウンドスピーカーを本機へ接続する。
- センタースピーカーとサラウンドスピーカーを「構成」で有効にする（☞p.62）。
- オプションメニューでシネマDSP 3Dモードを有効にする（☞p.40）。

■ 原音に忠実な音質で楽しむ（ピュアダイレクトモード）

ピュアダイレクトモードは、入力された音声を最小限の回路構成で出力する機能です。原音に忠実な音質で音声を楽しみたいときに使用します。
ピュアダイレクトモードをオンにしている間は、以下の機能が無効になります。

- 他のサウンドプログラム、トーンコントロールの設定
- オプションメニューやON SCREENメニューの表示および操作

⑲PURE DIRECT を押す。
ピュアダイレクトモードが有効になります。💡2

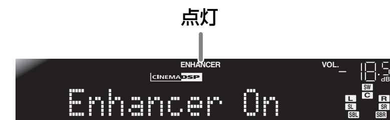
ピュアダイレクトモードを解除するには、もう一度 ⑲**PURE DIRECT** を押してください。

■ 圧縮音源フォーマットを最適なエフェクト効果で楽しむ（コンプレストミュージックエンハンサーモード）

コンプレストミュージックエンハンサーモードは圧縮フォーマットの音源に原音のような深みと広がりを与えるモードです。💡3
このモードは他のサウンドプログラムと一緒に使うことができます。

⑲ENHANCER を押してコンプレストミュージックエンハンサーモードをオンにする。

点灯



コンプレストミュージックエンハンサーモードをオフにするには、もう一度 ⑲**ENHANCER** を押します。

💡 **1：** 次の場合シネマ DSP 3D モードは動作しません。
- ヘッドホンを本機に接続している場合
- サウンドプログラムの 7ch Stereo か 2ch Stereo を選んでいる場合
- ピュアダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合

💡 **2：** ピュアダイレクトモードをオンにしている間、ノイズ軽減のためフロントパネルディスプレイの表示は暗くなります。オフに戻すと元の明るさに戻ります。

💡 **3：** コンプレストミュージックエンハンサーモードは以下の音源では無効となります。
- サンプリングレートが 48kHz 以上の音声信号
- 高解像度のストリーム音声

再生する

サウンドプログラム一覧

表中の CINEMA DSP は、シネマ DSP を使ったサウンドプログラムを表します。

カテゴリー：MOVIE

映画、テレビ番組、ゲームなどの映像ソースの視聴に最適です。

Standard CINEMA DSP	Dolby Digital、DTS および AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle CINEMA DSP	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi CINEMA DSP	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の空間を鮮やかに再現します。
Adventure CINEMA DSP	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama CINEMA DSP	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie CINEMA DSP	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。
Sports CINEMA DSP	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり臨場感を体感できます。
Action Game CINEMA DSP	カーレースや格闘ゲーム、シューティングゲームなどのアクションゲームに合います。さまざまな効果を重視することで再現されたリアリティにより、まるでゲームのなかにいるような感覚が体感できます。このプログラムはコンプレストミュージックエンハンサーモードと組み合わせることでよりダイナミックな音場効果が体感できます。
Roleplaying Game CINEMA DSP	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。バックミュージックや効果音に深みを与えることで、さまざまな場面を自然に、よりリアルに再現します。このプログラムはコンプレストミュージックエンハンサーモードと組み合わせることでよりダイナミックな音場効果が体感できます。
Music Video CINEMA DSP	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

カテゴリー：MUSIC

CD などの音楽ソースに効果をかけて視聴する際に最適です。

Hall in Munich CINEMA DSP	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna CINEMA DSP	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber CINEMA DSP	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
Cellar Club CINEMA DSP	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre CINEMA DSP	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最高 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line CINEMA DSP	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。
2ch Stereo	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカー L/R から出力されます。
7ch Stereo CINEMA DSP	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。ホームパーティーの BGM に最適です。セットアップメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

カテゴリー：SUR.DEC（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使って、入力された音声を最大 7.1 チャンネルで再生します。**1**

DD Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DD PLIIx Movie/ DD PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。**2**
DD PLIIx Music/ DD PLII Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。**2**
DD PLIIx Game/ DD PLII Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。**2**
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS デコーダーです。

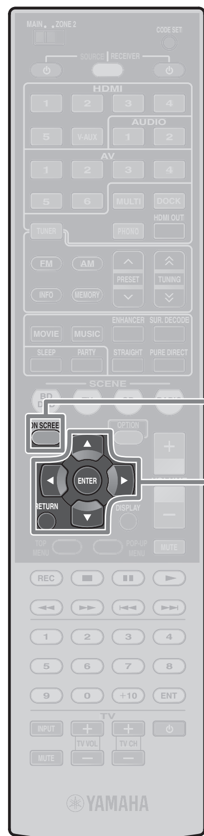
1： Dolby Pro Logic デコーダーは、2 チャンネル（ステレオ）の音声を 5.1 チャンネルで再生できます。Dolby Pro Logic II/IIx デコーダーや DTS Neo：6 デコーダーは、2 チャンネルまたは 5.1 チャンネルの音声を最大 7.1 チャンネルで再生できます。

2： 次の場合 Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。

- ON SCREEN メニューの「設定」→「スピーカー設定」→「手動設定」→「構成」でサラウンドバックスピーカーが「使用しない」に設定されている場合
- ヘッドホンを接続している場合

テレビ画面を使って本機を操作する

本機はオンスクリーンディスプレイをテレビ画面に表示します。画面に表示されるガイドにより本機のさまざまな機能を簡単に操作できます。またオンスクリーンディスプレイで各入力ソースの情報や本機の状態を確認できます。



⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**

テレビ画面を使った本機の基本操作

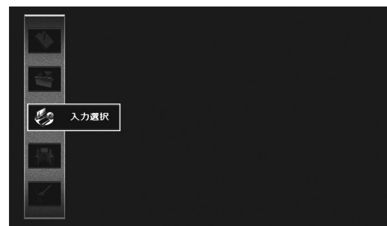
ON SCREEN やオプションといったメニューを操作するには本機とテレビを接続しておく必要があります。テレビの接続については **「テレビを接続する」**（☞p.17）をご覧ください。

ここではオンスクリーンディスプレイを使った「入力選択」、「シーン選択」、「サウンドプログラム」を設定するための基本的な操作について説明します。

⑩ON SCREEN を押す。
ON SCREEN メニューがテレビに表示されます。

■ 入力ソースを選ぶ

1 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「入力選択」を選び、⑪ENTER を押す。**



各入力ソースが画面の下部にアイコン表示されます。

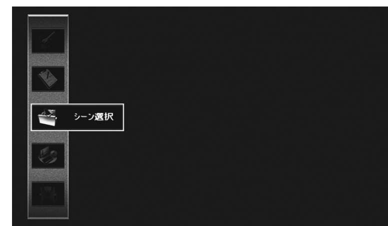
2 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使って入力ソースを選び、⑪ENTER を押す。**
入力ソースの選択はこれで完了です。



- **⑪RETURN** を押すと一つ前の画面に戻ります。**⑪RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- 入力ソースを選ぶだけでなく、各入力ソースに詳細の設定ができます。詳しくは **「入力ソースごとに入出力の設定をする（入力選択メニュー）」**（☞p.52）をご覧ください。

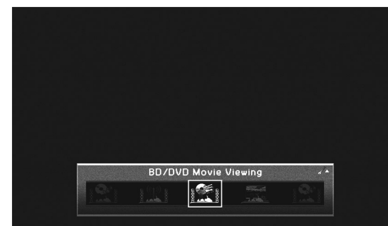
■ シーンを選ぶ

1 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「シーン選択」を選び、⑪ENTER を押す。**



本機に登録されている各シーン設定が画面の下部にアイコン表示されます。

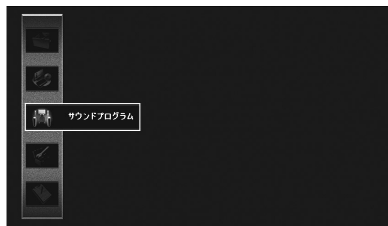
2 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使ってシーンを選び、⑪ENTER を押す。**
シーンの選択はこれで完了です。



- **⑪RETURN** を押すと一つ前の画面に戻ります。**⑪RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- シーン機能の初期設定については **「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.33）をご覧ください。
- シーンごとに詳細の設定をエディットできます。詳しくは **「シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）」**（☞p.55）をご覧ください。

■ サウンドプログラムを選ぶ

1 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「サウンドプログラム」を選び、⑪ENTER を押す。**



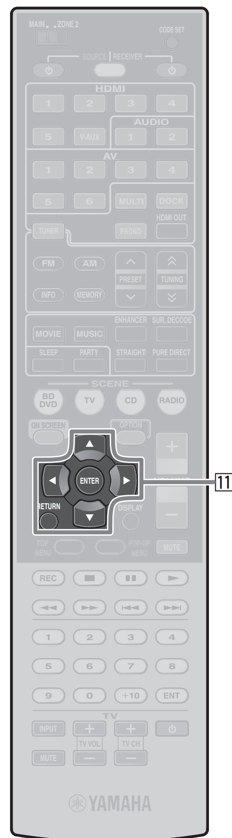
本機に登録されている各サウンドプログラムが画面の下部にアイコン表示されます。

2 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使ってシーンを選び、⑪ENTER を押す。**

サウンドプログラムの選択はこれで完了です。



- ⑪**RETURN** を押すと一つ前の画面に戻ります。⑪**RETURN** を繰り返し押すと ON SCREEN メニューを閉じます。
- シーン機能の初期設定については**「シネマ DSP などの音場効果を楽しむ」**（☞p.33）をご覧ください。
- シーンごとに詳細の設定をエディットできます。詳しくは**「音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する（サウンドプログラムメニュー）」**（☞p.57）をご覧ください。



⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**

本機では主に以下の 3 つのメニューから操作や設定確認ができます。
- ON SCREEN メニュー（☞p.52）
- オプションメニュー（☞p.39）
- コンテンツ画面（☞p.42）

これらのメニューを使うことで入力ソースやシーン、サウンドプログラムを選ぶだけでなく、さまざまな機能の設定が行えます。

入力ソースごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）

本機には、入力ソースごとに設定可能なメニュー（オプションメニュー）が用意されています。オプションメニューでは、他の入力ソースとの音量差を調整したり、外部機器から入力された映像 / 音声の情報を表示したりできます。

④ **入力ソース選択キー**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**
⑳ **OPTION**

オプションメニューの表示 / 設定

オプションメニューは、本機のフロントパネルディスプレイや、テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）を見ながら操作できます。ここではテレビ画面を見ながら設定する方法を例にあげて説明します。

1 **④入力ソース選択キーを使ってオプション機能を設定したい入力ソースを選ぶ。**

2 **⑳OPTION を押す。**
オプションメニューが表示されます。

オプションメニュー



表示されるオプションメニューでできることは入力ソースごとに異なります。
詳しくは次項目の「オプションメニュー」をご覧ください。

3 **⑪カーソル △ / ▽ を使って設定したい項目を選び、⑪ENTER を押す。**
選んだ項目の設定値が表示されます。

4 **⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って設定値を変更する。**

- ⑪**RETURN** を押すと一つ前の画面に戻るかオプションメニューを閉じます。
- 幾つかの機能をお使いになる際、オプションメニューが自動で閉じることがあります。

5 **⑳OPTION を押してオプションメニューを閉じる。**

オプションメニューを閉じた後、数秒の間リモコンのキーが反応しにくいことがあります。このようなときは入力ソースを選び直してください。

オプションメニュー

オプションメニューでは入力ソースに応じて以下の項目を設定できます。※1

HDMI1-5	トーンコントロール	Adaptive DRC	AAC 多重モノラル音声
	シネマDSP 3D モード	セリフ位置調整 ※2	拡張サラウンド
	再生レベル補正		
AV1-4	トーンコントロール	Adaptive DRC	AAC 多重モノラル音声
	シネマDSP 3D モード	セリフ位置調整 ※2	拡張サラウンド
	再生レベル補正		
AV5-6	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ※2	再生レベル補正	
AUDIO1-2	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ※2	再生レベル補正	
VIDEO AUX	トーンコントロール	Adaptive DRC	AAC 多重モノラル音声
	シネマDSP 3D モード	セリフ位置調整 ※2	拡張サラウンド
	再生レベル補正		
フォノ	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ※2	再生レベル補正	
チューナー	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ※2	再生レベル補正	
DOCK (iPod)	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ※2	再生レベル補正	シャッフル ※3
	リピート ※2		

次ページにつづく

※1：下記の項目は全入力ソースに共通で設定されます。
「トーンコントロール」、「Adaptive DRC」、「シネマ DSP 3D モード」、「セリフ位置調整」、「拡張サラウンド」
このときはフロントパネルディスプレイに「ALL」と表示されます。入力ソースごとに固有で設定できる項目では、フロントパネルディスプレイに入力ソース名が表示されます。入力ソース名を変更していない場合は、入力ソースの初期名称が表示されます。
※2：「セリフ位置調整」はプレゼンススピーカーが有効なときにのみ設定できます。
※3：ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）には対応していません。

DOCK（Bluetooth）	トーンコントロール	Adaptive DRC	シネマ DSP 3D モード
	セリフ位置調整 ♕1	再生レベル補正	ペアリング
	接続、切断		
MULTI CH	再生レベル補正		

▌高音 / 低音を調整する

トーンコントロール

入力ソース：MULTI CH を除くすべて

フロントスピーカー L/R またはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

設定範囲	–6.0dB ～ +6.0dB
設定単位	0.5dB

- スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作してください。
- フロントパネルのTONE CONTROLキーでも同様にトーンの調整ができます（☞p.32）。

▌小音量でも聴きやすい音量に自動調節する

Adaptive DRC

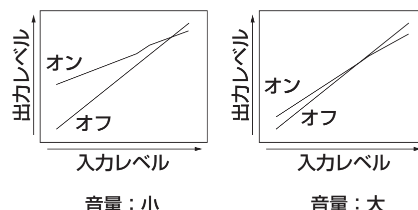
入力ソース：MULTI CH を除くすべて

本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生する場合や夜間に再生するときは、このパラメーターをオンに設定すると効果的です。♕2

オン	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
オフ（初期設定）	自動ではダイナミックレンジを調節しません。

オン に設定した場合、次のようにダイナミックレンジが調節されます。

音量が小さいときはダイナミックレンジ幅が狭く、音量が大きくなるほどレンジ幅が拡がります。



▌テレビの主音声と副音声を切り替える

AAC 多重モノラル音声

入力ソース：HDMI1-5、AV1-4、V-AUX ♕3

BS ／地上波デジタル放送などで使われている AAC モノラル二重音声入力時に、出力する音声を設定します。

主＋副	主音声と副音声をフロント左／右スピーカーから同時に出力します。PCM 信号入力時のフロント左／右チャンネルへの振り分けは、BS デジタルチューナーの設定により異なります。詳しくは BS デジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。
主音声（初期設定）	主音声をフロント左／右スピーカーから出力します。
副音声	副音声をフロント左／右スピーカーから出力します。

▌より立体的な音場を楽しむ

シネマ DSP 3D モード

入力ソース：MULTI CH を除くすべて

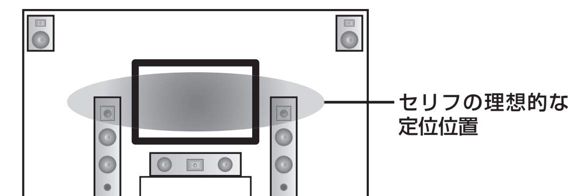
CINEMA DSP 3D モードが可能な音源の場合に、サウンドプログラムを CINEMA DSP 3D モード（☞p.35）にするかを設定します。

▌セリフの音の位置を調整する

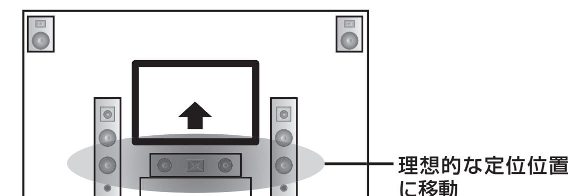
セリフ位置調整

入力ソース：MULTI CH を除くすべて

プレゼンススピーカーを使っている場合に、セリフなど、中央に定位する音の位置を上下に調節します。値を大きくするほど上方に移動します。



セリフがテレビ画面よりも低い位置から聞こえる場合は、設定値を大きくしてください。



「0」（初期設定）が最も低く、「5」が最も高い位置となります。

- プレゼンススピーカーが接続されていない場合（または無効に設定した場合）、このパラメーターは表示されません。
- セリフの位置を初期設定の状態より低くすることはできません。

♕1：「セリフ位置調整」はプレゼンススピーカーが有効なときにのみ設定できます。
♕2：「Adaptive DRC」はヘッドフォンをご使用の際に便利です。
♕3：本項目は、デジタル音声を入力した場合にのみ有効になります。

サラウンドバック使用時に5.1チャンネル音声の再生方法を設定する

拡張サラウンド

入力ソース：HDMI1-5、AV1-4、V-AUX ☞1

サラウンドバックスピーカーが使用可能な環境（6.1/7.1 チャンネル）での、本機に入力された 5.1 チャンネル音声の再生方法を選びます。

自動判別（初期設定）	サラウンドバックチャンネルのフラグを含む音声が入力されると、最適なデコーダーを自動的に選び、音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。
DD PLIIx ムービー	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Movie デコーダーを使って音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。サラウンドバックスピーカーを 2 つ接続しているときのみ選択できます。
DD PLIIx ミュージック	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Music デコーダーを使って音声を 6.1 または 7.1 チャンネルに再構成して再生します。サラウンドバックスピーカーを 1 つ以上接続しているときに選択できます。
EX/ES	サラウンドバックチャンネルのフラグの有無にかかわらず、最適なデコーダーを自動的に選び、常に 6.1 チャンネルで再生します。
オフ	サラウンドバックチャンネルのフラグ有無にかかわらず、常にオリジナルのチャンネル数で再生します。

入力ソース間の音量差を調整する

再生レベル補正

入力ソース：すべて

入力ソースごとに音量を調節し、入力ソース間の音量差を補正します。入力ソースを切り替えたときの音量差が気になる場合は、このパラメーターを調節してください。

設定範囲	–6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB
初期設定	0.0dB
設定単位	0.5dB ステップ

iPod/iPhone をシャッフル再生する

シャッフル

入力ソース：DOCK（iPod）☞2

iPod/iPhone の曲やアルバムをシャッフル再生します。シャッフル機能がオンのときはテレビに「 」が表示されます 。

オフ	シャッフル機能をオフにします。
曲	曲をランダムに再生します。
アルバム	アルバム単位でランダムに再生します。

iPod/iPhone をリピート再生する

リピート

入力ソース：DOCK（iPod）☞2

iPod/iPhone の曲やアルバムを繰り返し再生します。リピート機能がオンのときはテレビに「 （1 曲）」か「 （すべて）」が表示されます 。

オフ	リピート機能をオフにします。
1 曲	曲を繰り返し再生します。
すべて	アルバム単位で繰り返し再生します。

Bluetooth 機器を本機とワイヤレス接続する

接続

切断

入力ソース：DOCK（Bluetooth）

Bluetooth 機器とのワイヤレス接続 / 解除を切り替えます（☞p.51）。

Bluetooth 機器を本機とペアリングする

ペアリング

入力ソース：DOCK（Bluetooth）

本機と Bluetooth 機器をペアリング（接続認証）します（☞p.50）。

☞1：「ARC（オーディオリターンチャンネル）」がオンで「TV 音声入力」で選んでいる場合は AV5-6 と AUDIO1-2 でもご使用になれます。
• サウンドプログラムの 7ch Stereo を選んでいる場合　• ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合
☞2：ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（YID-W10）には対応していません。

コンテンツ画面で入力ソースを操作する

入力ソースとして DOCK または TUNER として選ぶと、選んだ入力ソースのコンテンツ画面がテレビに表示されます。iPod の再生やチューナーの各種設定をコンテンツ画面から行えます。

[4] **DOCK**
[4] **TUNER**
[11] **カーソル △ / ▽**
[11] **ENTER**
[11] **RETURN**
[12] **DISPLAY**

コンテンツ画面をご覧になるには本機とテレビを接続しておく必要があります。テレビの接続については**「テレビを接続する」**（☞p.17）をご覧ください。

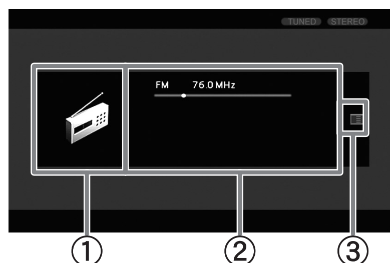
テレビにコンテンツ画面を表示する

[4]DOCK か [4]TUNER を押して、入力ソースを切り替える。

選んだ入力ソースのコンテンツ画面が表示されます。

コンテンツ画面には、再生中の情報を表示する「再生画面」と iPod の曲情報や、チューナーのプリセット局を一覧で表示する「ブラウズ画面」の 2 つの状態があります。

TUNER 再生画面の例



① **イメージ表示**
入力ソースのイメージアイコンや再生しているアルバムアートが表示されます。

② **情報表示**
再生している曲、映像や放送局についての情報が表示されます。

③ **操作ボタン**
選んでいる入力ソースに応じた各種操作がボタンで表示されます。
入力ソースごとの操作については下記をご覧ください。
– FM/AM チューナー（☞p.44）
– iPod（☞p.47）

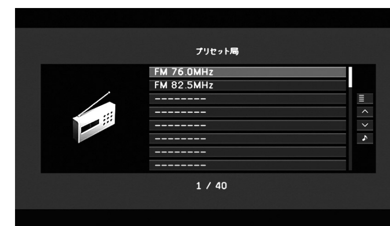
- 再生画面ではまず [11]**ENTER** を押してから [11]**カーソル △ / ▽** でボタンを選び、もう一度 [11]**ENTER** を教えて決定します。
- ブラウズ画面ではまず [11]**カーソル ▷** を押してから [11]**カーソル △ / ▽** でボタンを選び、もう一度 [11]**ENTER** を教えて決定します。
- [11]**RETURN** を繰り返し押すと手前の画面に戻って、画面上での操作を終了できます。

再生画面とブラウズ画面を切り替える

次の方法で再生画面とブラウズ画面を切り替えます。

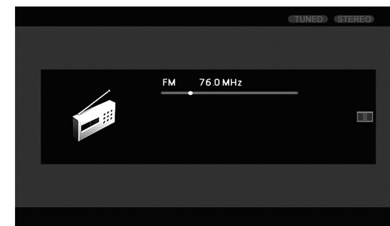
- [12]**DISPLAY** を押すたびに再生画面とブラウズ画面が切り替わります。
- 再生画面ではまず [11]**ENTER** を押してから [11]**カーソル △ / ▽** で ▤ ボタンを選びます。[11]**ENTER** を押して決定するとブラウズ画面に切り替わります。
- ブラウズ画面ではまず [11]**ENTER** を押してから [11]**カーソル △ / ▽** で ♪ ボタンを選びます。[11]**ENTER** を押して決定すると再生画面に切り替わります。

ブラウズ画面



▤ もしくは [12] **DISPLAY**　　♪ もしくは [12] **DISPLAY**

再生画面



FM/AM 放送を聴く



④TUNER
⑤FM
⑤AM
⑤MEMORY
⑤PRESET ︿ / ﹀
⑤TUNING ︿︿ / ﹀﹀
⑬数字キー

FM/AM 放送の受信時は、本機に接続した FM/AM アンテナの向きを受信感度が最良になるよう調節してください。

本機の FM/AM チューナーは、以下の 2 種類の方法で選局できます。

周波数選局

放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして FM/AM 放送を受信します。

プリセット選局（☞p.44）

あらかじめ FM/AM 放送局を登録（プリセット）しておき、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

周波数を指定して受信する（周波数選局）

1 ④**TUNER** を押して入力ソースをチューナーに切り替える。

2 ⑤**FM** または ⑤**AM** を押して受信するバンドを選ぶ。



3 ⑤**TUNING ︿︿ / ﹀﹀** を使って受信する周波数を指定する。

⑤TUNING ︿︿

周波数をアップします。キーを 1 秒以上押し続けた場合は、現在より高い周波数に向けて放送局をサーチします。💡1

⑤TUNING ﹀﹀

周波数をダウンします。キーを 1 秒以上押し続けた場合、現在より低い周波数に向けて放送局をサーチします。💡1



● 周波数を数値入力するには

リモコンの ⑬**数字キー**を使って周波数を入力します。入力する際は少数点を省略します。💡2

たとえば 77.1MHz の放送局を選択する場合は次のように入力します。



■ 放送局を手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局を手動で選局し、1 つずつプリセットします。

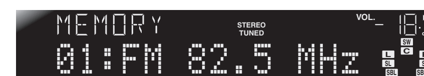
1 「周波数を指定して受信する」（☞p.43）を参考にして、登録したい放送局を受信する。

2 次のいずれかの方法で受信中の放送局を登録する。

● 空のプリセット番号に登録する場合

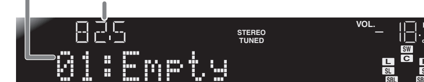
⑤**MEMORY** を 3 秒以上押し続けます。

最も番号の小さい空のプリセット番号（または前回登録した次のプリセット番号）に自動登録されます。



● プリセット番号を指定して登録する場合

⑤**MEMORY** を一度押し、フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示させます。しばらくすると登録先のプリセット番号が表示されます。



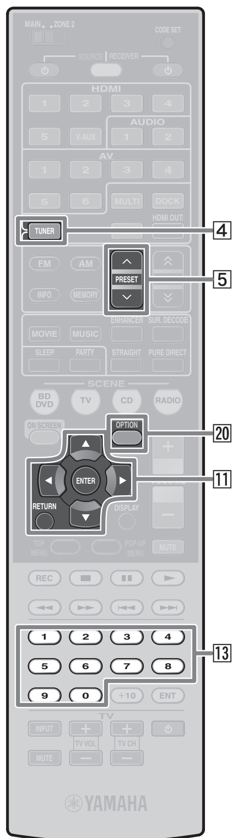
⑤**PRESET ︿ / ﹀** を使って登録先のプリセット番号を選び、⑤**MEMORY** を押して登録を実行します。

登録した放送局を選ぶには、⑤**PRESET ︿ / ﹀** を使って放送局のプリセット番号を選びます。💡3

💡1：放送局をサーチする際は、サーチが始まったらキーから手を離してください。

💡2：受信範囲外の周波数を入力した場合は、フロントパネルディスプレイに「Wrong Station!」と表示されます。入力した周波数が正しいかご確認ください。

💡3：プリセット番号で放送局を選ぶ際、⑬**数字キー**を使ってプリセット番号を入力することもできます。番号が間違っていると「Wrong Num.」とフロントディスプレイに表示されます。このときは正しいプリセット番号を確かめ直してください。



4 **TUNER**
5 **PRESET ∧ / ∨**
11 **カーソル △ / ▽**
11 **ENTER**
11 **RETURN**
13 **数字キー**
20 **OPTION**

■ 登録した放送局を呼び出す

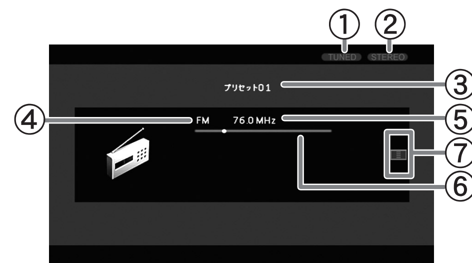
オートプリセットまたはマニュアルプリセットで登録した放送局を呼び出します。💡1

登録した放送局を選局するには、5PRESET ∧ / ∨ を押してプリセット番号を選ぶ。💡2

コンテンツ画面でチューナーを操作する

現在受信している放送局の情報をテレビ画面に表示して確認できます。FM/AM チューナーのさまざまな操作もフロントディスプレイでなくコンテンツ画面を見ながら行えます。コンテンツ画面は 4**TUNER** を押してチューナーを入力ソースに選ぶと表示されます。コンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を使って FM/AM チューナーの操作が行えます。

■ 再生画面でチューナーを操作する



① **TUNED インジケーター**
放送局を受信しているときに点灯します。

② **STEREO インジケーター**
ステレオ放送を受信している際に点灯します。「FM モード」を「モノラル」にしている場合、このインジケーターは点灯しません。

③ **プリセット番号**
選んでいる放送局をプリセット登録してある場合、プリセットの番号が表示されます。

④ **受信バンド**
FM か AM で選んでいるバンドが表示されます。

⑤ **周波数**
現在受信している周波数が表示されます。

⑥ **周波数ガイド**
現在受信している周波数がバンドのどの辺りかがバー上のカーソルで表示されます。

⑦ **操作ボタン**
行える操作がボタンで表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 11**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを 11**カーソル △ / ▽** で選び、11**ENTER** で決定します。

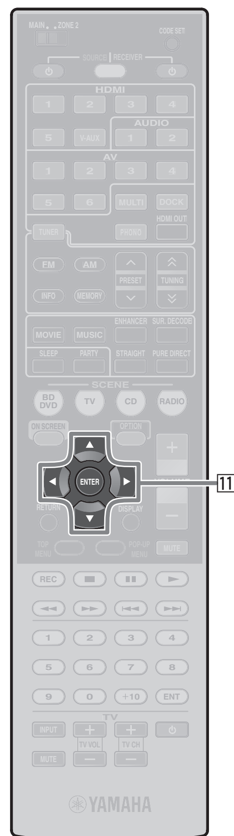
マニュアルチューニング

お好みの放送局に手動で周波数を合わせます。

FM	受信バンドを FM に切り替えます。
AM	受信バンドを AM に切り替えます。
チューニング −	受信周波数の数値を低くします。
チューニング ＋	受信周波数の数値を高くします。
オート −	現在の周波数より周波数の低い放送局を自動で検索します。
オート ＋	現在の周波数より周波数の高い放送局を自動で検索します。
ダイレクト	受信したい周波数を画面上で直接入力します。
メモリー	現在受信している放送局をプリセット局として登録します。FM/AM それぞれ 40 局まで登録できます。

次ページにつづく

💡**1：**登録されていないプリセット番号はスキップされます。すべてのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」または「No Presets in Memory」と表示されます。
💡**2：**プリセット番号を指定して選局するには、13**数字キー**を使って呼び出したいプリセット番号を入力します。無効な番号を入力した場合は「Wrong Num.」と表示されます。番号が正しいかご確認ください。
💡**3：**オプションメニューについての詳細は、**「入力ソースごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.39）をご覧ください。



⑪ **カーソル △ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

プリセット選択

プリセット登録しておいた放送局を呼び出せます。

プリセット –	一つ前のプリセット局を選びます。
プリセット +	次のプリセット局を選びます。
プリセット –8	プリセット局を 8 つ分手前の番号に戻します。
プリセット +8	プリセット局を 8 つ分先の番号に進めます。
ダイレクト	プリセット番号を画面上で直接入力してプリセット局を選びます。
メモリー	現在受信している放送局をプリセット局として登録します。FM/AM それぞれ 40 局まで登録できます。

ユーティリティ

プリセット登録しておいた放送局を呼び出せます。

FM モード	FM を受信する際にステレオ出力するかモノラル出力するかを選びます。

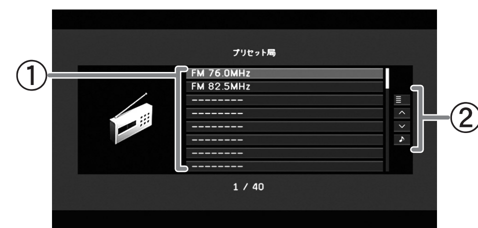
スクロール切替

文字スクロールさせる対象を切り替えます。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

■ ブラウズ画面でチューナーを操作する



① **プリセット局リスト**
プリセット登録している局のリストが表示されます。

② **操作ボタン**
行える操作がボタンで表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず ⑪**カーソル ▷** を押します。その後使いたいボタンを ⑪**カーソル △ / ▽** で選び、⑪**ENTER** で決定します。

ユーティリティ

プリセット登録しておいた放送局を呼び出せます。

オートプリセット	信号の強い放送局を自動で検波して 40 局までプリセット登録します。リストで選んでいたプリセット番号から順に登録します。
クリアプリセット	リストで選んでいたプリセット局をクリアします。
クリアオールプリセット	登録されているすべてのプリセット局をクリアします。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

プリセット局のリストを前後のページへ切り替えます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。



4 **DOCK**
6 **INFO**

iPod™/iPhone™ の曲 / 映像を再生する

ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（別売 YDS-12 など）を本機に接続すると、本機のリモコンで操作しながら iPod の再生を楽しめます。iPod を再生する際にサウンドプログラムのコンプレストミュージック・エンハンサー（☞p.35）を選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をメリハリの効いたダイナミックな音で再生できます（☞p.33）。
ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム（別売 YID-W10）を使えば、本機と iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生を楽しめます。

- **iPod/iPhone を有線接続して再生するときは** 「**ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの接続**」をご覧ください。
- **iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生するときは** 「**iPod/iPhone をワイヤレス接続で再生する**」（☞p.48）をご覧ください。

- iPod touch、iPod（iPod classic を含むクリックホイール）、iPod nano、iPod mini、iPhone、iPhone 3G、iPhone 3GS に対応しています（2010 年 3 月現在）。
- iPhone を接続する場合は、YDS-12 をご使用ください。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンによっては、一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの種類により一部の機能が使えないことがあります。ここでは YDS-12 を使って説明します。

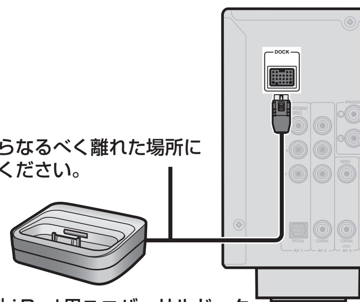
ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。iPod/iPhone をセットする方法は、iPod 用ユニバーサルドックの取扱説明書をご覧ください。

ご注意
故障の原因となるため、iPod 用ユニバーサルドックは、本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

電源をオンにして、iPod/iPhone をセットすれば再生準備は完了です。





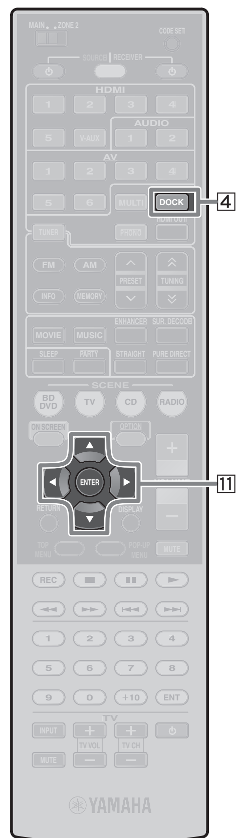
本機がスタンバイのときは、iPod 用ユニバーサルドックに置いた iPod/iPhone を自動で充電します（☞p.54）。

iPod/iPhone の操作

iPod/iPhone のセット後は、4**DOCK** を押して入力ソースをDOCKに切り替えるだけでiPod/iPhone を操作できます。
iPod/iPhoneの再生方法には、次の2種類があります。

シンプル再生モード：
iPod/iPhone の画面を見ながら再生します。
「コンテンツ画面で iPod/iPhone を操作する（メニュー表示モード）」（☞p.47）をご覧ください。
メニュー表示モード：
テレビに表示されるメニューを見ながら iPod/iPhone を再生します。
「本機のリモコンで iPod/iPhone を再生する（シンプル再生モード）」（☞p.48）をご覧ください。

- メニュー表示モードで使用している間、iPod/iPhone 本体は操作できません。
- メニュー表示モードで再生している間、フロントパネルに曲の各種情報（Artist、Album、Song）を表示できます。表示を切り替えるには 6**INFO** を繰り返し押します。
- （iPod touch/iPhone を除く iPod）メニュー表示モードの動作中は、iPod の画面にヤマハロゴが表示されます。



4 DOCK
11 カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
11 ENTER

コンテンツ画面で iPod/iPhone を操作する（メニュー表示モード）

iPod/iPhone の操作をコンテンツ画面の「再生画面」と「ブラウズ画面」を見ながら行えます。

■ ブラウズ画面で iPod/iPhone を操作する



① 入力ソース名 / リスト名
② 曲 / 映像リスト表示
③ 入力ソースアイコン表示
④ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「ブラウズ画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑤ 表示中のリスト番号／リスト総数

ブラウズ画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 11**カーソル** ▷ を押します。その後使いたいボタンを 11**カーソル** △ / ▽ で選び、11**ENTER** で決定します。

10 ページ上へ

10 ページ下へ

曲 / 映像リストを 10 ページ単位で移動させます。

1 ページ上へ

1 ページ下へ

曲 / 映像リストを 1 ページ単位で移動させます。

再生画面へ

表示を再生画面に切り替えます。

閉じる

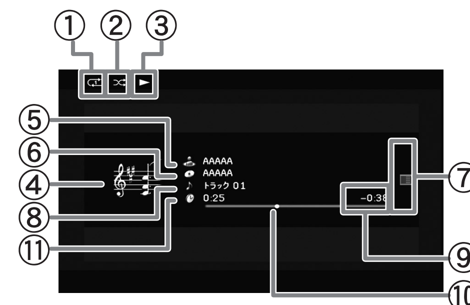
映像再生に切り替わり、メニュー表示を閉じます。

1 4**DOCK**を押して入力ソースをDOCKに切り替える。

2 11**カーソル** △ / ▽ を使って再生したい曲 / 映像（もしくはミュージック、ビデオ）を選び、11**ENTER** を押す。1

3 11**カーソル** △ / ▽ を使って項目を選び、11**ENTER** を押して再生する。
再生中は再生画面が表示されます。

■ 再生画面で iPod/iPhone を操作する

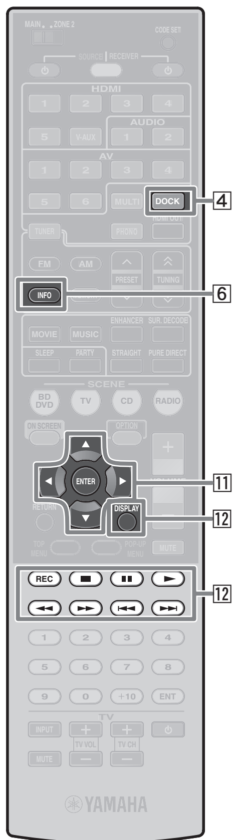


① リピートアイコン
② シャッフルアイコン
③ 再生アイコン
④ アルバムイメージ
⑤ アーティスト名
⑥ アルバムタイトル
⑦ 操作ボタン
操作可能なボタンが表示されます。詳しくは「再生画面での操作ボタン」をご覧ください。
⑧ 曲名
⑨ 残り時間表示
⑩ 再生位置バー
⑪ 再生時間

再生画面での操作ボタン

操作ボタンを使う際はまず 11**ENTER** を押します。その後使いたいボタンを 11**カーソル** △ / ▽ で選び、11**ENTER** で決定します。

1：ご使用になっている iPod や iPod 用ユニバーサルドックがビデオファイルのブラウザ機能に対応していない場合は、iPod/iPhone のビデオを表示できません。



4 DOCK
6 INFO
11 カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
11 ENTER
12 □
12 ⅠⅠ
12 ▷
12 ◁◁
12 ▷▷
12 |◁◁
12 ▷▷|
12 REC

再生操作

iPod/iPhone の基本的な再生操作が行えます。

▷（再生）	再生を開始します。
□（停止）	再生を停止します。
ⅠⅠ（ポーズ）	再生を一時停止します。
|◁◁（スキップ –）	再生中の曲を曲の先頭までスキップします。曲の先頭で 11 ENTER を押してスキップすると一つ前の曲に戻ります。
▷▷|（スキップ +）	次の曲の先頭へスキップします。
◁◁（スキャン –）	曲を巻き戻します。
▷▷（スキャン +）	曲を早送りします。

スクロール切替

アーティスト名やアルバム名、曲名など文字スクロールさせる対象を切り替えます。

ブラウズ画面へ

表示をブラウズ画面に切り替えます。

閉じる

映像再生に切り替わり、メニュー表示を閉じます。

本機のリモコンで iPod/iPhone を再生する（シンプル再生モード）

本機のリモコンを使ってiPod/iPhoneの基本的な操作（再生、停止、スキップなど）をします。曲情報などは iPod/iPhone の画面で確認できます。💡1
12 REC を押すとシンプル再生モードになります。もう一度 12 REC を押すとメニュー表示モードに戻ります。

4 DOCK	入力ソースを DOCK（iPod）に切り替えます。
11 カーソル △ / ▽	上下の項目にカーソルを移動させます。
11 RETURN	メニューを 1 つ前に戻したり、選んだメニューに入ります。
11 ENTER	選んだメニューに入ります。
12 ◁◁	押し続けている間、巻き戻しします。
12 ▷▷	押し続けている間、早送りします。
12 |◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。さらに繰り返し押せば、1 曲ずつ前の曲にスキップします。
12 ▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
12 □	再生をストップします。
12 ⅠⅠ	再生 / 一時停止を切り替えます。
12 ▷	再生 / 一時停止を切り替えます。

iPod/iPhone をワイヤレス接続で再生する

ヤマハ iPod 用ワイヤレスシステム（別売 YID-W10）を使うと、本機と iPod/iPhone をワイヤレス接続して再生できます。このとき iPod/iPhone は再生のリモコンとして使えます。💡2

ヤマハ iPod 用ワイヤレスシステムを接続して再生する

本機のリアパネルにある DOCK 端子へ iPod 用ワイヤレスシステムを専用ケーブルで接続します。詳しくは YID-W10 の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

事故防止のため iPod 用ワイヤレスシステムを接続する前に本機のコンセントを抜いておいてください。

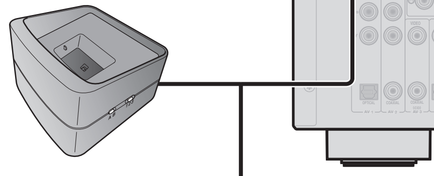
💡 **1：** シンプル再生モードで使用している間、iPod/iPhone 本体でも操作できます。
💡 **2：** 映像信号はワイヤレス接続時には通信できません。

4 **DOCK**

iPod/iPhone をトランスミッターに差し込めば準備は完了です。



ヤマハ製 iPod 用
ワイヤレスシステム
（レシーバー）

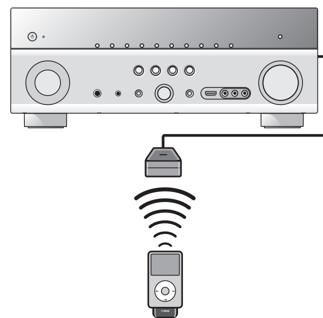


本機からなるべく離して配置してください。

以下の設定をしておくと、本機がスタンバイのとき iPod/iPhone を自動で充電できます。

– 「スタンバイ時充電」を「自動」にする（☞p.54）
– 「iPod　連動」の「電源と入力連動」を「オン」にする（☞p.54）

iPod/iPhone を使って再生を開始します。



- iPod/iPhone を使って再生操作を行うとき、本機は次のように動作します。（本機がメインの視聴環境にある場合）
  – 本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。
  – 本機のスタンバイ中に iPod/iPhone での再生を始めた場合、本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。💡1
- 次の操作がされた場合、本機は自動でスタンバイになります。
  – iPod/iPhone が YID-W10 から外された場合
  – 再生停止後しばらくの間 iPod/iPhone を操作しなかった場合

- 4 **DOCK** を押すと入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります
- 本機のリモコンでオンスクリーンディスプレイのメニューを操作しているときはこの機能は動作しません。
- 「入力選択」メニューで「iPod 連動」の「電源と入力連動」が「オフ」になっているときは、本機の電源と入力ソース切り替えは連動しません（☞p.54）。

ご注意

事故防止のため iPod 用ワイヤレスシステムを接続する前に本機のコンセントを抜いておいてください。

- iPod/iPhone で音量調節すると、連動して本機の音量も最大 0.0dB まで調節されます。

「入力選択」メニューで「iPod 連動」の「音量連動」が「オフ」になっているときは、本機の音量は iPod/iPhone の音量調節と連動しません（☞p.54）。

ご注意

iPod/iPhone を使った音量調節をするときは、再生音量が予想外に大きくなってしまい、本機やスピーカーの故障の原因となる場合があります。
もし再生中に突然音量が上がってしまった際は、すぐに iPod/iPhone を iPod 用ユニバーサルドックから外してください。「音量の上限」機能を使って最大音量を決めておくと、再生時に不慮の大音量を防止できます（☞p.65）。

💡 **1：**この機能はアプリケーションの音声や着信音を受信した場合でも機能します。

Bluetooth® 機器の曲を再生する

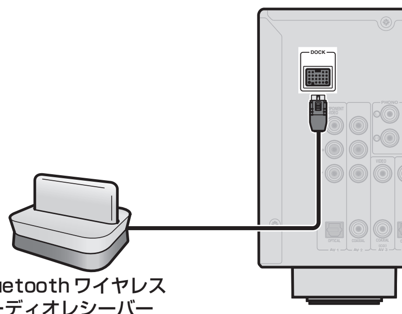
ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10）を本機に接続すれば、Bluetooth に対応した携帯音楽プレーヤーと本機をワイヤレス接続して再生できます。☞1

Bluetooth 機器をはじめて再生するには、最初にペアリング（Bluetooth 機器の登録）が必要です。実際にワイヤレス接続する際は、本機側と Bluetooth 機器側の両方でペアリングします。

④ **DOCK**
⑤ **MEMORY**
⑪ **カーソル △ / ▽**
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**
⑳ **OPTION**

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。電源をオンにすれば、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続は完了です。



Bluetooth ワイヤレス
オーディオレシーバー

ご注意
故障の原因となるため、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

Bluetooth 機器のペアリング

Bluetooth 機器とはじめてワイヤレス接続する場合や設定が消去された場合は、必ずペアリングしてください。
ペアリングする際は、必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは最大８台の Bluetooth 機器とペアリングできます。９台目の機器がペアリングされた場合は、最も長い間使われていない機器のペアリング設定が消去されます。

1 **④DOCK を使って入力ソースを DOCK に切り替える。**

2 **ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源を入れ、Bluetooth 機器側をペアリングモードにする。**

3 **⑳OPTION を押してオプションメニューを表示させ、⑪カーソル △ / ▽ を使って「Pairing」を選ぶ。**



4 **ペアリングを始めるには、⑪ENTER を押す。**



- ペアリングを中止するには⑪**RETURN**を押します。
- 手順2の後に⑤**MEMORY**を押し続けてペアリングを開始することも可能です。

5 **Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。**
認識している場合は Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」などと表示されます。

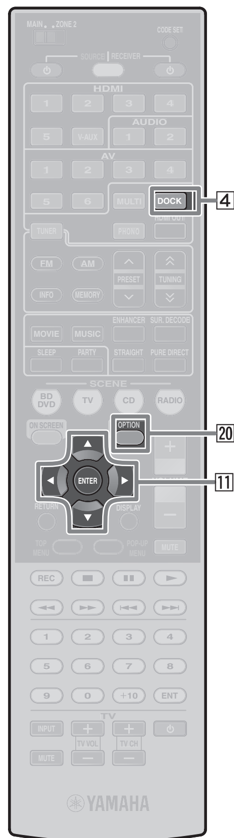
6 **Bluetooth 機器のデバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。☞2**



正常にペアリングされた場合

7 **ペアリングを終了するには ⑪RETURN を押す。**

☞ **1：**本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。
☞ **2：**一部の Bluetooth 機器では、ペアリング実行後に自動でワイヤレス接続することがあります。この場合は「Completed」の代わりに「BT connected」と表示されます。



[4] **DOCK**
[11] **カーソル △ / ▽**
[11] **ENTER**
[20] **OPTION**

Bluetooth機器の曲再生

ペアリングが完了したら、次の手順で本機とBluetooth 機器をワイヤレス接続します。ワイヤレス接続が完了すると、Bluetooth 機器の曲が再生可能になります。

> ワイヤレス接続は、Bluetooth 機器側の操作で実行することもできます。
> 一部の Bluetooth 機器は、自動でワイヤレス接続することがあります。これらの場合、以下の手順は必要ありません。

1 **[4]DOCKを押して入力ソースをDOCKに切り替える。**

2 **[20]OPTION を押して、オプションメニューを表示させる。**

3 **[11]カーソル △ / ▽ を何度か押して「Connect」を選び、[11]ENTER を押す。** ☞1



ワイヤレス接続が完了した場合

> 接続に失敗した場合は「Not found」と表示されます。次の条件を満たしていることを確認し、再度ワイヤレス接続してください。
> - 本機とBluetooth機器の両方でペアリングされている
> - Bluetooth 機器の電源がオンになっている
> - Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーとBluetooth 機器が 10 メートル以内に置かれている

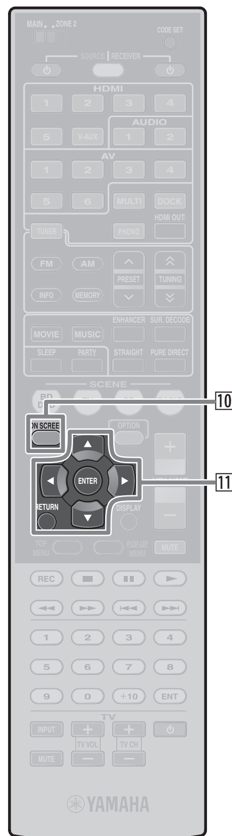
4 **Bluetooth 機器を操作して再生する。**

> Bluetooth 機器の接続を解除するには、もう一度同じ要領で操作して、オプションメニューで「Disconnect」を選び、ワイヤレス接続を解除します。

☞**1：**すでにワイヤレス接続済みの場合は「Disconnect」と表示されます。

入力ソースごとに入出力の設定をする（入力選択メニュー）

入力選択メニューでは、テレビ画面に表示される入力ソースの名称やアイコンを変更することなどができます。

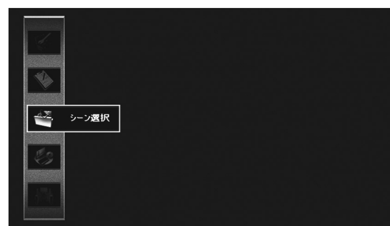


⑩ON SCREEN
⑪カーソル △ / ▽
⑪ENTER
⑪RETURN

入力ソースの設定を変更する

入力ソースごとの名称やアイコンは、テレビ画面を見ながら変更することができます。

1 **⑩ON SCREEN を押す。**



2 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「入力選択」を選び、⑪ENTER を押す。**

3 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使って設定を変更したい入力ソースを選び、⑪カーソル △ を押す。**

4 **⑪カーソル △ / ▽ を使って操作 / 設定したいメニュー項目を選び、⑪ENTER を押す。**

選んだメニュー項目にサブメニューがある場合は、さらに ⑪**カーソル △ / ▽** を使って設定したい項目を選び、⑪**ENTER** を押す。

5 **⑪カーソル △ / ▽ を使って選んだ項目の設定を変更する。**

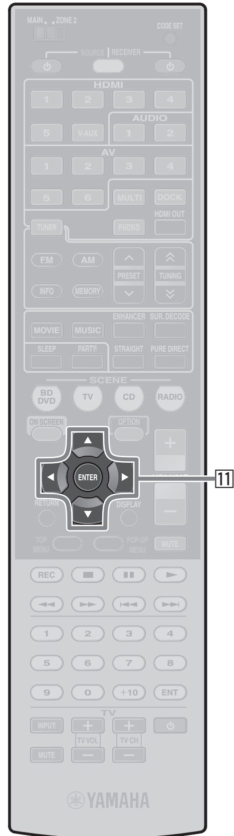
⑪**RETURN** を押すと、1つ前の画面表示に戻せます。手順4～5を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 **設定を終えるには、⑩ON SCREEN を押す。**

入力選択メニュー項目

HDMI1-5	入力名変更 / アイコン選択	音声入力端子割り当て	デコードモード
	エンハンサー		
AV1-2	入力名変更 / アイコン選択	音声入力端子割り当て	デコードモード
	エンハンサー		
AV3-4	入力名変更 / アイコン選択	デコードモード	エンハンサー
AV5-6	入力名変更 / アイコン選択	エンハンサー	
AUDIO1-2	入力名変更 / アイコン選択	エンハンサー	
V-AUX	入力名変更 / アイコン選択	デコードモード	エンハンサー
TUNER	エンハンサー		
DOCK（iPod）	入力名変更 / アイコン選択	エンハンサー	スタンバイ時充電
	iPod 連動 ♕1		
DOCK（Bluetooth）	入力名変更 / アイコン選択	エンハンサー	
MULTI CH	入力名変更 / アイコン選択	映像選択	

♕ **1：** iPod や iPhone を無線接続で再生している場合は、この設定は無効です。



⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

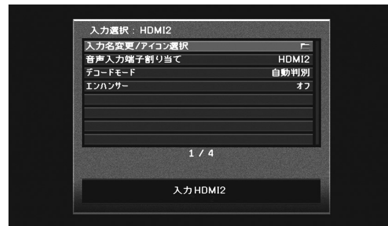
■ 入力ソースの名前やアイコンを変更する

入力名変更 / アイコン選択

入力ソース：HDMI1-5、AV1-6、AUDIO1-2、V-AUX、DOCK（iPod）、DOCK（Bluetooth）、MULTI CH

テレビやフロントパネルに表示する各入力ソースの名前（最大 9 文字）やアイコンを変更します。

1 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「入力名変更 / アイコン選択」を選んで ⑪ENTER を押す。**



2 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使って変更したい入力ソースのアイコンを選び ⑪カーソル ▽ を押す。**

3 **⑪ENTER を押してから、⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って新しい入力ソース名を入力します。**

4 **⑪ENTER を押してから、⑪カーソル ▽ を押して「OK」を選び ⑪ENTER を押す。**
入力ソース名が確定します。

■ HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる

音声入力端子割り当て

入力ソース：HDMI1-5、AV1-2

HDMI1-5/AV1-2 入力を使用する際は、音声のみを他の入力端子（AV 1-6 や AUDIO 1-2）からの入力に差し替えられます。たとえば外部機器が HDMI 端子から音声出力できない場合は、音声入力する端子を変更できます。次のような場合に使うと便利です。

– HDMI 経由で音声出力できない外部機器を HDMI 接続したいとき
– 映像出力がD端子、音声出力がアナログ音声の外部機器（一部ゲーム機器など）を接続したいとき

設定方法は以下の通りです。

音声入力	設定方法
光デジタル端子	入力ソースを AV1 または AV 4 に選択します。選択した入力ソースの音声入力端子と外部機器を光ファイバーケーブルで接続します。
同軸デジタル端子	入力ソースを AV2 または AV3 に選択します。選択した入力ソースの音声入力端子と外部機器をデジタル音声用同軸ケーブルで接続します。
アナログステレオ端子	入力ソースを AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれかに選択します。選択した入力ソースの音声入力端子と外部機器をステレオピンケーブルで接続します。

■ デジタル音声のフォーマットを固定する

デコードモード

入力ソース：HDMI1-5、AV1-4、V-AUX 💡**1**

再生するデジタル音声のフォーマットをDTSまたはAAC に固定します。たとえば DTS フォーマットの音声を再生した際にノイズが生じるときは、この項目で再生フォーマットを DTS に固定してください。

自動判別（初期設定）	入力されたフォーマットに合わせて音声フォーマットが自動で選ばれます。
DTS 固定	DTS 信号に固定します。DTS 以外の信号が入力されても再生されません。
AAC 固定	AAC 信号に固定します。AAC 以外の信号が入力されても再生されません。

■ 圧縮オーディオ（MP3 など）に適したサウンドプログラムを設定する

エンハンサー

入力ソース：MULTI CH 以外の全入力ソース

コンプレスミュージックエンハンサーモードを有効または無効にします。

オフ（初期設定）	コンプレストミュージックエンハンサーモードを有効にします。
オン	コンプレストミュージックエンハンサーモードを無効にします。

💡 **1：**オーディオリターンチャンネル機能がオンで、「TV 音声入力」でテレビの音声を割り当てている場合は、AV5-6 または AUDIO1-2 も設定可能です。

■ 本機がスタンバイのときに iPod を充電する

スタンバイ時充電

入力ソース：DOCK（iPod）

本機がスタンバイのときに、iPod 用ユニバーサルドックやiPod用ワイヤレスシステムにセットしたiPodまたはiPhoneを充電します。

自動（初期設定）	本機の電源がスタンバイのときでも iPod/iPhone を充電できます。iPod/iPhone の充電中は、フロントパネルの HDMI スルー/iPod チャージインジケーターが点灯します。スタンバイスルー機能がオフのときは、充電が完了するとインジケーターが消灯します。
オフ	iPod/iPhone を充電しません。

■ 本機と iPod/iPhone の動作を連動させる（ヤマハ製 iPod 用ワイヤレスシステム接続時）

iPod 連動

入力ソース：DOCK（iPod）

本機とヤマハ製iPod 用ワイヤレスシステムを使って接続したiPod の動作を連動させます。

電源と入力連動	「オン」に設定した場合は、iPod/iPhone を再生すると、自動で本機の電源がオンになり、入力ソースが DOCK（iPod）に切り替わります。また、再生停止後にしばらく iPod/iPhone の操作をしないと、自動で本機の設定がスタンバイモードに変わります。連動機能を無効にしたい場合は、「オフ」に設定してください。
音量連動	「オン」に設定した場合は、iPod/iPhone の音量調節に連動して本機の音量も調節されます。連動機能を無効にしたい場合は、「オフ」を設定してください。

■ マルチチャンネルの音声ソースを再生しながら他の映像ソースを出力する

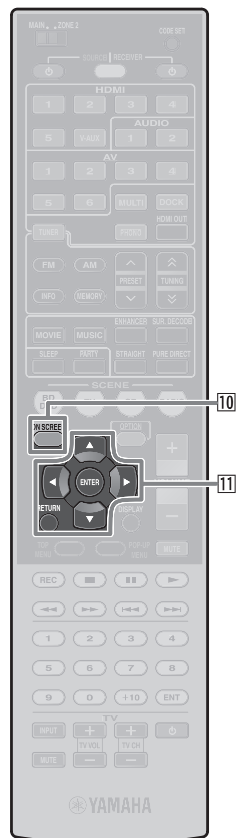
映像選択

入力ソース：MULTI CH

入力ソースを「MULTI CH」にした場合は、他の入力ソースから入力した映像信号を出力することができます。たとえマルチチャンネルのデジタル音声出力非対応のDVDプレイヤーをお使いの場合でも、マルチチャンネル音声を再生しながら映像を出力することができます。

シーン機能の設定を変更する（シーン選択メニュー）

テレビ画面に表示されるシーン選択メニューを使ってシーン機能（☞p.33）の設定を変更します。

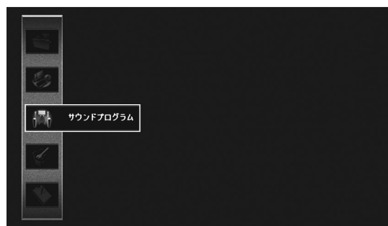


⑩ON SCREEN
⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
⑪ENTER
⑪RETURN

シーン選択メニューの表示 / 設定

シーンごとの名称やアイコンは、テレビ画面を見ながら変更することができます。

1 ⑩ON SCREEN を押す。



2 ⑪カーソル △ / ▽ を使って「シーン選択」を選び、⑪ENTER を押す。

3 ⑪カーソル ◁ / ▷ を使って設定を変更したいシーンを選び、⑪カーソル △ を押す。

4 ⑪カーソル △ / ▽ を使って操作 / 設定したいメニュー項目を選び、⑪ENTER を押す。

5 ⑪カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って設定値を調整する。

⑪RETURN を押すと、１つ前の画面表示に戻せます。手順４～５を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 設定を終えるには、⑩ON SCREEN を押す。

シーン選択メニュー

シーン１～４	登録
	呼出
	シーン名変更 / アイコン選択（☞p.56）
	リセット（☞p.56）

シーン設定を登録する

登録

選択中の設定を各シーンに登録します。

シーン機能の設定を変更する

呼出

各シーンに登録している入力ソースやサウンドプログラムを呼び出したり、シーン切り替え時に接続している外部機器の電源をオン/オフする機能を設定します。

OK	シーンに登録している設定を呼び出します。
キャンセル	シーンに登録された設定を呼び出しません。
詳細設定	「シーン リモコン連動」機能を有効にしたり、シーンに登録している詳細設定を表示します。さらに詳しい説明は、次の「シーン リモコン連動」や「詳細設定」をご覧ください。

シーン リモコン連動

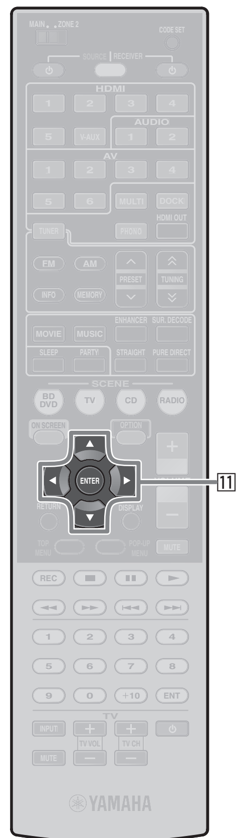
シーンの切り替えと連動させて本機に接続しているヤマハBD/DVDプレイヤーやCDプレイヤーの再生を開始します。

オフ	シーン　リモコン連動機能を無効にします。
ヤマハ BD/DVD プレイヤー１	本機にヤマハ BD/DVD プレイヤーを接続している場合は、この項目を選択してください。
ヤマハ BD/DVD プレイヤー２	「ヤマハ BD/DVD プレイヤー１」を選んでも、本機と外部機器がうまく連動しない場合は、こちらの項目を選んでください。
ヤマハ CD プレイヤー	本機にヤマハ CD プレイヤーを接続している場合は、この項目を選んでください。

詳細設定

シーン機能に登録している詳細設定を表示します。

入力	シーンに登録している入力ソースを表示します。
HDMI 出力端子	シーンに登録している HDMI OUT 端子を表示します。
モード	シーンに登録しているサウンドプログラムを表示します。
エンハンサー	シーンに登録しているコンプレストミュージックエンハンサーの設定を表示します。



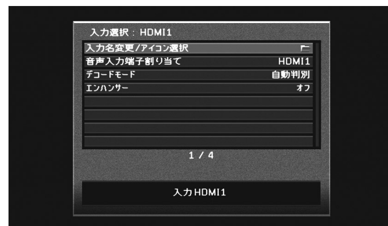
11 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
11 **ENTER**

▌シーンの名前やアイコンを変更する

入力名変更 / アイコン選択

本機のフロントパネルディスプレイやTV画面に表示されるシーンの名前やアイコンを変更します。

1 11**カーソル** △ / ▽ を使って「入力名変更 / アイコン選択」を選んで 11**ENTER**を押す。



2 11**カーソル** ◁ / ▷ を使って変更したいシーンのアイコンを選んで11**カーソル**▽を押す。

3 11**ENTER** を押してから 11**カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って新しいシーン名称を入力する。

4 11**ENTER** を押してから 11**カーソル** ▽ を押して「OK」を選んで 11**ENTER** を押す。
シーン名称が確定します。

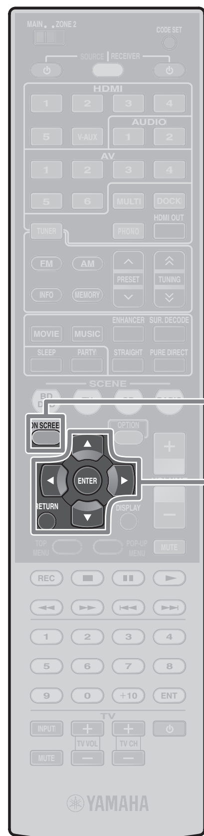
▌登録されているシーンの割り当てを初期状態に戻す

リセット

シーンに登録されている全ての設定を初期状態に戻します。

音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する（サウンドプログラムメニュー）

サウンドプログラムやサラウンドデコーダーは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場の要素（パラメーター）を調節することにより、効果をアレンジできます。映像 / 音声ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節したい場合は、次のように操作してください。



⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷
⑪ **ENTER**
⑪ **RETURN**

1 ⑩**ON SCREEN を押す。**

2 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って「サウンドプログラム」を選び ⑪ENTER を押す。**

3 ⑪**カーソル ◁ / ▷ を使って調整したいサウンドプログラムを選んで ⑪カーソル △ を押す。**



4 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って変更したいパラメーターを選び ⑪ENTER を押す。**



5 ⑪**カーソル ◁ / ▷ を使って調整値を調節し、⑪RETURN を押す。**💡**1**

編集中のサウンドプログラムに複数の音場パラメーターがある場合は、手順 4 と5を繰り返して他の音場パラメーターも調節できます。

6 **編集が終わったら、⑩ON SCREEN を押して ON SCREEN メニューを終了する。**

● 音場パラメーターを初期状態に戻すには

編集したサウンドプログラムは、簡単な操作で初期状態に戻すことができます。
手順 4 の画面で、⑪**カーソル** △ / ▽ を使って「Reset」を選んで、⑪**ENTER** を押します。次の確認メッセージが表示されたら、⑪**カーソル** ◁ / ▷ を使って「OK」を選んで ⑪**ENTER** を押してパラメーターの初期化を実行してください。



初期化を中止したい場合は、この画面が表示されているときに ⑪**カーソル** ◁ / ▷ を使って「キャンセル」を選んで、⑪**ENTER** を押してください。

💡 **1：**初期状態から設定値を変更した音場パラメーターは、パラメーター左側に「*」が表示されます。

シネマ DSP で調節可能なパラメーター

パラメーター	説明	設定値	
エフェクト量の加減	音声効果のかかり具合を増減させます。視聴環境に合わせて、効果を確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。	–6 dB ～ 0 dB ～ +3 dB（初期設定 0 dB）	効果音が小さく感じられる場合または各サウンドプログラムの違いが感じ取れないとき →設定値を大きくしてください。 音がぼんやりと聴こえる場合または音場効果のかかり具合が過剰に感じられるとき →設定値を小さくしてください。
ディレイ	直接音から初期反射音が始まるまでの時間（遅延時間）を調節するパラメーターです。	1 ms ～ 99 ms	値を大きくするほど音場が遅れて発生します。
サラウンド音場の遅れ	直接音が出てからサラウンド音場が発生するまでの時間を調節するパラメーターです。	1 ms ～ 49 ms	
サラウンドバックの遅れ	サラウンドバック音場の遅延時間を調節します（6.1 または 7.1 チャンネルで再生しているときのみ有効）。		
音場空間の大きさ	空間の広がり感を調節するパラメーターです。	0.1 ～ 2.0	値を大きくするほど広い空間（部屋）になり、値を小さくするほど狭い空間になります。
サラウンド音場の広さ	サラウンド音場の広がり感を調節するパラメーターです。		
サラウンドバックの広さ	サラウンドバック音場の広がり感を調節するパラメーターです。		
響きの強さ	初期反射音の減衰特性を決めるパラメーターです。	0 ～ 10	値を大きくするほど、ライブな（反響が多い）音場になり、値を小さくするほどデッドな（反響が少ない）音場になります。
サラウンド音場の響き	サラウンド音場の減衰量を調節するパラメーターです。		
サラウンドバックの響き	サラウンドバック音場の減衰量を調節するパラメーターです。		
残響時間	後部残響音が減衰していく時間を調節するパラメーターです。約 1kHz の残響音が 60dB 減衰するのにかかる時間を基準にしています。	1.0 ～ 5.0 s	値を小さくするほど残響音が早く減衰します。長めの残響時間を設定すれば豊かな残響音に、短めの残響時間を設定すればすっきりした残響音になります。
残響音の遅れ	残響音が発生し始めるまでの時間を調節するパラメーターです。	0 ～ 250 ms	値を大きくするほど残響音が初期反射音より遅れて発生するようになります。同じ「残響時間」でも、「残響音の遅れ」を長くしていくと大きな空間の残響感になります。
残響音の強さ	後部残響音のレベルを調節するパラメーターです	0 ～ 100%	値を大きくするほど後部残響音のレベルが大きくなり、余韻が強く感じられます。値を小さくするほど後部残響音のレベルが小さくなり、余韻が弱く感じられます。
デコーダー選択	MOVIE カテゴリーのサウンドプログラムを使用する際に、組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを選択します。💡1	PLIIx Movie PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx Movie（Dolby Pro Logic II Movie）デコーダーを使用します。
		Neo:6 Cinema	DTS Neo:6（Cinema）デコーダーを使用します。

💡**1：**以下のサウンドプログラムはサラウンドデコーダーを変更できません。
- Mono Movie
- Sports
- Action Game
- Roleplaying Game

サラウンドデコーダーで調節できるパラメーター

デコーダー	パラメーター	説明	設定値	
PLIIx Music	パノラマ	フロント音場の広がり感を調節します。オンにするとフロント L/R チャンネルの音声を左右に大きく回り込ませることで、広がり感を調節できます。	オン / オフ	初期設定オフ
	センターの広がり	センターチャンネルの音声を、好みに合わせて左右方向に振り分けるパラメーターです。0 にするとセンタースピーカーのみ、7 にするとフロントスピーカーからのみセンターチャンネルの音声が出力されます。	0 ～ 7	初期設定 3
	ディメンション	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じるフロント側とサラウンド側のレベル差を調節できます。－（マイナス）に設定するほどサラウンド側が、＋（プラス）に設定するほどフロント側が強くなります。	–3 ～ +3	初期設定 0
Neo:6 ミュージック	センターイメージ	フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。設定値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。	0.0 ～ 1.0	初期設定 0.3

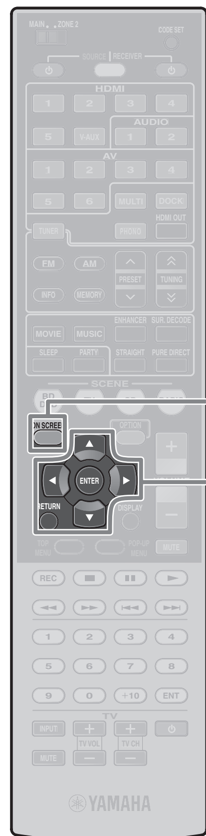
特定のサウンドプログラムで調節できるパラメーター

サウンドプログラム	パラメーター	説明	設定値	
2ch ステレオ	ダイレクト	アナログ音声を再生している場合は、トーンコントロールなどの状態に応じて、自動で DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスできます。より高音質な音声を楽しみたいときに使用します。	自動 （初期設定）	トーンコントロールの「Bass」と「Treble」の両方が 0dB であれば、DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスして出力します。
			オフ	回路をバイパスしません。
7ch ステレオ	センター音量	センターチャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンド左音量	サラウンド L チャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンド右音量	サラウンド R チャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	サラウンドバック音量	サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 50%
	サラウンドバック左音量	サラウンドバック L チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 35%
	サラウンドバック右音量	サラウンドバック R チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 35%
	フロントプレゼンス左音量	フロントプレゼンス L チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 33%
	フロントプレゼンス右音量	フロントプレゼンス R チャンネルの音量を調節します。	0 ～ 100%	初期値 33%

💡**1：**本機に接続されたスピーカーの有無によって、設定できるチャンネルは変化します。

詳細機能を設定する（設定メニュー）

スピーカーバランスの手動調整や HDMI 関連の各種設定など、本機の詳細機能は設定メニューで設定できます。



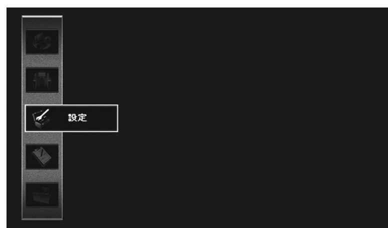
⑩ ON SCREEN
⑪ カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
⑪ ENTER
⑪ RETURN

設定メニューの表示 / 設定

設定メニューは、テレビ画面を見ながら操作できます。

1 ⑩**ON SCREEN を押す。**

2 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って「設定」を選び** ⑪**ENTER を押す。**



3 ⑪**カーソル ◁ / ▷ を使って設定を変更したい項目を選び** ⑪**ENTER を押す。**



設定メニューの種類

スピーカー設定	スピーカーの有無や音量バランス調整など、スピーカーの各種要素（パラメーター）を設定します（☞p.61）。
音声設定	音声 / 映像のずれの調整や最大音量の設定など、音声出力関連の機能を設定します（☞p.65）。
映像設定	映像信号変換時の設定(解像度やアスペクト比)など、映像出力に関する機能を設定します(☞p.66)。
HDMI 設定	HDMI コントロール機能のオン / オフ切り替え、アナログ映像の HDMI 変換時の設定（解像度やアスペクト比）など、HDMI に関する機能を設定します（☞p.67）。
マルチゾーン設定	マルチゾーンに関する機能を設定します（☞p.68）。
ファンクション設定	オートパワーダウン機能の設定など、本機をより便利に使うための機能を設定します（☞p.68）。
表示言語	TV 画面に表示する項目名やメッセージの言語を設定します（☞p.69）。

4 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って設定したい項目を選び** ⑪**ENTER を押す。**



選んだメニュー項目にサブメニューがある場合は、さらに ⑪**カーソル △ / ▽** を使って設定したい項目を選び、⑪**ENTER** を押す。

5 ⑪**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って選んだ項目の設定を変更する。**

⑪**RETURN** を押すと、1 つ前の画面表示に戻せます。手順 4 ～ 5 を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 **設定を終えるには** ⑩**ON SCREEN を押す。**

スピーカーのパラメーター設定



スピーカー設定項目

自動測定	自動でスピーカー設定を最適化します。
手動設定	手動でスピーカーのパラメーターを調整します。

❚ 自動でスピーカー設定を測定する

自動測定

YPAO を使って自動的にスピーカー構成を最適化します（☞ 簡易ガイド、p.27）。

❚ 手動でスピーカー設定を変更する

手動設定

手動で次のパラメーターが設定できます。

パワーアンプ割り当て	一覧からお好みのスピーカー構成を選んで設定します。
構成	スピーカーの大きさの設定や、低音域成分の下限周波数を設定など、手動でスピーカー設定を調整します。
距離	スピーカーごとにリスニングポジションとの距離を設定し、各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう調節します。
音量	本機に接続されているスピーカーごとに音量を調節します。
パラメトリック EQ	本機に搭載されたイコライザーを使って音色を調節します。
テストトーン	テストトーン出力のオン / オフを切り替えます。

❚ スピーカー構成を本機に割り当てる

パワーアンプ割り当て

本機では通常の 7.1 チャンネルのスピーカー接続に加えて、プレゼンススピーカー、バイアンプ接続、ゾーン 2 機能を使うことによりさらに多様なスピーカー構成が可能です。

7ch Normal	7 チャンネルのスピーカーを使用する場合に選びます。また、7 チャンネルのスピーカー構成にプレゼンススピーカーを加える場合や、5 チャンネルのスピーカーを使用する場合もこの設定を選びます（☞ 簡易ガイド）。
7ch +1ZONE	7 チャンネルのスピーカーをメインルームで使用し、さらに別の部屋（ゾーン 2）でスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.15）。
5chBI-AMP	左右のフロントスピーカーをバイアンプ接続して、5 チャンネルのスピーカーを使用する場合に選びます（☞p.15）。

設定する

スピーカーの各種パラメーターを手動設定する

構成

パラメーターを手動で設定して、スピーカーの出力特性を調整します。

「構成」メニューには、スピーカーの大きさ（大または小）を設定するパラメーターがあります。「小」に設定したスピーカーの低音域は、サブウーファー（サブウーファーが無効な場合はフロントスピーカー）から出力されます。目安としてご使用になるスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「大」、16cm 未満の場合は「小」に設定してください。

設定項目		設定値	
フロント	フロントスピーカーのサイズを選択します。💡1	大	フロントスピーカーが大きい場合に選択します。フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。 サブウーファーを接続していない場合は、自動的に「大」が選択されます。
		小 （初期設定）	フロントスピーカーが小さい場合に選択します。フロントチャンネルの低音域の音声は、サブウーファーから出力されます。💡2
センター	センタースピーカーのサイズを選択します。	大	センタースピーカーが大きい場合に選択します。センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
		小 （初期設定）	センタースピーカーが小さい場合に選択します。💡2
		無	センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。
サラウンド	サラウンドスピーカーのサイズを選択します。	大	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択します。サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
		小 （初期設定）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択します。💡2
		無	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択します。再生ソースのサラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。💡3 💡4
サラウンドバック	サラウンドバックスピーカーのサイズを選択します。💡5 💡6	大 1 台	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。
		大2台	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。
		小 1 台	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。💡2
		小2台 （初期設定）	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。💡2
		無	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンド L/R スピーカーおよびサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）に振り分けられます。
フロントプレゼンス	フロントプレゼンススピーカーの有無を設定します。	使用する （初期設定）	フロントプレゼンススピーカーを接続している場合に選択します。
		使用しない	フロントプレゼンススピーカーを接続していない場合に選択します。
サブウーファー	サブウーファーの有無を設定します。また低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を調節して音像をはっきりさせます。	使用する （初期設定）	サブウーファーが接続されているときに選択します。再生ソースの LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた低音域の音声がサブウーファーから出力されます。💡7 また、低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を調節して音像をはっきりさせます。 正相 サブウーファーの位相を反転しません。 逆相 サブウーファーの位相を反転します。
		使用しない	サブウーファーを接続していないときに選択します。サブウーファーから出力される低音域の音声は、フロントスピーカーから出力されます。

設定項目		設定値	
エクストラベース	フロントチャンネルの低音域の音声をサブウーファーで再生するか、サブウーファーとフロントスピーカーの両方で再生するかを設定します。	オフ（初期設定）	フロントスピーカーの大きさに応じて、フロントスピーカーまたはサブウーファーのどちらか一方から低音域の音声が出力されます。
		オン 💡8	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声が出力されます。
低音クロスオーバー	サイズが「小」に設定されたスピーカーから出力される、低音域成分の下限周波数を設定します。	40Hz、60Hz、80Hz（初期設定）、90Hz、100Hz、110Hz、120Hz、160Hz、200Hz	設定値よりも低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。💡9

💡1 :「サブウーファー」が「使用しない」の場合は、「大」のみ選択できます。フロントスピーカーのサイズが「小」のときに「サブウーファー」を「使用しない」に切り替えると、自動で「大」に切り替わります。

💡2 :「低音クロスオーバー」を設定するとサブウーファーへ送られる低音の周波数帯を設定できます。

💡3 :「無」に設定した場合、実際にスピーカーが接続されていても、サラウンドスピーカー（およびサラウンドバックスピーカー）から音声は出力されません。

💡4 :「無」に設定されている間、サウンドプログラムがバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。

💡5 : サラウンドスピーカーが無効な場合、サラウンドバックスピーカーは自動で「無」に切り替わります。

💡6 : 再生ソースに含まれるサラウンドバックチャンネルの音声は、ここで設定した内容に応じて 1 つにミックスされたり（6.1 チャンネルの場合）、サラウンドスピーカーへと振り分けられたり（5.1 チャンネルの場合）して出力されます。

💡7 :「エクストラベース」の設定を変更すると、サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声を出力できます。

💡8 :「サブウーファー」を「使用しない」に設定した場合や「フロント」を「小」に設定したとき、「オン」は選択できません。

💡9 : お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、サブウーファー側のクロスオーバー周波数を最大に設定し、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）に調節してください。

スピーカーの設置間隔を手動で設定する

距離

スピーカーごとにリスニングポジションとの距離を設定し、各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう調節します。

設定単位を選ぶには

⑪**カーソル** △ **/** ▽ を使って単位（メートル（初期設定）またはフィート）を選択し、⑪**ENTER** を押します。

各スピーカーの間隔を設定するには

⑪**カーソル** △ **/** ▽ を使って設定したいスピーカーを選択し、⑪**ENTER** を押します。そのあと ⑪**カーソル** ◁ **/** ▷ を使ってスピーカーとリスニングポジションの間隔を設定します。

設定範囲	0.30 m ～ 24.0 m （1.0 ft ～ 80.0 ft）
初期設定	3.00 m （10.0 ft） （フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバック左 / サラウンドバック右 / フロントプレゼンス左 / フロントプレゼンス右 / サブウーファー）
設定単位	0.05 m （0.2 ft）

スピーカーごとに音量を調節する

音量

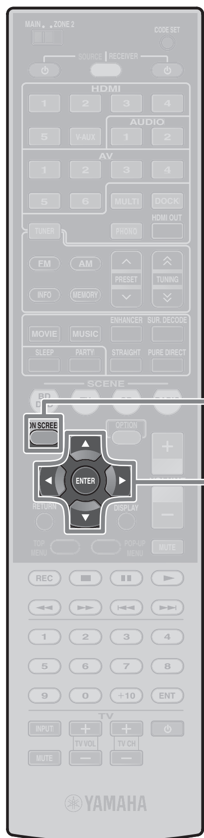
本機に接続したスピーカーごとに音量を調節します。

音量を調節するには

⑪**カーソル** △ **/** ▽ を使ってスピーカーを選択し、⑪**ENTER** を押します。そのあと
⑪**カーソル** ◁ **/** ▷ を使って音量を調節します。

音量を調節する際は、よくお使いになる入力ソースを再生して、実際に出力される音量を確かめながら微調整することをおすすめします。

設定範囲	–10.0 dB ～ +10.0 dB
初期設定	0.0 dB （フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバック左 / サラウンドバック右 / フロントプレゼンス左 / フロントプレゼンス右 / サブウーファー）
設定単位	0.5 dB



⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

■ イコライザーを使って音色を調節する

パラメトリック EQ

パラメトリックイコライザーを使って音色を調節します。

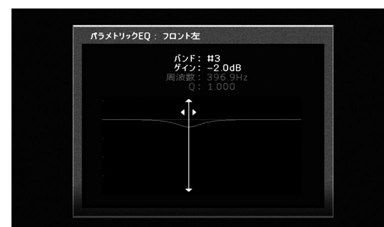
設定項目		設定値	
PEQ 選択	使用するイコライザーの種類を選びます。	**手動編集**	手動でイコライザーを調節します。詳しくは「手動でイコライザーを調節するには」をご覧ください。
		フラット	各スピーカーの特性を均一（フラット）にします。
		フロントに近似	フロント左／右スピーカーの特性に、各スピーカーの特性を合わせます。
		ナチュラル	すべてのスピーカーの音質を、高域特性を下げた状態に揃えます。高域がきつく聞こえるときに設定してください。
		使用しない	イコライザーを使用しません。
PEQ データコピー	「自動測定」で得られた 3 種類のパラメトリックイコライザータイプの中から 1 種類を選んで手動編集エリアにコピーします。	**フラット > 手動編集**	パラメトリックイコライザー「フラット」の値を手動編集エリアにコピーします。
		フロント > 手動編集	パラメトリックイコライザー「フロント」の値を手動編集エリアにコピーします。
		ナチュラル > 手動編集	パラメトリックイコライザー「ナチュラル」の値を手動編集エリアにコピーします。
フロント左 / フロント右 / センター / サラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバック左 / サラウンドバック右 / フロントプレゼンス左 / フロントプレゼンス右	各スピーカーの音響特性を手動で編集します。「PEQ 選択」で「手動編集」を選択してください。設定方法については、「手動でイコライザーを調節するには」をご覧ください。	**バンド / ゲイン**	バンドを選択し、ゲインを調節します。バンドは #1 ～ #7 の 7 つから選びます。それぞれのバンドは、あらかじめ中心周波数が設定されています。
		周波数 / ゲイン	中心周波数とゲインを調節します。中心周波数は、#1 ～ #4 のバンドでは 31.3Hz ～ 16.0kHz、#5 ～ #7 のバンドでは 500.0Hz ～ 16.0kHz の範囲で選べます。
		Q / ゲイン	周波数帯域の帯域値とゲインを調節します。 帯域値は、0.500 ～ 10.080 の範囲で選べます。
		リセット	各スピーカーの特性を初期設定状態に戻します。

● 手動でイコライザーを調節するには

1 **⑪カーソル △ / ▽ を使って調整したいスピーカーを選び ⑪ENTER を押す。**

2 **⑪カーソル △ / ▽ を使って「バンド / ゲイン」、「周波数 / ゲイン」または「Q/ ゲイン」を選び ⑪ENTER を押す。**

3 **⑪カーソル ◁ / ▷ を使ってパラメーターを調節し、⑪カーソル △ / ▽ を使ってゲインを調節する。**
ゲインはそれぞれのパラメーターのレベルの強さを表します。0.5dB ごとに、– 20.0dB ～ +6.0dB の範囲で調節できます。



4 **⑪ENTER を押して編集画面を閉じる。**

5 **手順 1 ～ 3 を繰り返して他のパラメーターを調節する。**

各スピーカーの設定を初期設定に戻すには、「リセット」の「はい」を選んで ⑪**ENTER** を押してください。

6 **調整が終わったら、⑩ON SCREEN を押して設定を終了する。**

❚ テストトーンを出力する

テストトーン

テストトーン出力のオン / オフを切り替えます。

設定値	説明
オフ（初期設定）	テストトーンを出力しません。
オン	テストトーンを出力します。

テストトーンは本機を設定するさまざまな状況で使用できます。たとえばスピーカーごとに音量調整する場合（☞p.63）や、パラメトリックイコライザーを調節するときにテストトーンを出力すれば、実際の効果を確認しながら設定できます。設定を「オフ」に戻すか、セットアップメニューを終了すると、テストトーンの出力を停止できます。

音声出力の設定

音声設定



設定項目			設定値	
リップシンク設定	映像と音声の出力タイミングのずれを調節します。	自動補正 映像 / 音声のタイミング自動補正（オートリップシンク）に対応しているテレビと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動で補正します。	テレビ側が自動補正機能に対応している場合に選びます。必要であれば補正時間を微調節できます。	
		手動補正 補正時間を手動で調整します。テレビ側がオートリップシンクに対応していない場合に設定している場合に使用します。	0 ms ～ 250 ms （1 ms 単位）	初期設定 0 ms

設定項目		設定値	
ダイナミックレンジ	Dolby Digital や DTS 信号を再生した場合に、ダイナミックレンジを調節する方法を選びます。	最大 （初期設定）	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。
		標準	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジで再生します。
		最小 / 自動	（最小）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。 （自動）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
音量の上限	誤って音量が上がりすぎないように、最大音量を設定します。初期設定（+16.5 dB）では、最大音量まで出力できます。	-30.0 dB ～ +15.0 dB、 +16.5 dB （単位 5.0 dB）	初期設定 +16.5 dB
音量の初期値	電源をオンにした直後の音量を設定します。「オフ」に設定した場合は、前回電源をスタンバイにしたときの音量が適用されます。💡1	オフ、 ミュート、 -80 dB ～ +16.5 dB （単位 5.0 dB）	初期設定 オフ
Adaptive DSP Level	本機の音量と DSP レベルを連動して調節します。音量を小さくすると、DSP レベルは自動的に強くなります。	オフ	DSP レベルを自動的に調節しません。
		オン （初期設定）	DSP レベルを自動的に調節します。

💡 **1 :**「音量の上限」の設定値が「音量の初期値」の設定値よりも小さい場合、「音量の上限」の設定が優先されます。

設定する

映像出力の設定

映像設定



▌アナログ端子間の映像信号を変換する

アナログ端子間変換

アナログ端子間のビデオコンバージョン機能をオン／オフします（コンポーネント、D4 ビデオ、ビデオ端子）。

設定値	説明
オフ	アナログ端子間の映像信号変換を無効にします。
オン（初期設定）	アナログ端子間の映像信号変換を有効にします。

- HDMI 入力端子に映像信号を入力している、または 1080p アナログ映像信号を入力している場合以外、アナログから HDMI へのビデオコンバージョン機能は常に有効です。
- 走査線 480 と 576 をもつ映像信号を相互に変換することはできません。
- 480p、1080i、720p 信号は VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されません。
- 変換された映像信号は、MONITOR OUT 端子へのみ出力されます。
- 外部機器を使って録画するときは、再生機器と同じ種類の映像接続を行ってください。
- 特殊な映像信号を出力する機器（ゲーム機など）を本機のコンポジットビデオ端子に接続した場合、映像が正しく出力されなかったり、信号が変換されなかったりすることがあります。このような場合は「アナログ端子間変換」を「オフ」に設定してください。

▌HDMI 信号変換時の解像度とアスペクト比を設定する

信号処理

HDMI 端子から入力した映像信号の解像度やアスペクト比を処理します。

設定値	内容
オフ（初期設定）	HDMI 入力信号を処理しません。HDMI 入力信号に対する「解像度」および「アスペクト」の設定は無効になります。
オン	HDMI 入力信号を処理します。「オン」を選択すると、次に HDMI 入力信号に対する「解像度」および「アスペクト」の設定画面に移ります。

「信号処理」を「オン」に設定すると、「解像度」および「アスペクト」の設定ができます。

設定項目		設定値	
解像度	映像入力信号を HDMI OUT 端子から出力するときに解像度を変換します。 各入力信号は以下の信号に変換できます。 • 480i → 480p/720p/1080i/1080p • 480p → 720p/1080i/1080p	自動判別（初期設定）	出力先のテレビの解像度に応じて自動で信号を変換して出力します。
		480p	480p 信号に変換して出力します。
		720p	720p 信号に変換して出力します。
		1080i	1080i 信号に変換して出力します。
		1080p	1080p 信号に変換して出力します。
		変換しない	解像度を変換せずにそのまま出力します。
アスペクト	映像入力信号を HDMI OUT 端子から出力するときに、縦横比（アスペクト比）4：3 の映像信号を 16：9 に変換します。	変換しない（初期設定）	縦横比を変換せずに、元の比率で映し出します。
		16：9 ノーマル	テレビ画面の左右に黒い帯をつけて、4：3 の映像を 16：9 のテレビで最適な映像になるように出力します。

- 解像度 720p/1080i/1080p の映像信号はアップスケーリングできません（☞p.86）。
- 本機とテレビが HDMI 接続されているとき、本機はテレビで対応する解像度を検出して、対応する解像度のみを設定値として表示します。
- 本機がテレビで対応する解像度を検出できないときは、アドバンスドセットアップメニューの「MON.CHK」で「SKIP」を選んでから解像度の設定を行ってください（☞p.76）。

HDMI の設定

HDMI 設定



設定項目		設定値		
HDMI コントロール	HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。HDMI コントロール機能については、**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞簡易ガイド）をご覧ください。	オフ		HDMI コントロール機能をオフにします。
		オン（初期設定）		HDMI コントロール機能をオンにします。💡**1** HDMI コントロール機能に対応しない HDMI 機器を接続している場合、設定をオンにしても効果はありません。
コントロール選択	HDMI コントロール機能を割り当てる HDMI OUT 端子を選びます。HDMI コントロール機能の設定方法については**「テレビの音声を本機で聴く」**（☞p.18）をご覧ください。	OUT1（TV1）（初期設定）		HDMI OUT 1 端子に HDMI コントロール機能を割り当てます。
		OUT2（TV2）		HDMI OUT 2 端子に HDMI コントロール機能を割り当てます。
ARC（オーディオリターンチャンネル）	オーディオリターンチャンネル機能のオン / オフを選択します。 オーディオリターンチャンネル機能を使ってテレビの音声を入力する方法は、**「HDMI コントロール機能およびオーディオリターンチャンネル機能に対応しているテレビ」**（☞p.18）をご覧ください。	オフ（初期設定）		オーディオリターンチャンネル機能をオフにします。
		オン		オーディオリターンチャンネル機能をオンにします。💡**3**
TV 音声入力	HDMI コントロール機能をオンにした際、テレビの音声を入力する入力ソースを選びます。テレビ側がオーディオリターンチャンネル機能に対応している場合は、ここで選んだ入力ソースにテレビの音声が入力されます。💡**3** 💡**4**	TV1	AV1 ～ AV6（初期設定 AV4）	テレビの音声入力用として AV1-6 のいずれか 1 つを割り当てます。
		TV2	AUDIO1 ～ AUDIO2	テレビの音声入力用として AUDIO1-2 のいずれか 1 つを割り当てます。
			AV1 ～ AV6（初期設定 AV1）	テレビの音声入力用として AV1-6 のいずれか 1 つを割り当てます。
音声出力	HDMI1-5 端子から入力された音声を、本機から出力するか、HDMI OUT 1/ HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから出力するかを選択します。	アンプ	オフ	本機に接続したスピーカーから音声を出力しません。
			オン（初期設定）	本機に接続したスピーカーから音声を出力します。外部機器からは、本機で再生可能なフォーマットで音声が出力されます。
		OUT1	オフ（初期設定）	本機の HDMI OUT 1 端子に接続したテレビから音声を出力しません。
			オン	本機の HDMI OUT 1 端子に接続したテレビから音声を出力します。外部機器からは、テレビで再生可能なフォーマットで音声が出力されます。
		OUT2	オフ（初期設定）	本機の HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから音声を出力しません。
			オン	本機の HDMI OUT 2 端子に接続したテレビから音声を出力します。外部機器からは、テレビで再生可能なフォーマットで音声が出力されます。
スタンバイスルー 💡**2**	本機がスタンバイのときに、HDMI 端子のいずれかから入力された映像 / 音声をテレビへ出力します（スタンバイスルー機能）。💡**5**	オフ		スタンバイスルー機能を無効にします。
		オン		HDMI 入力に入力された映像 / 音声をテレビへ出力します。 スタンバイ中はリモコンの [4] **HDMI1-5** または [4] **V-AUX** を使ってテレビへ出力される HDMI 入力を切り替えることも可能です。 スタンバイ中に HDMI 入力が切り替わると、HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが 2 回点滅します。

💡**1：**HDMI コントロールをオンにすると、スタンバイスルー機能も自動でオンになります。本機がスタンバイのときは、最後に選ばれた HDMI 入力の映像 / 音声がテレビへ出力されます。

💡**2：**「HDMI コントロール」のオン / オフ設定によって表示 / 非表示が変わります。

💡**3：**オーディオリターンチャンネル機能が有効になっている間は、「TV 音声入力」で選択した入力端子は使用できません。

💡**4：**テレビの音声を入力する方法は、**「テレビの音声を本機で聴く」**（☞p.18）をご覧ください。

💡**5：**スタンバイスルーがオンのときは、フロントパネルの HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが点灯します。スタンバイスルー中は、1 ～ 3W の電力を消費します。

マルチゾーン機能を設定する

マルチゾーン 設定



▌ゾーン 2 の音量を調節する

ゾーン2設定

設定項目		設定値	初期設定
音量の上限	誤って音量が上がりすぎないように、ゾーン 2 の最大音量を設定します。初期設定（+16.5dB）では、最大音量まで出力できます。	–30.0dB ～ +16.5dB（単位 0.5dB）	16.5dB
音量の初期値	ゾーン 2 の電源をオンにした直後の音量を設定します。「オフ」に設定した場合は、前回電源をスタンバイにしたときの音量が適用されます。💡1	オフ、ミュート、–80.0 ～ +16.5dB（単位 0.5dB）	オフ

💡1 :「音量の上限」の設定値が「音量の初期値」の設定値よりも小さい場合、「音量の上限」の設定が優先されます。

▌パーティーモードを設定する

パーティーモード設定

パーティーモードにすると、メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2 で楽しむことができます（☞p.78）。「対象：ゾーン 2」を選んでから、「無効」か「有効」を選んでください。

設定値	内容
無効	パーティーモード中にゾーン 2 に音声が出力されません。
有効（初期設定）	パーティーモード中にゾーン 2 に音声が出力されます。

本機をより便利に使うための設定

ファンクション設定



オートパワーダウン

設定項目		設定値	
タイマー	本体やリモコンを長時間操作しなかったときに、自動で本機をスタンバイにします（オートパワーダウン機能）。初期状態ではオフに設定されていますが、スタンバイまでの時間を設定することで機能を有効にできます。💡1	4 時間	4 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		8 時間	8 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		12 時間	12 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		オフ（初期設定）	オートパワーダウン機能を無効にします。

💡1 : オートパワーダウン機能を有効にした場合、スタンバイへ移行する 30 秒前から、フロントパネルディスプレイに残り時間が表示されます。スタンバイへの移行を中止したい場合は、残り時間がゼロになる前に本体またはリモコンを操作してください。

表示設定

フロントパネルディスプレイやテレビ画面の表示方法を設定します。

設定項目			設定値	
本体表示器設定	フロントパネルディスプレイ表示の明るさや、スクロール表示の方法を設定します。	**明るさ** フロントパネルディスプレイの明るさを設定します。設定値を小さくするほどフロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。	–4 ～ 0	初期設定 0
		スクロール表示 曲名や放送局名などがフロントパネルディスプレイに表示されるときに、14 文字を超える場合の表示方法を設定します。	継続（初期設定）	すべての文字をスクロールしながら、繰り返し表示します。
			1 回	すべての文字を一度スクロールして表示したあと、スクロールを停止し、最初の文字から 14 文字目までを表示します。

設定項目		設定値	
壁紙設定	映像が入力されていないときに表示する、壁紙を選びます。	ピクチャー １～３	映像が入力されていないときに、背景画像が表示されます。
		グレー	映像が入力されていないときに、背景がグレー一色になります。

トリガー出力

TRIGGER OUT 端子に接続した機器のコントロール機能に関する設定をします。TRIGGER OUT 端子について詳しくは、26 ページをご覧ください。

設定項目		設定値	
トリガーモード	トリガー機能によって本機と外部機器を連動させる動作を選びます。	パワー	本機の電源をオンにしたときに電気信号を出力します。
		ソース	入力ソースを切り替えたときに電気信号を出力したり、出力を停止したりします。
		手動	手動で電気信号を出力したり、出力を停止したりします。
対象ゾーン	トリガー機能で動作を連動させるゾーンを選びます。 「トリガーモード」で「パワー」を設定している場合は、選択したゾーンの電源をオンにしたときに電源信号を出力します。 「トリガーモード」で「ソース」を設定している場合は、選択したゾーンの入力ソースを切り替えたときに電気信号を出力します。	メイン	メインゾーンの動作に連動して電気信号を出力します。
		ゾーン２	ゾーン２の動作に連動して電気信号を出力します。
		全ゾーン （初期設定）	メインゾーンやゾーン２の動作に連動して電気信号を出力します。
対象ソース	入力ソースの切り替えによって、電気信号を出力したり、停止したりします。 本項目を設定するには、「トリガーモード」を「ソース」に設定する必要があります。 **入力ソース** HDMI1-5、 AV1-6、 VIDEO AUX、 チューナー、 AUDIO1-2、 DOCK、 マルチ CH 入力	ロー	本項目で選んだ「対象ソース」を入力選択したときに、電気信号の出力を停止します。
		ハイ （初期設定）	本項目で選んだ「対象ソース」に入力選択したときに、電気信号が出力します。
手動設定	手動で、電気信号を出力したりできます。 この設定は TRIGGER OUT 端子に接続している外部機器のトリガー機能が適切に動作するか確認したいときに行います。	ロー	電気信号の出力を停止します。
		ハイ （初期設定）	電気信号を出力します。

設定保護

誤操作によって設定値が変更されないよう、セットアップメニューの設定を保護します。

設定値	内容
しない （初期設定）	設定を保護しません。
する	「しない」に再設定するまでセットアップメニューの設定を保護します。「する」に設定している間、設定変更しようとすると「保護されています」と表示され、操作が禁止されます。

表示言語の選択

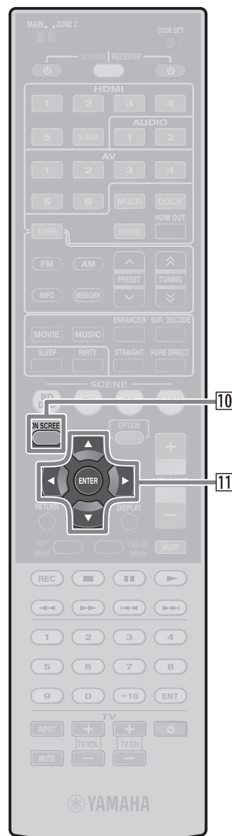
表示言語



テレビ画面に表示する言語を切り替えます。1

設定値	内容
English	表示言語を英語に変更します。
日本語（初期設定）	表示言語を日本語に変更します。
Français	表示言語をフランス語に変更します。
Deutsch	表示言語をドイツ語に変更します。
Español	表示言語をスペイン語に変更します。
Русский	表示言語をロシア語に変更します。

1：フロントパネルディスプレイの表示は英語のみです。



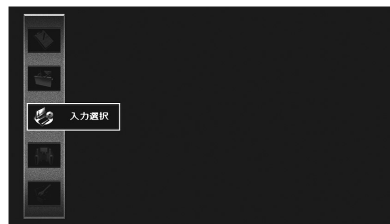
⑩ **ON SCREEN**
⑪ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑪ **ENTER**

本機の設定情報を確認する（情報メニュー）

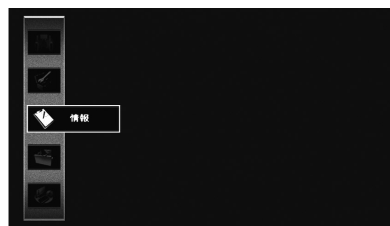
本機の設定情報をテレビ画面に表示します。

情報メニューの表示

1 ⑩**ON SCREEN を押す。**



2 ⑪**カーソル △ / ▽ を使って「情報」を選び ⑪ENTER を押す。**



3 ⑪**カーソル ◁ / ▷ を使って表示させたい情報を選んで ⑪ENTER を押す。**



■ 音声信号

音声信号のフォーマット、チャンネル数やサンプリング周波数などの情報を表示します。

信号方式	フォーマットを表します。本機がデジタル信号を認識できないときは、自動的にアナログ入力に切り替わります。
サンプリング	アナログ信号をデジタル信号化するときの、1 秒あたりのサンプル数を表します。
チャンネル	入力信号に含まれているチャンネル数を表します（フロント／サラウンド／ LFE）。例えば、入力信号にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。
ビットレート	入力信号の 1 秒あたりのデータ量を表します。
ダイアローグ	ビットストリーム信号のダイアログノーマライゼーションレベルを表します。

- 本機が情報を正しく表示できない場合は、「−−−」と表示されます。
- 次世代オーディオフォーマットでは、独立したサラウンドバック左 / 右チャンネル信号を含まずに、192kHz のビットレートでエンコードされている場合があります。
- ビットストリーム信号をそのまま出力するように設定していても、再生機器によってはドルビー TrueHD やドルビーデジタルプラス信号がドルビーデジタル信号に変換されたり、DTS-HD マスターオーディオや DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ信号が DTS 信号に変換されたりすることがあります。

■ ビデオ信号

映像信号の方式や解像度などの情報を表示します。

HDMI 信号	映像入力信号と、HDMI OUT 端子から出力している映像信号を表します。
HDMI 解像度	入力信号（アナログまたは HDMI）と出力信号（HDMI）の解像度を表します。
アナログ解像度	映像入力信号と、本機の MONITOR OUT 端子から出力されるアナログ映像信号の解像度を表します。
HDMI エラー	HDMI 信号や HDMI 機器に関するエラーを表します。（☞p.81）

■ HDMI モニタ

HDMI OUT 1-2 端子に接続しているテレビの情報を表示します。

インターフェース	HDMI 接続しているテレビのインターフェースを表示します。
ビデオ解像度	HDMI 接続しているテレビのビデオ解像度を表示します。

■ システム

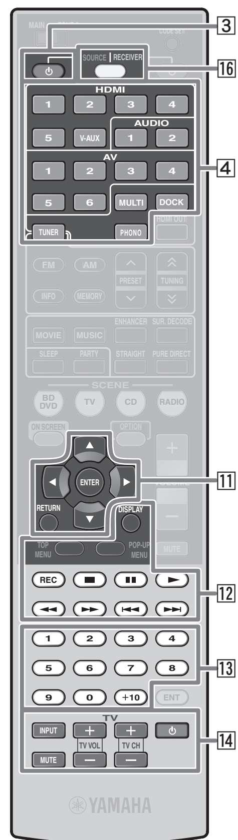
本機のシステム情報を表示します。

リモート ID	本機に設定しているリモコン ID 番号を表示します。
TV フォーマット	本機が対応している映像規格を表示します。

■ ゾーン

ゾーンの設定を表示します。

入力	ゾーン 2 に設定している入力ソースを表示します。
音量	ゾーン 2 の音量を表示します。



[3] **SOURCE ⏻**
[4] **入力ソース選択キー**
[11] **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
[11] **ENTER**
[11] **RETURN**
[12] **外部機器操作キー**
[12] **DISPLAY**
[13] **数字キー**
[14] **TV 操作キー**
[16] **SOURCE/RECEIVER**

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

外部機器操作用のコード（リモコンコード）を登録すれば、本機のリモコンを使ってテレビや DVD プレーヤーなどの外部機器を操作できます。
リモコンコードは入力ソースごとに登録できます。個別に設定しておけば、選択した入力ソースに応じて操作可能な機器がスムーズに切り替わります。

外部機器を操作した後に、リモコンを使って本機を操作できない場合は、[16]**SOURCE/RECEIVER** を押してオレンジに点灯させてから再度操作してください。

リモコンコード設定

工場出荷時には、いくつかの入力ソースに次のリモコンコードが割り当てられています。また、入力ソースごとに、新たにリモコンコードを登録することもできます。登録するリモコンコードについては、**「リモコンコード一覧」**（☞p.74）をご覧ください。

入力ソース	初期設定		
	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
HDMI1	DVD プレーヤー	Yamaha	2064
HDMI2	—	—	—
HDMI3	—	—	—
HDMI4	—	—	—
HDMI5	—	—	—
AV1	—	—	—
AV2	—	—	—
AV3	CD プレーヤー	Yamaha	5095
AV4	—	—	—
AV5	—	—	—
AV6	—	—	—
AUDIO1	—	—	—
AUDIO2	—	—	—
MULTI	—	—	—
PHONO	—	—	—
V-AUX	—	—	—
DOCK	DOCK	Yamaha	5089
TUNER	チューナー	Yamaha	5085
⏻（[14]**TV 操作キー**）💡**1**	—	—	—

DOCK キーおよび TUNER キーは初期設定から変更できません。

外部機器を操作するキー

次のキーは、外部機器側に対応するキーがあるときにのみ動作します。

[3]SOURCE ⏻

外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

[11]カーソル、[11]ENTER、[11]RETURN

外部機器のメニュー操作などをします。

[12]DISPLAY

外部機器のディスプレイ表示などを切り替えます。

[12]外部機器操作キー

外部機器の録画 / 再生などの操作や、メニュー表示キーとして動作します。

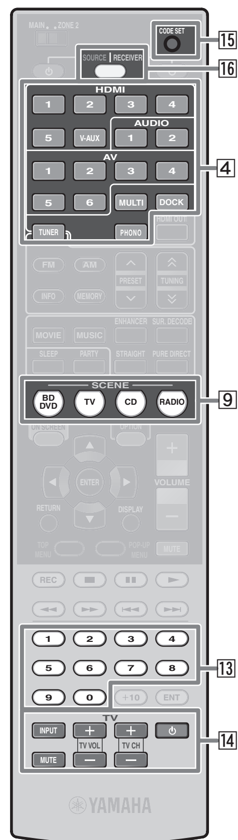
[13]数字キー

外部機器用の数字キーとして動作します。

[14]TV 操作キー 💡1

[14]**INPUT**	テレビの映像入力を切り替えます。
[14]**MUTE**	テレビの音量を一時的に消音します。
[14]**TV VOL +/–**	テレビの音量を操作します。
[14]**TV CH +/–**	テレビのチャンネルを変更します。
[14]⏻	テレビの電源オン / オフを操作します。

💡 **1：** 外部機器のリモコンコードを [4]**入力ソース選択キー**か [14]⏻（[14]**TV 操作キー**）に登録すると、次の操作が可能です：
- テレビのリモコンコードを [4]**入力ソース選択キー**に登録すると、[11]**カーソル**、[13]**数字キー**、[14]**TV 操作キー**で登録したテレビを操作できます。
- テレビ以外の外部機器のリモコンコードを [4]**入力ソース選択キー**に登録した場合でも、テレビのリモコンコードを [14]⏻ に登録すると、[14]**TV 操作キー**で登録したテレビを操作できます。



[4] **入力ソース選択キー**
[4] **HDMI2**
[4] **AUDIO1**
[9] **SCENE**
[13] **数字キー**
[14] **TV 操作キー**
[14] ⏻
[15] **CODE SET**
[16] **SOURCE/RECEIVER**

外部機器操作用リモコンコードの登録

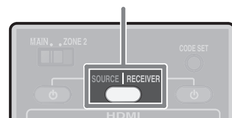
ここでは、HDMI2 端子に接続した BD プレーヤー用に、リモコンコード「2011」を登録する操作を例にあげ、設定方法を説明します。

- 次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 2 からやり直してください。
- 機器の名称や型番から、ご使用の外部機器のリモコンコードを設定することはできません。**「リモコンコード一覧」**（☞p.74）を使って、外部機器のカテゴリーとメーカーから、使用可能なリモコンコードを検索してください。
- 複数のリモコンコードがある場合は、まずリストの先頭にあるコードを設定し、うまく動作しない場合は以降のコードを試してください。
- 外部機器側のリモコン ID が「ID1」に設定されていることをご確認ください。他の ID に変更されている場合、正常にリモコンコードが設定されていても動作しません。
- 赤外線受光部を持たないテレビやゲーム機は、本機のリモコンで操作できません。

1 「リモコンコード一覧」（☞p.74）を使って、ご使用になる外部機器のカテゴリーとメーカーを元に、使用可能なリモコンコードを探す。

2 ボールペンなどの先の細いもので、[15]CODE SET を押す。

[16]**SOURCE/RECEIVER** が 2 回点滅します。



3 リモコンの [4]HDMI2 を押して、入力ソースを HDMI2 に切り替える。

以降の操作をすると、ここで選んだ入力ソースにリモコンコードを登録できます。💡1

登録先の入力ソースはリモコンの [4]**入力ソース選択キー**で選択します。たとえば本機のリモコンで AUDIO1 端子に接続した CD プレーヤーを操作したい場合は、手順 3 で [4]**AUDIO1** を選んでください。

4 [13]数字キーを押してリモコンコード「2011」を入力する。💡2

[16]**SOURCE/RECEIVER** が 2 回点滅したら登録完了です。

2 → 0 → 1 → 1

- 登録に失敗した場合は、[16]**SOURCE/RECEIVER** が 6 回点滅します。リモコンコードの登録をやり直すには、再度手順 2 から操作してください。
- 複数のリモコンコードがある外部機器の場合は、他のリモコンコードが対応していることがあります。もう一度手順 2 から操作して他のリモコンコードを試してください。

5 シーンの切り替えと連動させて BD プレーヤーを操作するには、[9]SCENE を押しながら、[4]HDMI2 を約 3 秒押し続ける。

以降は入力ソースを HDMI2 に切り替えたり、HDMI2 を登録したシーンを選ぶだけで外部機器が操作可能になります。

他の外部機器を操作する場合も、[9]**SCENE** を押しながら手順 3 で選んだ入力ソースのキーを約 3 秒押し続けることで、同様に操作できます。

- 一部メーカーの BD/DVD レコーダーをご使用の場合は、本機側のリモコン ID を「ID2」に変更しないと動作しないことがあります。リモコンコード登録後、外部機器を操作できない場合は、リモコン ID を変更（☞p.75）して動作確認してください。
- 本機側のリモコン ID を変更しても、登録済みの外部機器操作用のリモコンコードは変更されません。
- 外部機器操作用のリモコンコードをリモコンに登録している場合、乾電池を外したまましばらく（2 分以上）放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、登録したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

💡 **1 :** [14]**TV 操作キー**にテレビ用リモコンコードを登録したい場合は、手順 3 で [14]⏻（[14]**TV 操作キー**）を押してください。
💡 **2 :** [14]**TV 操作キー**にテレビ用リモコンコードを登録したい場合は、手順 4 でテレビ用のリモコンコードを入力してください。



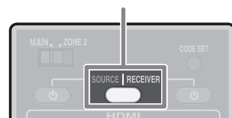
⑬ **数字キー**
⑮ **CODE SET**
⑯ **SOURCE/RECEIVER**

登録したリモコンコードの初期化

設定されたすべての外部機器操作用のリモコンコードを初期化して工場出荷時の状態に戻します。
次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 1 からやり直してください。

1 **ボールペンなどの先の細いもので、⑮CODE SET を押す。**

⑯**SOURCE/RECEIVER** が 2 回点滅します。



2 **リモコンの ⑯SOURCE/RECEIVER を押す。**

3 **⑬数字キーを押して「9981」と入力する。**

9 → 9 → 8 → 1

初期化が完了すると、⑯**SOURCE/RECEIVER** が 2 回点滅します。
設定に失敗した場合は、⑯**SOURCE/RECEIVER** が 6 回点滅します。初期化をやり直すには、再度手順 1 から操作してください。

設定する

リモコンコード一覧

テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa	0078, 0379
Epson	0155, 0206, 0359
Fujitsu	0059, 0069, 0074, 0075, 0282
Funai	0051, 0058, 0059, 0112, 0113, 0115, 0118, 0119, 0179, 0337
Hitachi	0008, 0012, 0026, 0066, 0084, 0092, 0093, 0120, 0172, 0173, 0255, 0270, 0271, 0282, 0320, 0335, 0338, 0342, 0344, 0346, 0347, 0365, 0382, 0448, 0456, 0467
LG	0031, 0053, 0066, 0116, 0117, 0140, 0161, 0164, 0175, 0195, 0269, 0277, 0282, 0300, 0309, 0317, 0320, 0323, 0328, 0342, 0343, 0346, 0349, 0350, 0366, 0368, 0377, 0466, 0471, 0478
Matsushita	0017
Mitsubishi	0008, 0026, 0031, 0053, 0066, 0084, 0093, 0098, 0150, 0178, 0289, 0320, 0339, 0344, 0350, 0376
Orion	0043, 0146, 0283, 0320, 0323, 0328, 0343, 0349, 0350
Panasonic	0016, 0017, 0020, 0022, 0023, 0035, 0052, 0056, 0084, 0085, 0133, 0163, 0193, 0284, 0286, 0290, 0292, 0320, 0325, 0347, 0356
Philips	0267, 0296, 0299, 0301, 0303, 0305, 0313, 0319, 0452, 0459, 0460
Pioneer	0008, 0026, 0094, 0095, 0161, 0320, 0345, 0347, 0349, 0350, 0458
Samsung	0004, 0005, 0006, 0007, 0008, 0012, 0026, 0031, 0036, 0050, 0053, 0076, 0077, 0079, 0114, 0124, 0125, 0126, 0127, 0139, 0161, 0183, 0185, 0190, 0191, 0258, 0264, 0277, 0282, 0320, 0323, 0334, 0337, 0342, 0343, 0349, 0350, 0351, 0373, 0453, 0468
Sanyo	0008, 0019, 0068, 0070, 0071, 0099, 0161, 0168, 0223, 0237, 0277, 0282, 0288, 0295, 0323, 0342, 0344, 0369, 0469
Sharp	0000, 0001, 0002, 0003, 0007, 0008, 0012, 0026, 0060, 0088, 0089, 0091, 0138, 0165, 0170, 0178, 0198, 0229, 0262, 0278, 0279, 0291, 0308, 0312, 0336, 0344, 0354, 0370, 0449, 0450, 0451, 0464, 0474, 0476
Sony	0038, 0044, 0045, 0047, 0055, 0104, 0105, 0107, 0110, 0123, 0184, 0220, 0248, 0249, 0251, 0252, 0254, 0326, 0343, 0344, 0371, 0374, 0457, 0475
Toshiba	0018, 0019, 0040, 0041, 0046, 0073, 0100, 0103, 0108, 0109, 0111, 0121, 0132, 0166, 0208, 0210, 0214, 0217, 0260, 0268, 0282, 0283, 0293, 0304, 0306, 0307, 0329, 0344, 0355, 0454
Victor	0012, 0014, 0015, 0056, 0064, 0065, 0067, 0169, 0174, 0297, 0314, 0344, 0350, 0375
Yamaha	0008, 0026, 0050, 0053, 0080, 0081, 0082, 0083, 0086, 0087

VTR

Aiwa	1024, 1026, 1027, 1069
Funai	1026, 1069
Hitachi	1011, 1026, 1027, 1028, 1046, 1062
LG	1010, 1026, 1031, 1047, 1054, 1056, 1071, 1103, 1221
Mitsubishi	1026, 1028, 1079
NEC	1027, 1064, 1065
Orion	1023, 1024, 1051, 1115, 1217
Panasonic	1000, 1022, 1044, 1055, 1068, 1072, 1085, 1090, 1091, 1120, 1121, 1214
Pioneer	1028, 1036
Samsung	1002, 1034, 1041, 1043, 1057, 1060, 1070, 1084, 1110, 1116, 1122, 1124, 1220, 1222
Sanyo	1032, 1065, 1070
Sharp	1003, 1033, 1077, 1107, 1127, 1219
Sony	1001, 1016, 1048, 1053, 1073, 1074, 1080, 1081, 1082, 1083, 1108, 1118, 1216
Toshiba	1004, 1016, 1027, 1028, 1037, 1049, 1052, 1086, 1087, 1097, 1109, 1112, 1194
Victor	1007, 1018, 1027, 1039, 1064, 1065, 1066, 1067, 1078, 1089, 1092, 1093, 1094, 1095, 1113, 1208, 1209, 1212, 1213, 1215, 1218
Yamaha	1064, 1065

DVD プレーヤー

Denon	2059, 2151, 2193, 2332
Funai	2137
Hitachi	2062, 2090, 2115, 2274, 2282, 2316, 2359, 2380
Kenwood	2041, 2151, 2348
LG	2002, 2033, 2038, 2057, 2129, 2133, 2189, 2191, 2223, 2238, 2270, 2288, 2335, 2373, 2375
Marantz	2328
Onkyo	2159, 2368
Panasonic	2011, 2024, 2034, 2042, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2151, 2159, 2164, 2166, 2167, 2172, 2173, 2175, 2209, 2214, 2275, 2277, 2278, 2281, 2282, 2283, 2301, 2374, 2470
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109, 2157, 2180, 2190, 2212, 2269, 2272, 2299, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2344, 2345, 2347, 2379
Samsung	2000, 2045, 2077, 2112, 2113, 2114, 2115, 2151, 2200, 2216, 2219, 2228, 2264, 2265, 2271, 2279, 2294, 2303, 2329, 2365
Sanyo	2134, 2145, 2217, 2292
Sharp	2006, 2040, 2088, 2091, 2182, 2194, 2220, 2221, 2231, 2236, 2293, 2340
Sony	2004, 2005, 2007, 2009, 2014, 2015, 2023, 2026, 2027, 2052, 2068, 2069, 2070, 2071, 2074, 2075, 2084, 2085, 2087, 2168, 2171, 2208, 2210, 2211, 2258, 2273, 2284, 2285, 2312, 2313, 2314, 2315, 2318, 2319, 2466
Teac	2149, 2333, 2355, 2383
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2048, 2049, 2054, 2055, 2072, 2073, 2076, 2078, 2079, 2086, 2145, 2159, 2218, 2233, 2256, 2259, 2296, 2369
Victor	2020, 2096, 2097, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2106, 2107, 2160, 2257, 2260, 2262, 2263, 2321, 2324, 2326, 2327, 2343, 2464, 2465, 2468, 2469, 2471
Yamaha	2056, 2064, 2065, 2080, 2081, 2082, 2083, 2089, 2118, 2151, 2323

Blu-ray プレーヤー / レコーダー

LG	2033
Panasonic	2011, 2209, 2214
Pioneer	2212
Samsung	2045, 2113
Sharp	2194, 2220, 2221
Sony	2075

DVD レコーダー

Hitachi	2062, 2090
LG	2033, 2057, 2223, 2238
Panasonic	2011, 2034, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2116, 2117, 2117, 2119, 2119, 2120, 2120, 2121, 2122, 2123, 2123
Pioneer	2016, 2017, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109
Samsung	2000, 2112, 2113, 2216, 2219
Sanyo	2217
Sharp	2088, 2091
Sony	2004, 2005, 2007, 2052, 2068, 2069, 2074, 2084, 2085, 2087, 2208, 2210, 2211
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2049, 2054, 2055, 2076, 2086
Victor	2100, 2101, 2106, 2107
Yamaha	2056

ケーブルテレビチューナー

Panasonic	3112, 3118, 3122
Pioneer	3001, 3006, 3094, 3098, 3114, 3116, 3120
Samsung	3069, 3089, 3114, 3120
Sony	3092, 3125
Toshiba	3122

衛星放送チューナー

Hitachi	4006, 4114, 4199, 4203
Humax	4025, 4030, 4060, 4097
Mitsubishi	4006, 4015, 4202
Panasonic	4006, 4035, 4036, 4121, 4124, 4126, 4198, 4221
Pioneer	4046, 4213
Samsung	4000, 4001, 4003, 4032, 4064, 4069, 4071, 4120, 4123, 4196, 4200
Sony	4067, 4070, 4213
Toshiba	4194, 4202, 4203
Victor	4029, 4065, 4089, 4117

CD プレーヤー

Yamaha	5082, 5095

CD レコーダー

Yamaha	5083

MD プレーヤー

Yamaha	5080, 5081, 5086

テープデッキ

Yamaha	5084, 5087

チューナー

Yamaha	5066, 5071, 5085, 5088, 5090, 5092, 5094

本機の基本設定 / 初期化（アドバンスドセットアップメニュー）

⑮
⑯
⑬

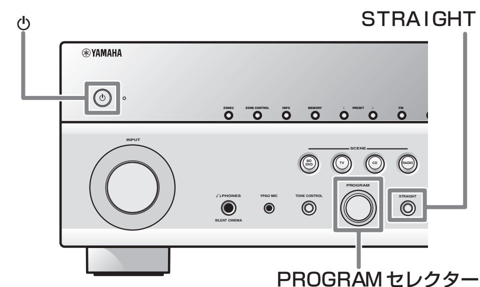
⑬ **数字キー**
⑮ **CODE SET**
⑯ **SOURCE/RECEIVER**

アドバンスドセットアップメニューでは、本機の基本設定やユーザー設定の初期化ができます。
アドバンスドセットアップメニューは次の方法で操作できます。

アドバンスドセットアップメニューの表示 / 設定

1 **本機の電源をスタンバイにする。**
本機の電源が ON の場合、⏻ を押して本機をスタンバイの状態にしてください。

2 **フロントパネルのSTRAIGHTを押しながら ⏻ を押す。**
フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されたら両方のキーから手を離してください。しばらくすると、先頭のメニュー項目が表示されます。



3 **PROGRAM セレクターを使って、次の中から設定したい項目を選ぶ。**
アドバンスドセットアップメニューでは次の機能を設定できます。

REMOTE ID	本機のリモコン ID を変更します。
TV FORMAT	テレビの信号方式に合わせて、本機の MONITOR OUT 端子、および HDMI OUT 端子から出力される壁紙の信号方式を切り替えます。
MON.CHK	HDMI 映像出力の制限を解除します。
INIT	本機の各種設定を初期化します。

4 **STRAIGHTを何度か押して設定値を選ぶ。**

5 **電源をスタンバイにしてから、再度電源をオンにする。**
選んだ設定が反映され、本機の電源がオンになります。初期化を選択した場合は、再度電源をオンにすると初期化が実行されます。

受信するリモコン ID を変更する



本機のリモコンは、ID（リモコン ID）が一致するレシーバーでのみ受信できます。ヤマハ製 AV レシーバーを複数使用する場合は、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにリモコン ID を設定します。
各レシーバーを同じリモコン ID に設定すれば、1 つのリモコンで 2 台のレシーバーを操作することも可能です。

ID1（初期設定）	ID1 に設定されたリモコンの操作を受信します。
ID2	ID2 に設定されたリモコンの操作を受信します。

工場出荷時には、リモコン側、レシーバー側ともに ID1 に設定されています。リモコンの混信を防ぎたい場合は、レシーバー / リモコン共にリモコン ID を変更してください。

● リモコン側の ID を変更するには

次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 1 からやり直してください。

1 **ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの ⑮CODE SET を押す。**

2 **リモコンの ⑯SOURCE/RECEIVER を押す。**

3 **希望するリモコン ID に応じてコードを入力する。**
リモコン ID1 に切り替える場合：
⑬**数字キー**を使って「5019」と入力します。
リモコン ID2 に切り替える場合：
⑬**数字キー**を使って「5020」と入力します。
ID 変更が完了すると、⑯**SOURCE/RECEIVER** が 2 回点滅します。

- 設定に失敗した場合は、⑯**SOURCE/RECEIVER** が 6 回点滅します。ID 変更をやり直すには、もう一度手順 1 から操作してください。
- リモコンコードを初期化（☞p.73）すると、ID1 に戻ります。

テレビの映像フォーマットの変更

TV FORMAT-NTSC

お使いのテレビに合わせて、本機の MONITOR OUT 端子および HDMI OUT 端子から出力される壁紙の信号方式を PAL か NTSC に切り替えます。

HDMI 映像出力の制限解除

MON.CHK - YES

本機とテレビを HDMI 接続した際、アナログ映像を解像度変換（アップスケーリング）して出力する際の制限を解除します。アップスケーリングの設定をするときやテレビ側が対応する解像度が検出されないときは、この設定で出力制限を解除してください。

YES（初期設定）	テレビ側が対応しない解像度の映像は出力しません。
SKIP	テレビ側の対応可否にかかわらず、本機に入力された映像をテレビに出力します。

各種設定の初期化

INIT- CANCEL

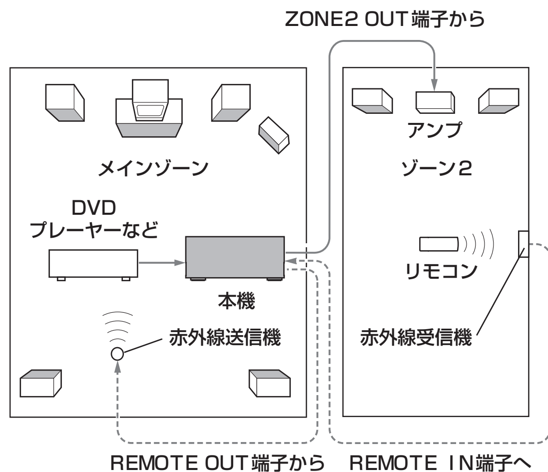
本機に記憶されている設定情報を初期化し、工場出荷時に戻します。

初期化する内容は下記から選択できます。

DSP PARAM	サウンドプログラムのすべての設定を初期化します。
VIDEO	アップスケーリングの設定（解像度 / アスペクト比）やテレビ画面のメニュー（オンスクリーンディスプレイ）の表示位置を初期化します。
ALL	すべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。
CANCEL（初期設定）	初期化しません。

マルチゾーン機能を使って複数の部屋で音楽を楽しむ

マルチゾーン音声システムの設定をします。ゾーン 2 機能を使えば、メインゾーンとゾーン 2 で別の入力ソースを再生することができます。また、付属のリモコンでゾーン2からメインルームにある本機を操作することも可能です。



アナログ音声信号のみゾーン 2 へ送信できます。ゾーン 2 で音声を出力したい場合は、外部機器を AV5-6、AUDIO1-2、VIDEO AUX のアナログ端子で接続してください。例えばゾーン 2 で HDMI 対応の DVD プレイヤーから音声を出力したい場合は、HDMI とアナログ音声端子の両方を使って本機とプレイヤーを接続する必要があります。

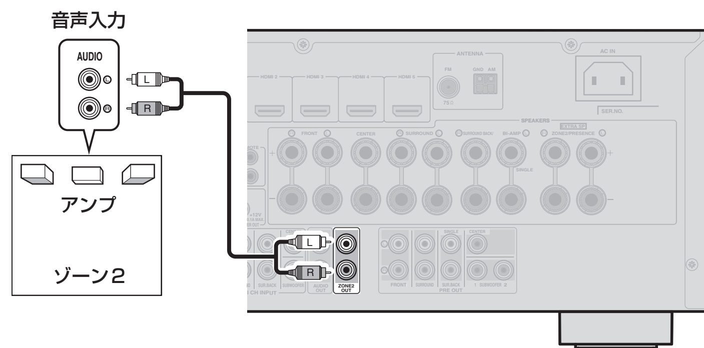
ゾーン２接続をする

本機のマルチゾーン機能を使用するには、次の機器が必要になります。

- ゾーン 2 で使用する赤外線受信機。
- メインゾーンで使用する赤外線送信機。ゾーン 2 でリモコン操作をした際に、赤外線受信機を経由してメインルームの赤外線送信機から信号が発信し、ゾーン 2 にいながらメインルームの CD、DVD プレイヤーを操作できます。
- ゾーン 2 で使用する外部アンプやスピーカー。

外部アンプを使用する

次のように接続した外部アンプをゾーン 2 に設置する。



予期しない雑音を避けるために、DTS にエンコードした CD などをゾーン 2 で再生しないでください。

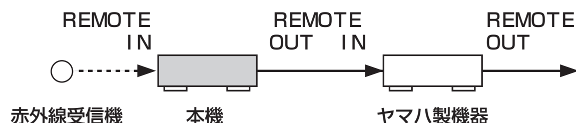
本機の内蔵アンプを使用する

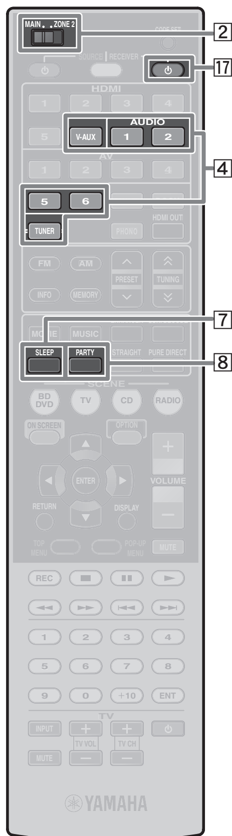
EXTRA SP 端子と、ゾーン 2 で使用するスピーカーを直接接続します（☞p.15)。

REMOTE IN/OUT 端子を使って別の部屋の外部機器を操作する

本機には、REMOTE IN と REMOTE OUT 端子が搭載されています。これらの端子を使えば、リモコンを使ってゾーン 2 から本機や外部機器を操作することができます（☞p.25)。

いくつかのヤマハ製機器は、本機の REMOTE 端子で接続することができます。これらの機器をお使いの場合は、赤外線送信機は不要です。下記のように REMOTE 端子を使って、最大6個までヤマハ製機器を接続することができます。





2 MAIN/ZONE2
4 入力ソース選択キー
7 SLEEP
8 PARTY
17 RECEIVER ⏻

ゾーン２を操作する

本機のリモコンを使って、次のようにゾーン 2 機器を選択したり操作することができます。

- ゾーン 2 の入力ソースを選ぶ。
- ゾーン 2 の入力ソースを「TUNER」にしたときに、FM または AM の選局をする。
- 外部アンプを経由して接続しているゾーン 2 機器の音量を調節する。

ゾーン 2 操作モードを有効にする

ゾーン 2 の機器をリモコンで操作する前に、2 **MAIN/ZONE2** をZONE2 に設定してください。

ゾーン 2 を操作する

ゾーン 2 への音声出力を有効 / 無効にするには
17 **RECEIVER** ⏻ を押す。

ゾーン 2 の入力ソースを切り替えるには
4 **入力ソース選択キー**を押す。

ゾーン 2 のスリープタイマーを有効にするには
スリープタイマーで設定した時間が経過すると、ゾーン 2 機器は自動的にスタンバイモードに切り替わります。7 **SLEEP**を繰り返し押してスリープタイマーを設定してください。



パーティーモードで複数の部屋で音楽を楽しむ

メインゾーンで再生中の音楽を同時にゾーン 2 でも楽しむことができます。ホームパーティーなどでバックグラウンドミュージックを利用するときなどに便利です。パーティーモードを使うためには、「パーティーモード設定」を「有効」に設定します（☞p.68）。

8 PARTY を押して、パーティーモードをオン / オフする

本機のフロントパネルディスプレイやテレビ画面に「Party Mode On」や「パーティーモード オン」または「Party Mode Off」や「パーティーモード オフ」と表示されます。パーティーモード中は、フロントパネルディスプレイの ZONE2 インジケーターが点灯します。

> ZONE2 OUT 端子から出力される音声信号は、2 チャンネルのステレオ音声にダウンミックスされます。

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。
対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源をオンにできない	3 回続けて保護回路が作動した。	3 回続けて保護回路が動作すると、製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。	—
電源をオンにしてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	—
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	簡易ガイド
電源をオフにできない、または本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	リモコンにセットした電池が切れている。	すべての電池を新品に変えてください。	簡易ガイド
フロントパネルディスプレイに残り時間が表示され、スタンバイになる	操作しない状態が長時間続いたためオートパワーダウン機能が作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—
		設定メニューの「タイマー」（ファンクション設定 →オートパワーダウン →タイマー）を表示して、設定を「オフ」にしてください。	68
使用中に突然電源がスタンバイになる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器のケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	21、簡易ガイド
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	簡易ガイド
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続し、著作権保護（HDCP）エラーが発生していないことを確認してください。	—
	（スタンバイスルー機能をオンにしている場合）HDMI のオーディオ出力がテレビにのみ出力されるよう設定されている。	設定メニューの HDMI オーディオ出力設定（HDMI 設定 →音声出力）を、「アンプ」以外に設定してください。	67
	再生したいソースが正しく選ばれていない。	**入力ソース選択キー**で、再生したいソースを正しく選んでください。	32
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号を再生してください。	—
映像が出ない	HDMI OUT1-2 端子に接続したテレビが対応していない映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューを表示させ、「INIT」の項目から「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	76
		アドバンスドセットアップメニューの「MON.CHK」が「YES」に設定されているかご確認ください。	76
	テレビで適切な映像入力が選ばれていない。	テレビを操作して適切な映像入力を選択してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーが故障している。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認し、該当するスピーカーチャンネルが点灯している場合は、他のスピーカーを接続して、音が出るか確認してください。音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。	11
	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	21、簡易ガイド
	該当スピーカーから音声信号が出力されない設定になっている。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認してください。該当するチャンネルが消灯している場合は以下の項目をご確認ください。 1) 他の入力ソースに切り替えて試してみてください。 2) 選択中のサウンドプログラムでは、該当スピーカーから音声は出力されません。他のサウンドプログラムを選択してみてください。 3) 本機側で、該当するスピーカーがなし（無）に設定されている可能性があります。設定メニューのスピーカー設定を表示して、該当するスピーカー（スピーカー設定 →構成）を有効にしてください。	11、62
	設定メニューの「スピーカー設定」で、該当するスピーカーの音量が最小になっている。	設定メニューのスピーカー設定を表示して、スピーカーの音量（スピーカー設定 →音量）を調節してください。	63
	（片側のチャンネルの音声がほとんど出ない場合）スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	設定メニューの「音量」（スピーカー設定 →手動設定 →音量）で、各スピーカーの音量バランスを設定し直してください。	63
	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	33
センタースピーカーからのみ音声が出る	モノラルの再生ソースにサウンドプログラムをかけた場合、使用するサラウンドデコーダーによっては、すべての音声がセンタースピーカーから出力されることがある。	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	33

症状	原因	対策	参照ページ
プレゼンススピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	**STRAIGHT** を押して、ストレートデコードモードをオフにしてください。	34
	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	33
サラウンドスピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	**STRAIGHT** を押して、ストレートデコードモードをオフにしてください。	34
	再生するソースやサウンドプログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他のサウンドプログラムを選択してみてください。	33
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	オプションメニューの拡張サラウンドの設定が「オフ」になっている。または拡張サラウンドの設定が「自動判別」の状態で、入力されている信号にサラウンドバックの信号が含まれていない。	拡張サラウンドの設定を、「オフ」および「自動判別」以外に設定してみてください。	41
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーが接続されていない、または無効に設定されている。	サブウーファーが接続されていることを確認し、設定メニューの「サブウーファー」（スピーカー設定 → 手動設定 →構成 → サブウーファー）の設定が「使用する」になっていることを確認してください。	62
	サブウーファーの電源がオフになっている。	サブウーファーの電源をオンにしてください。サブウーファーにオートパワーオフ機能がある場合は、パワーオフになる感度を下げるか無効に設定してください。	—
	再生しているソースに LFE（☞p.85）や低音信号が含まれていない。	エクストラベースをオンにすると、フロントチャンネルの音をサブウーファーから出力することができます。	—
接続したい映像 / 音声端子の組み合わせが見当たらない	外部機器の映像出力を接続した入力ソースと、他の入力ソースの音声端子を組み合わせてご使用ください。	映像出力を接続した入力ソースの入力選択メニューを表示させ、「音声入力端子割り当て」を選んで音声入力する端子を選んでください。	23
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
「ジー」、「ブーン」などの雑音が入る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	—
	DTS-CD を再生している。	ノイズだけが再生される場合： DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。 本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。	—
		再生 / スキップ操作時にノイズが発生する場合： DTS-CD を再生する際、入力ソース選択後に入力選択メニューを表示して「デコードモード」を「DTS」に設定してください。	53
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
	「音量の上限」が小さい音量に設定されている。	大きい音量に設定し直してください。	65

HDMI™

症状	原因	対策	参照ページ
フロントパネルディスプレイの HDMI インジケーターが点滅している	HDMI 接続に問題が発生している。	HDMI ケーブルを差し直してみてください。	—
		映像設定（情報メニュー →ビデオ信号）で本機が対応していない HDMI 映像が入力されていないか確認してください。	70
音声や映像が出ない	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—
（HDMI コントロール機能使用時）テレビのリモコンを操作時、テレビの音声が本機より出力されない	テレビの音声出力が本機に接続されていない。またはテレビ側の設定と合っていない。	テレビの音声出力を本機に接続し、「TV 音声入力」で接続した入力ソースを選んでください。 （設定メニュー →HDMI 設定 →TV 音声入力）	67
	（オーディオリターンチャンネル機能使用時） オーディオリターンチャンネル機能が作動していない。	テレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応しているか確認してください。「ARC（オーディオリターンチャンネル）」をオンにしてください。 （設定メニュー→HDMI 設定 →ARC（オーディオリターンチャンネル））	67

付録

FM/AM 放送の受信

FM

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	簡易ガイド
		屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		モノラルで受信してください。	45
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		手動で選局してください。	43
“No Presets”と表示される	プリセット放送局が登録されていない。	お好みの FM/AM 放送局をプリセット局として登録してから操作してください。	43
“Wrong Station”と表示される	無効な FM/AM 周波数を入力した。	FM/AM 放送局で有効な範囲の周波数を入力してください。	—

AM

症状	原因	対策	参照ページ
自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	—
		屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。	—
		手動で選局してください。	43
オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができない。	マニュアルプリセットをしてください。	43
「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	ループアンテナが接続されていない。	AM ループアンテナを接続してください。接続しても改善されない場合は屋外アンテナを接続してください。	簡易ガイド
	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

iPod/iPhone

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod/iPhone との接続を確認中です。		—
	iPod/iPhone から情報を取得中です。		—
Connect error	iPod/iPhone との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックを接続し直してください。	46
		iPod/iPhone をヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックにセットし直してください。	46
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod/iPhone が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	—
iPod connected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックに正しく接続されました。		—
Disconnected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックから取りはずされました。		—
Unable to play	何らかの原因で iPod/iPhone を再生できません。	iPod/iPhone に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—

Bluetooth

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器をペアリングしています。		—
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続を確立しています。		—
Completed	ペアリングが完了しました。		—
Canceled	ペアリングが中止されました。		—
BT connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		—
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		—
Not found	Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	（ペアリング時） – ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時にする必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。 （接続時） – Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。 – ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が 10 メートル以上離れていないか確認してください。	—
		– Bluetooth 機器と本機がペアリングされていない可能性があります。再度ペアリングしてください。	50

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、リモコン受光部の正面から左右 30° 以内の範囲で操作してください。	—
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	簡易ガイド
	リモコン側と本体側のリモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	71、75
外部機器をリモコンで操作できない	リモコンコードが正しく設定されていない。	「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	72、74
		「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	72、74
		カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ などのリモコンキーが動作しない場合は、下記の操作をしてみてください。 DVD のディスクメニューなどで操作できない場合： **入力ソース選択キー**を使ってもう一度入力ソースを選択してから操作してください。 オプションメニュー /ON SCREEN メニューで操作できない場合： **SOURCE/RECEIVER** を押して（オレンジに点灯）、もう一度リモコンを操作してください。	—
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合がある。		—

用語／技術解説

音声に関する用語

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク（Lip sync）

HDMI がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動で補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動で検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機は AAC デコーダーを搭載しているため、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド L/R）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。
従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

Dolby Pro Logic IIx

ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声信号も処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード（2 チャンネル音声入力時のみ）、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surround は、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント L/R チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動で調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理をします。

Dolby TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

DTS Express

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワークストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS-HD High Resolution Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD Master Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力された DSD 信号の再生が可能です。

DTS Neo:6

2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 〜 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

サウンドプログラムに関する用語

コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3 や AAC など、携帯音楽プレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによるサウンドプログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。
サウンドプログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれるサウンドプログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマ DSP

サラウンド L/R スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド L/R スピーカーの音場を再現することで、サウンドプログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント L/R スピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

シネマ DSP 3D

音場の高さ方向の情報を含んだ、実際に測定された音場データです。CINEMA DSP 3D モードでは、より緻密で立体的な３ D 感覚の音場をリスニングルームに再現します。

映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号（青色差信号）および Pr/Cr 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているため、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるテレビを本機に接続してください。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、１本のケーブルで伝送できます。

x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

映像信号変換表

本機では、入力されたアナログ映像信号を HDMI 映像信号に変換して出力することができます。また、入力された HDMI 映像信号を別の解像度の HDMI 映像信号に変換して出力することもできます。

「アナログ端子間変換」を「オン」にしている場合は、入力されたアナログ映像信号を別の信号方式に変換して出力することができます（☞p.66）。
変換可能な映像信号と解像度は次の表のとおりです。

○：変換可能

		HDMI 出力					コンポーネントビデオ出力 /D4 ビデオ出力				ビデオ出力
	解像度	480i/576i	480p/576p	720p	1080i	1080p	480i/576i	480p/576p	720p	1080i	480i/576i
HDMI 入力	480i/576i	○	○	○	○	○					
	480p/576p		○	○	○	○					
	720p			○							
	1080i				○						
	1080p					○					
コンポーネントビデオ入力 /D4 ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○				○
	480p/576p		○	○	○	○		○			
	720p			○					○		
	1080i				○					○	
ビデオ入力	480i/576i	○	○	○	○	○	○				○

HDMI について

● 音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声入力端子（OPTICAL または COAXIAL 端子）を使って音声入力すれば、音声解説を楽しめます。
- 再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

- お使いのDVDプレーヤーによっては、コピープロテクトがかかったDVDオーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP非対応のHDMIまたはDVI端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクなどの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

● 映像信号について

以下の解像度に対応しています。

- 480i ／ 60Hz
- 480p ／ 60Hz
- 576i ／ 50Hz
- 576p ／ 50Hz
- 720p ／ 60Hz、50Hz
- 1080i ／ 60Hz、50Hz
- 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

商標について



ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 DD、ドルビーラボラトリーズの商標です。



米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。



AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239	5848391	5 297 236
5,285,498	5,299,240	5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170	5 400 433	07/640,550
5,781,888	5,264,846	5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189	5 752 225	98/03037
5,703,999	5,581,654	5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574	5,274,740	98/03036
5,299,238	08/506,729				

iPod™/iPhone™

iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth®

Bluetoothは、Bluetooth SIGの登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

SILENT™
CINEMA

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

主な仕様

● 入力端子

• アナログ音声
  ステレオ × 6（PHONO、AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2、V-AUX）
  マルチチャンネルインプット × 1（8 チャンネル入力）

• デジタル音声
  光 × 2（AV1、AV4）
  同軸 × 2（AV2、AV3）

• 映像
  コンポジット × 5（AV3、AV4、AV5、AV6、V-AUX）
  D4 ビデオ× 2 （AV1、AV2）
  コンポーネントビデオ× 2 （AV1、AV2）

• HDMI 入力
  HDMI（フロントパネル）× 1（V-AUX）
  HDMI（リアパネル）× 5（HDMI1-5）

• その他
  DOCK × 1（ステレオ音声、コンポジット映像）

● 出力端子

• アナログ音声
  スピーカー出力 × 9（7 チャンネル）（フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R*1、エクストラスピーカー L/R*2）

*1 割り当て変更可能 [SURROUND BACK、BI-AMP（フロント L/R）]

*2 割り当て変更可能 [ZONE2、PRESENCE]

  PRE OUT × 7（フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R）
  サブウーファー出力 × 2
  AV OUT × 1
  AUDIO OUT × 1
  ZONE2 OUT × 1

• 映像
  MONITOR OUT
  - コンポジット × 1
  - D4 ビデオ× 1
  - コンポーネントビデオ × 1
  AV OUT
  - コンポジット × 1

• HDMI 出力
  HDMI アウト× 2（HDMI OUT 1-2）

● リモート端子

• REMOTE IN × 1

• REMOTE OUT × 1

• TRIGGER OUT x 1

● HDMI

• HDMI 規格 : Deep Color、“x.v.Color”、Auto Lips Sync、ARC（Audio Return Channel）、3D

• 映像フォーマット
  - VGA
  - 480i@60Hz
  - 576i@50Hz
  - 480p@60Hz
  - 576p@50Hz
  - 720p@50/60Hz
  - 1080i@50/60Hz
  - 1080p@24/50/60Hz

• アナログアップコンバージョン
  - 480i@60Hz（NTSC）
  - 576i@50Hz（PAL）
  - 480p@60Hz
  - 576p@50Hz
  - 720p@50/60Hz
  - 1080i@50/60Hz

• アップスケーリング
  - 480i →480p/720p/1080i/1080p
  - 480p →720p/1080i/1080p
  - 576i →576p/720p/1080i/1080p
  - 576p →720p/1080i/1080p

• 音声フォーマット
  - Dolby Digital
  - DTS
  - DSD 6ch
  - Dolby Digital Plus
  - Dolby TrueHD
  - DTS-HD
  - PCM 2 ～ 8 チャンネル（Max 192kHz/24bit）
  - AAC

• 著作権保護 : HDCP 準拠

● チューナー

• アナログチューナー
  FM/AM x 1（TUNER）

● 対応デコードフォーマット

• デコードフォーマット
  - Dolby True HD、Dolby Digital Plus
  - Dolby Digital、Dolby Digital EX
  - DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution、DTS Express
  - DTS、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
  - AAC

• ポストデコードフォーマット
  - Dolby Pro Logic
  - Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic II Game
  - Dolby Pro Logic IIx Music、Dolby Pro Logic IIx Movie、Dolby Pro Logic IIx Game
  - DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

● オーディオ部

- 定格出力（20Hz 〜 20kHz、0.09%THD、6Ω）
  フロント L/R 95W/ch
  センター 95W
  サラウンド L/R 95W/ch
  サラウンドバック L/R 95W/ch
- ダイナミックパワー
  フロント L/R（6/4/2Ω）............ 135/165/210W
- 実用最大出力（JEITA）
  1kHz、10%THD、6Ω 135W
- 入力感度 / 入力インピーダンス
  PHONO（MM）............ 3.5mv/47kΩ
  AV5 他 200mV/47kΩ
- 最大許容入力
  PHONO（MM）............ 60mV 以上
  AV5 他（1kHz、0.5%THD）............ 2.3V 以上
- 出力電圧 / 出力インピーダンス
  AV OUT 200mV/1.2kΩ
  PRE OUT 1.0V/1.2kΩ
  SUBWOOFER（2 チャンネルステレオ＆
  Front SP 設定 Small）............ 1.0V/1.2kΩ
  ZONE2 OUT 200mV/1.2kΩ
- ヘッドホン出力 / 出力インピーダンス
  AV5 他（1kHz、50mV、8Ω）............ 100mV/560Ω
- 周波数特性
  AV5 他 →フロント .... 10 〜 100kHz、+0/–3dB
- RIAA 偏差
  PHONO（MM）............ 0 ± 0.5dB
- 全高調波歪率
  PHONO（MM）→AUDIO OUT
  （20Hz 〜 20ｋHz、1V）............ 0.02%以下
  AV5 他 →フロント（DIRECT）
  （20Hz 〜 20ｋHz、50W、6Ω）............ 0.06%以下
- S/N 比（IHF ネットワーク）
  PHONO（MM）入力ショート
  （2.5mV→AUDIO OUT）............ 80dB 以上
  AV5 他（DIRECT）入力ショート
  （250mV→フロントスピーカー）............ 100dB 以上
- 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
  フロントスピーカー .... 150μV 以下
- チャンネルセパレーション
  PHONO（MM 入力ショート、1kHz/10kHz）
  .... 60dB/55dB 以上
  AV5 他（入力 5.1kΩ ショート、1kHz/10kHz）
  .... 60dB/45dB 以上
- 音量可変範囲 .... MUTE、− 80dB 〜 +16.5dB
- トーンコントロール特性
  BASS（可変幅）............ ± 6dB/0.5dB ステップ、50Hz
  BASS（ターンオーバー周波数）............ 350Hz
  TREBLE（可変幅）.... ± 6dB/0.5dB ステップ、20kHz
  TREBLE（ターンオーバー周波数）............ 3.5kHz
- フィルター特性（fc ＝ 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
  H.P.F（フロント、センター、サラウンド、
  サラウンドバック SMALL）............ 12dB/oct.
  L.P.F（サブウーファー）............ 24dB/oct.

● ビデオ部

- ビデオ信号方式 .... NTSC
- ビデオコンバージョン .... NTSC/PAL
- 信号レベル
  コンポジットビデオ 1Vp-p/75Ω
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
  .... 1Vp-p/75Ω（Y）、0.7Vp-p/75Ω（PB/PR）
- ビデオ最大許容入力（ビデオコンバージョンオフ）
  .... 1.5Vp-p
- S/N 比 .... 50dB 以上
- モニターアウト周波数帯域（ビデオコンバージョンオフ）
  コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
  .... 5Hz 〜 60MHz、− 3dB

● FM チューナー部

- 受信周波数範囲 .... 76.0 〜 90.0MHz
- 50dB SN 感度（IHF）
  モノ .... 3.0μV（20.8dBf）
- S/N 比（IHF）
  モノ / ステレオ 74dB/70dB
- 歪率（1kHz）
  モノ / ステレオ 0.3/0.3%
- アンテナ入力 .... 75Ω、アンバランス

● AM チューナー部

- 受信周波数範囲 .... 531 〜 1611kHz

● 総合

- 電源電圧 .... AC 100V 50/60Hz
- 消費電力 240W
- 待機電力
  HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ
  .... 0.2W 以下
  HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン
  HDMI 無信号時 .... 2.7W 以下
- 寸法（幅×高さ×奥行き）........ 435 × 171 × 367.5mm
- 質量 11.2kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

A

B

C

D

F

H

I

M

O

P

R

S

T

V

Y

数字

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月～金曜日 10:00～18:00　土曜日 10:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルサポートページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-4830

FAX （053）463-1127

受付：月～金曜日 9:00～18:00　土曜日 9:00～17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理品お持ち込み窓口
受付：月～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料 故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代 修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料 製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

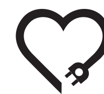
● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！



愛情点検

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。



すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia　WU39250-3